Hokkaido University News
北大時報
令和6年
11
No. 848　November 2024

秋の叙勲に本学から5氏
令和6年度新渡戸カレッジ入校式を開催
第63回全国七大学総合体育大会総合優勝を総長へ報告

No.848　令和6年

目　次

令和6年度北海道大学次世代AI博士人材フェローシップ採用者ガイダンスを開催

秋のガレージセールを開催

全学ニュース

1　創基150周年カウントダウンイベント「北海道大学ホームカミングデー2024」を開催
19　秋の叙勲に本学から5氏
24　事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施
24　北海道大学職員採用試験内定者懇談会を開催
25　令和6年度北海道大学次世代AI博士人材フェローシップ採用者ガイダンスを開催
26　令和6年度新渡戸カレッジ入校式を開催
27　ベスト・エクセレント・ティーチャー表彰式を挙行
28　令和6年度Integrated Science Program（ISP）修了証書授与式を挙行
28　令和6年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―　被表彰者の決定
29　新入留学生オリエンテーションを実施
30　第63回全国七大学総合体育大会総合優勝を総長へ報告
31　秋のガレージセールを開催
32　高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
33　2024年度国際インターンシップ全学成果報告会を開催
34　「北海道大学宇宙研究フォーラムキックオフシンポジウム」を開催
35　コルスンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使による講演会を開催
36　「東京サピアアカデミー」で曾根輝雄北海道ワイン教育研究センター長が講義を実施
37　北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
40　令和6年度第1回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施
41　令和6年度第2回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施
42　第4回鈴木章賞授賞式及び第8回ICReDD国際シンポジウムを開催
43　創成研究機構ワクチン研究開発拠点がBioJapan 2024に初出展
44　高校生・高専生向け起業体験プログラム「StartupBaseU18 in 北海道大学」を実施
45　アントレプレナーシップ教育プログラムを中富良野町にて実施
46　「Vtuter ～VTuberと一緒に社会課題を学ぼう～」を開催
47　産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催
48　マサチューセッツ大学アマースト校の研究担当理事一行が本学を来訪
49　タルトゥ大学との国際教育連携を確認
50　米国マサチューセッツ大学アマースト校との研究ワークショップを開催
51　第8回道総研オープンフォーラムに横田　篤理事・副学長が登壇
52　システミックデザイン体験 1day Boot Campプログラムを開催
53　ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック!」を実施
54　博士人材と企業の情報交換会第56回「赤い糸会」を対面で開催
55　和歌山県古座川町×北大まるごと交流祭を開催

部局ニュース

56　文学研究院FD「なぜ北大も男だらけなのか」を開催
57　会計専門職大学院が税理士制度説明会を開催
57　令和6年度分島亮研究奨励金授与式を挙行
58　マハサラカム大学獣医学部が生命科学院・理学研究院・理学部
59　令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム（SMatS）第6期生採用式を開催
60　医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンターが第3回北海道大学医療AIシンポジウムを開催
61　医学研究院が動物慰霊式を挙行
62　令和6年度第2回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議を開催
63　工学研究院等自衛消防訓練（ShakeOut消防訓練）を実施
64　農学部・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催
65　農学研究院・農学院・農学部が台湾大学生物資源農業学部と部局間交流協定を締結
66　獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所で動物慰霊式を挙行
67　水産科学未来人材育成館の完成披露式を挙行
68　国際広報メディア・観光学院がソウルにて留学生向け説明会を実施
69　メディア・コミュニケーション研究院が読売新聞・JICAと「新しい世界」をテーマにシンポジウムを開催
70　第10回北大・部局横断シンポジウムを開催
72　スラブ・ユーラシア研究センターがニューヨーク大学と共催で国際ワークショップ「ブリヤーチヤ:シベリア・ロシア・ユーラシアの架け橋」を開催
73　北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場余市果樹園の一般公開イベントを開催
74　環境健康科学研究教育センターが令和6年度前期「社会と健康」修了生にディプロマ授与
75　北極域研究センターと公益財団法人オホーツク生活文化振興財団が協定を締結
76　学生企画ミュージアムグッズに関する令和6年の新展開
78　博物館実習を実施
79　附属図書館で防災訓練を実施

レクリエーション

80　令和6年度学内教職員バレーボール大会の開催
81　2024年度 第54回 札幌社会人サッカーリーグに出場

表敬訪問　82

人事　83

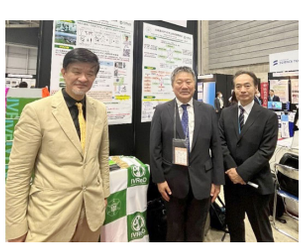
84　新任教授紹介

資料

85　在籍学生数（令和6年10月1日現在）
87　広報誌等一覧（令和6年10月調査）

コルスンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使による講演会を開催

第4回鈴木章賞授賞式及び第8回ICReDD国際シンポジウムを開催



創成研究機構ワクチン研究開発拠点がBioJapan 2024に初出展

第8回道総研オープンフォーラムに横田　篤理事・副学長が登壇

表　紙：第63回全国七大学総合体育大会総合優勝を総長へ報告（関連記事30頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景㊻　イチョウ並木（北13条西5～7丁目）

▌全学ニュース

創基150周年カウントダウンイベント「北海道大学ホームカミングデー2024」を開催

9月27日（金）から9月30日（月）の4日間、「北海道大学ホームカミングデー2024」を開催しました。

2026年に迎える創基150周年に向けて、学内外の機運醸成を図るカウントダウンイベントとして開催され、全学行事並びに各部局・同窓会主催行事に延べ1,518人が参加されました。

来年度の開催は、令和7年9月27日（土）を予定しておりますので、同窓生はもとより一般市民の皆様のご参加をお待ちしております。

（社会共創部広報課卒業生・基金室）

全学行事

社会共創部広報課卒業生・基金室

歓迎式典・記念講演会

9月28日（土）10:00～12:00　　学術交流会館講堂　　参加者173名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を対面（集客）とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

はじめに寳金清博総長から、創基150周年を目前に、多様なステークホルダーからの支持を獲得するため、本学の素晴らしさを戦略的に発信し、北大ブランドの価値を高めることが重要であること、また、海外では同窓生との結びつきが社会連携という意味で最も大切なものの一つであることについて説明がありました。

続いて、村山明宏副理事・情報科学研究院特任教授による記念講演会では、「北海道大学における先端半導体への取組」と題し、現代社会における先端半導体の重要性や、本学が北海道の半導体産業の成長に大きく貢献することが期待されていることについて講演がありました。

次に、本学卒業生初のプロ野球選手となった埼玉西武ライオンズ投手の宮澤太成さんと第171回直木賞候補作家の岩井圭也さんが、学生時代の思い出や北大での経験がどのように現在生かされているかなどを語った、メッセージムービーの上映がありました。

その後、学生団体による歓迎ステージとして、北海道大学交響楽団によるドヴォルザーク作曲　弦楽四重奏第12番「アメリカ」第1楽章の演奏があり、引き続き北海道大学応援団・応援吹奏団による校歌「永遠の幸」が披露されました。

フィナーレは、恵迪寮同窓会の呼びかけによる「都ぞ弥生」の斉唱の後、横田　篤理事・副学長による閉会の挨拶で締め括りました。

当日会場にお越しいただいた参加者及びオンラインでの視聴者の皆様には、北海道大学の現在地を体感いただける良い機会になったことと思います。

開会の挨拶を述べる寳金総長

講演する村山副理事

岩井圭也さんのメッセージムービー

北海道大学交響楽団による演奏

応援団・応援吹奏団による演舞

「都ぞ弥生」の斉唱

部局・同窓会主催行事

文学部・教育学部・法学部・経済学部

文学部・教育学部・法学部・経済学部合同企画　公開シンポジウム

9月28日（土）14:00～16:00　　人文・社会科学総合教育研究棟　　参加者127名

文系4部局合同企画は、公開シンポジウム「いじめに無関心でいられない人たちへ」と題して、同窓生、教職員、学生及び市民を対象に実施しました。今回は集客開催とオンラインでの同時配信により実施し、127名の参加がありました。

山本文彦理事・副学長、今年度担当部局の辻　智子教育学部長、宮﨑隆志教育学部同窓会会長の挨拶に続き、加藤弘通准教授による講演が行われました。休憩をはさんだ後半では、同窓生で北海道放送株式会社の泉優紀子記者が参加者から寄せられた質問を紹介し、内容に切り込む形で、白熱した対談が行われました。

講演と加藤准教授と泉記者の対談を通じて、いじめ対応の現状と課題に対する理解を深めることができ、さらにはいじめをどう理解し、何ができるかを、会場とオンライン参加者全員がともに考える、濃密で貴重な時間となりました。

講演する加藤准教授

加藤准教授と泉記者による対談

熱心に講演に耳を傾ける参加者

文学部同窓会

文学部同窓会総会

9月28日（土）12:30～13:30　　人文・社会科学総合教育研究棟　　参加者10名

文学部同窓会は、9月28日（土）に、人文・社会科学総合教育研究棟にて、第25回総会を対面とZoomによる遠隔配信で開催しました。

残念ながら、Zoomによる参加者は得られませんでしたが、一般会員4名、役員6名、計10名により審議を行い、2023年度の活動報告、会計決算、会計監査報告などを承認し、2024年度の会計予算、活動計画などを決議しました。

総会後は、文系4学部合同の公開シンポジウムに5名の同窓生が参加しました。また、今年度は、当初計画していなかった懇親会を、来年3月に開催予定の文学研究院・文学部の卒業・修了祝賀会の際に注文するオードブルの試食会を兼ねて急遽開催し、同窓でもある文学研究院長及び文学事務部事務長などの参加もあり、10名を超える参加者を得て、久しぶりに会員相互の懇親のひとときを持つことができました。

教育学部同窓会

教育学部同窓会総会

9月28日（土）16:30～18:00　　人文・社会科学総合教育研究棟　　参加者24名

令和6年度の教育学部同窓会総会は、9月28日（土）から行われました。会場となった人文・社会科学総合研究教育棟には、卒寿を超えた4期生から66期生（2018年卒業）まで24名の会員が集いました。今回からオンラインでの参加が可能となりましたが、オンラインによる参加者はありませんでした。

宮﨑隆志会長の挨拶につづいて、来賓の辻　智子教育学部長から祝辞と母校の直近の様子が伝えられました。また審議に先立ってこの間の物故者に黙祷が捧げられました。

議案は、後藤隆之氏（23期）が議長となり進められ、審議の結果は次のとおりです。

①「2023年度会務報告」「2023年度決算報告」「監査報告」＝満場一致で承認
②「2024年度事業計画（案）」「2024年度予算（案）」＝承認
学部・学院との連携強化について宮﨑会長から具体案の捕足説明
会場から会報のネット配信、在学生の会員化と入学時の会費徴収の質疑
③「会則の改正（案）」＝承認
学部・学院の教員が会員になることについて質疑
地域や職域、学職等多面的な支部活動について質疑
④「役員の改選」＝承認
宮﨑会長の再任、近藤健一郎副会長の新任、幹事長、常任幹事（4名）と55名の幹事を承認、新体制が発足

総会の終了後、会員の杉浦正人さんの近著『さっぽろ再見　ちょっとディープなまち歩き』（北海道新聞社）の紹介がありました。

また懇親会が企画され、13名の会員が参加しました。

同窓会総会で挨拶する辻学部長

法学部同窓会

法学部同窓会2024年度定時総会、法学部同窓会主催講演会、法学部同窓会会員懇親会

法学部同窓会2024年度定時総会

9月28日（土）17:10～17:40　　インフォメーションセンター「エルムの森」内「カフェdeごはん」　　参加者33名

佐々木亮子同窓会長の開会挨拶、ご来賓である尾崎一郎法学研究科長・法学部長のご挨拶後、7月11日（木）開催の同窓会役員会において審議され、総会提出議案として承認された次の議案について審議し、全会一致で承認されました。

①2023年度事業報告（案）、同収支決算報告書（案）
②2024年度事業計画（案）、同収支予算（案）
③役員の改選（案）

議案第3号の役員改選案が満場一致で承認されたことにより、佐々木亮子氏が6年間務められた同窓会長を退任され、藤田美津夫氏（27期）が新たに同窓会長に就任されることとなりました。

また、席上、事務局より次の事項について、報告がされました。

（1）2024年3月4日（月）に2023年度（第3回）北大法学部同窓会賞受賞者が決定され、同3月25日（月）の令和5年度学士学位記授与式当日の午後1時30分から法学部小会議室において授賞式が挙行され、受賞者（個人3名、ただし、課外活動優秀者の宮澤太成会員については、プロ野球キャンプ中のため残念ながら欠席、団体1団体）に佐々木同窓会長から表彰状及び金一封が授与されたこと。また、尾崎法学研究科長・法学部長がご来賓として出席され、受賞者にお祝いと激励の挨拶を述べられたこと。個人の部3名のうち2名は学業成績優秀者として、1名は課外活動優秀者（北大初のプロ野球選手に登録される）としてそれぞれ受賞されたこと。
（2）2016年度から着手した同窓会の財政健全化計画は2020年度をもって一応達成された旨、既に報告済みであるところ、その後さらに3年延長して取組（主に会費納入率の向上）を継続した結果、2023年度決算による繰越金は、計画着手前の約5.4倍となる1,615万円となり、同窓会の恒久的な運営が可能となる強固な財政基盤が確立されたこと。

なお、総会開会に当たり、事務局より、本日の総会（この後開催される講演会及び懇親会も同じ）には在学生会員11名が参加されていることを会場内にアナウンスしたところ卒業生会員等から大きな拍手が送られました。

開会挨拶をする佐々木同窓会長

総会の様子

就任挨拶をする藤田新同窓会長

法学部同窓会主催講演会

9月28日（土）17:40～18:30　　インフォメーションセンター「エルムの森」内「カフェdeごはん」　　参加者32名

ホームカミングデー当日に行われていた同窓会主催講演会は、コロナ禍による中断を経て昨年3年ぶりに開催することが出来ましたが、引き続き本年も会員の皆様に深い感銘をもたらす充実した講演会を運営することが出来ました。

本年の講演は「北大法学部の70年を振り返り、これからの70年を考える」と題し、講師は尾崎一郎法学研究科長・法学部長が務めました。レジュメに沿いながら、尾崎研究科長・学部長の生まれ育った時代環境（大学や大卒エリートへの社会の敬意が存在し得た時代）、そして1994年9月に本学に着任してから30年に及び実体験してきた大学を巡る時代・社会環境の激変（大学の持続的な大衆化、受験業界の産業化、知のエリートへの敬意の希薄化、グローバル化に伴う大学の勝者育成機関化、国立大学法人化による経営へのシフト化等々）を踏まえながら、未来に向けて、これからの大学及び本学の役割（存在意義、存在価値）を、大学とは誰のためのものかという原点思考に立ち返り考察していく時代を迎えている旨の講演がなされました。

最後に、そのような時代の中で、在学生会員の皆様には「自由な精神、広い視野、仲間とのネットワーク重視」を贈る言葉としたい旨が述べられ、講演会は無事終了しました。卒業生会員・在学生会員それぞれに極めて有益な講演であり、閉会に当たり主催者である法学部同窓会から尾崎研究科長・学部長へ、厚い感謝と敬意の念が伝えられました。

講演される尾崎研究科長・法学部長

講演会の様子

法学部同窓会会員懇親会（交流会）

9月28日（土）18:30～20:20　　インフォメーションセンター「エルムの森」内「カフェdeごはん」　　参加者33名

講演会に引き続き会員懇親会が開催されました。33名の同窓会員（うち11名が在学生会員）が参加され、昨年同様会場は会員同士の会話で大いに賑わいました。この度の定時総会で新たに選出された藤田美津夫新同窓会長より開会の挨拶がなされ、懇談が始まりました。

法学部1年の在学生会員から昭和32年卒の卒業生会員まで（年齢差71歳）活発なおしゃべりと飲食が約2時間にわたって続けられました。途中司会進行役の髙橋　了副会長から在学生会員向けに、この度の尾崎一郎法学研究科長・法学部長のご講演は、時代（特に大学の大衆化）とともに大きく変遷してきた大学の役割（存在価値）、国家・社会との関わりを踏まえ、未来に向けて原点に還り大学とは誰のために、何のために存在すべきかを考察するものであり、尾崎先生が触れられてきた全ての時代・社会環境を生きてきた我々古い世代には深い実感と共感をもって聴かせていただいた旨、感想が述べられました。

新旧同窓会長の歓送迎会を兼ねての懇親会でもあることから、新旧会長と

会員の皆様との和やかな語らいも続けられました。最後は、この度の同窓会役員改選で10年以上にもわたり務められてきた同窓会会計監査（役）を退任された岡田信弘元法学研究科長・法学部長（25期）より、同窓会長を退任される佐々木亮子氏と事務局長を本年限りで退任される高橋　了氏への慰労と感謝を込めた閉会のご挨拶と兼ねて乾杯の音頭がなされました。「楽しかった。来年もここでまたやろう。お疲れ様」との声が聞こえる中で、参加者会員の皆様が帰路につかれました。

藤田新同窓会長の開会挨拶

懇親会の様子

岡田元法学研究科長・法学部長の閉会挨拶

経済学部同窓会

経済学部同窓会2024年度定時総会・懇親会

9月28日（土）16:10～17:10　　人文・社会科学総合教育研究棟　　参加者17名

経済学部同窓会では、文系4部局合同シンポジウム終了後、人文・社会科学総合教育研究棟にて2024年度定時総会を開催しました。今年度も昨年同様、対面とZoomによるハイブリッドで実施し参加者は17人でした。

板谷淳一同窓会長の進行により会が進められ、昨年度の事業報告、決算報告、今年度の事業計画、規約の改正などが審議され、活発な質疑応答が行われた後、承認されました。

その後場所を「ミア・ボッカ札幌駅北口店」に移し、懇親会が行われました。同窓生同士、20代から70代が集い懇親を深め、同窓会への活発な意見交換も行われ大変有意義な会となりました。

懇親会の様子

理学研究院・理学院・理学部

理学部ホームカミングデー2024　「理学で広がる未来。人生を彩る多様なキャリア発見交流会」

9月30日（月）13:00～18:30　　理学部5号館　　参加者162名

9月30日（月）に理学部ホームカミングデー2024「理学で広がる未来。人生を彩る多様なキャリア発見交流会」を開催し、同窓生、学生、教職員など、総勢162名の方々にご参加いただきました。

網塚　浩理学部長の開催の挨拶の後、今布咲子助教による理学部創立100周年カウントダウン講演会「北大理学で育んだ私のキャリア」が行われました。

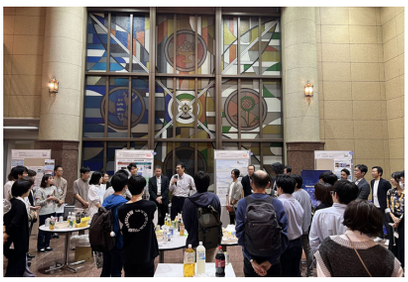
続いて、理学部及び関連大学院卒業生によるキャリアトークが行われ、13名の卒業生が、学生時代の研究内容や現在の仕事内容などについてお話しされました。その後、門出健次理学部同窓会理事長（先端生命科学研究院教授）の挨拶により昼の部は閉会となりました。

引き続き、理学部1階エントランスホールと2階ラウンジに移動し、ポスターセッション・懇親会が行われました。村越　敬教授の乾杯から始まり、設置している22のブースでは、教職員や学生が同窓生との交流を深めていました。最後は、永井隆哉教授の挨拶で閉会しました。

今回の企画は新たな試みでしたが、参加者からは、「学生さんや教員の方々と交流できる機会は大変貴重でした」、「ぜひ継続してほしい」といった感想が寄せられました。

講演する今助教

理学部大講堂にて参加者と記念撮影


ポスターセッション・懇親会の様子

医学研究院・医学院・医学部

医学部ホームカミングデー　フラテ祭2024を開催

9月28日（土）13:00～16:00　　医学部学友会館「フラテ」ホール　　参加者67名

医学部では、同窓生をはじめとする関係者の皆様との親睦をさらに深める目的で「フラテ祭」を開催しており、17回目の今年度は9月28日（土）に医学部学友会館「フラテ」ホールにて開催しました。

本間明宏フラテ祭実行委員長の挨拶の後、医学部と病院のコースに分かれツアーを行い、講義室や実習室を見学しました。

講演会では浅香正博医学部同窓会長からの挨拶に続き、畠山鎮次医学部長、渥美達也北海道大学病院長による講演が行われた後、現役医学部生（フラテ編集部、アンサンブルフラテ）による活動発表が行われ、医学部の現状を発信しました。

続いて、学外でご活躍されている先生による特別講演が行われました。九州大学大学院医学研究院ウイルス学分野の福原崇介教授から「北大だから推進できた新型コロナウイルス研究」と題した講演が行われ、盛会のうちに終了しました。

参加者からは「医学部のこと、病院のこと、その他医療に関することなどが詳しくわかった」「学生発表が素晴らしかった」「見学ツアー、講演、アンサンブル演奏などいずれも充実した内容でした」など、多くの感想が寄せられました。

（医学研究院・医学院・医学部）

医学部ツアーでの百年記念館見学の様子

福原教授による特別講演の様子

保健科学研究院

保健科学研究院ホームカミングデー2024

9月28日（土）13:30～15:20　　対面・Zoomによるハイブリッド開催　　参加者39名

今年度は会場での実施のほか、ZoomによるWebでの実施のハイブリッド開催を行い、総勢39名の方々にご参加いただきました。

矢野理香保健科学研究院長からの挨拶に始まり、卒業生等による講演会、医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会総会が行われました。

講演会では、NPO法人あえりあの髙橋亜由美代表理事に「生涯人生を楽しむための方法とは? みなさんと一緒に“支え合える社会”をつくりたい」と題し、看護師勤務や障害者支援の経験を通じて感じた高度な医療と障害者支援のバランスの重要性、NPO法人立ち上げの経緯及び多岐にわたる活動の紹介、また、地域での助け合いの重要性についても触れられ、今後の活動がさらに充実することを期待される講演をいただきました。

続いて、松野一彦名誉教授に、「保健学科の創設から躍進へ」と題し、医療技術短期大学部から保健学科設置に至る看護教育の変遷、ご自身の血小板の活性化等に関する研究成果、そして臨床・研究・教育これらを全うできる新しい医療人を育成することが教育の使命であると激励を含め、大変貴重な講演をいただきました。

昨年度に引き続き対面・Zoomによるハイブリッド開催でしたが、盛況のうちに終えることができました。

矢野研究院長によるご挨拶

髙橋代表理事による講演の様子

松野名誉教授による講演の様子

歯学研究院・歯学院・歯学部

歯学部ホームカミングデー「北海道大学歯学部同窓会50周年記念講演会・記念式典・祝賀会等」

9月28日（土）14:00～19:00　　札幌パークホテル及びオンライン　　参加者222名

9月28日（土）、ホームカミングデーに際し、北海道大学歯学部同窓会50周年記念講演会・記念式典・記念祝賀会が開催されました。本学歯学部卒業生をはじめ、各歯科大学・歯学部同窓会代表や、部局間交流協定を締結している韓国の全北大学校歯科大学からも17名の教員が参加するなど、盛大な会となりました。

記念講演会では、本学総合博物館の小林快次教授より、「恐竜絶滅と歯の関連性」についての講演が行われました。続く記念式典では、歯学部同窓会の森本達也専務理事の司会のもと、まず、渡邊岳彰同窓会長から式辞が述べられました。次に、日本歯科医師会の高橋英登会長、北海道歯科医師会の藤田一雄会長、本学の横田　篤理事・副学長、網塚憲生歯学研究院長及び福島和昭名誉教授から祝辞が述べられました。そして記念祝賀会では、渡邊同窓会長の開会の挨拶の後、札幌歯科医師会の山田　尚会長、及び北海道大学病院の佐藤嘉晃副病院長から祝辞が述べられました。

記念講演会・記念式典・記念祝賀会は202名が参加し、温かな雰囲気の中で多くの方々が交友を深める場となりました。

なお、記念講演会及び記念式典の様子はリアルタイムで全国にWEB配信され、20名が視聴しました。

また、これに先立ち、同窓会50周年記念事業の一環として、八重桜の記念植樹、さらに構内中央道路沿いにあった「歯学部」の名前が刻まれた石碑の北13条道路（イチョウ並木）沿いへの移設が行われ、9月11日（水）には、渡邊同窓会長、森本専務理事、網塚研究院長、及び宮治裕史副研究院長が記念撮影を行いました。

渡邊同窓会長の挨拶

祝辞を述べる網塚研究院長

記念植樹された八重桜と

薬学部・薬学研究院

薬学部で「第25回生涯教育特別講座秋季講演会」を開催

9月28日（土）14:00～16:00　　薬学部臨床薬学講義室　　参加者52名

薬学部生涯教育特別講座は、北大薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施されています。

9月28日（土）、薬学部臨床薬学講義室において秋季講演会が開催され、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や同窓生、教員等52名が参加しました。

初めに和歌山県立医科大学医学部解剖学第一講座の山本悠太講師による「身近なクリニカルクエスチョンを基礎研究へ　そして臨床研究への橋渡し」の講演があり、身近なクリニカルクエスチョンをどのように研究に活かしていくかについて、ご自身の具体的な経験に基づきながら大変分かりやすく解説いただきました。

続いて旭川医科大学病院薬剤部副薬剤部長の中馬真幸准教授に「臨床にまなび、臨床にかえす―職能と薬物治療の発展を目指して―」のタイトルで、感染症の治療における実臨床から研究まで、病院部門で一貫して活動されてきたご経験ならではの視点でご講演いただきました。聴講者からは様々な質問が寄せられ、先生方は一つ一つ詳細にご回答くださいました。「臨床研究のテーマの選び方、解決方法など勉強になりました」「In vivoと臨床経験を融合した内容で、非常に興味深い講演でした」「すべてが結果に繋がらなくても研究をしていくことから何かが生み出せるのかもしれない、と思いました」など多くの感想が寄せられました。

山本講師による講演

中馬准教授による講演

会場の様子

工学研究院・工学院・工学部

工学部創立100周年記念式典及び記念講演会

9月27日（金）14:00～17:00　　オンライン　　10名

9月27日（金）に挙行した北海道大学工学部創立100周年記念式典及び記念講演会をオンラインにて配信しました。

記念式典では、幅﨑浩樹工学部長及び宮永喜一工学部同窓会理事長による式辞及び寶金清博総長による挨拶の後、真弓明彦北海道電力株式会社名誉顧問・北海道大学ほっかいどう同窓会長、鈴木直道北海道知事（三橋　剛北海道副知事代読）、秋元克広札幌市長（ビデオレター）による祝辞をいただきました。記念講演会では、北海道大学経営協議会学外委員及び日本大学常務理事、特定非営利活動法人ウッドデッキ代表理事を務める渡辺美代子氏から「工学をめぐる多様性」、室蘭工業大学の松田瑞史学長から「北大工学部への期待（OBで同業者から）」と題したご講演をいただき、盛況のうちに終了しました。

※記念式典・記念講演会・祝賀会の詳細については、北大時報10月号をご覧ください。

幅﨑工学部長による式辞

寶金総長による挨拶

情報科学研究院・情報科学院

北楡会・北海道大学情報系交流会

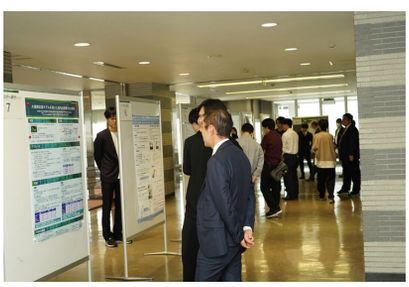
9月27日（金）10:00～13:00　　情報科学院・研究院棟A21会議室（開会・閉会式、ポスター概要説明）、2Fラウンジ（ポスター発表）、11F会議室（意見交換会）　　参加者49名

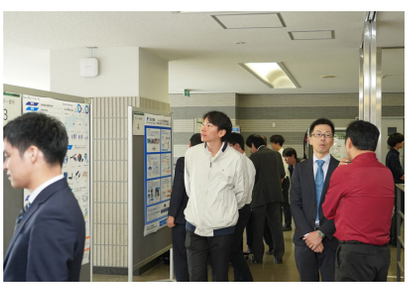
情報科学院の前身となる情報科学研究科、並びに電気・電子・情報・生体工学系の各専攻・学科の同窓生で組織される北楡会と、情報科学院の学生・教員との交流会を、対面形式で実施しました。

近野　敦情報科学研究院長・学院長並びに伊藤明男北楡会会長からの挨拶に続き、北楡会OB/OGと学生による、ショートプレゼンテーション・ポスター発表会を行いました。発表件数は、北楡会OB/OGが6件、学生は21件でした。北楡会OB/OGによる発表は、今年度が初の試みです。伊藤会長をはじめとする北楡会の皆様と本研究院の教員が参加して開催された意見交換会では、北楡会と本研究院・学院の今後の連携の在り方等について活発な議論が行われました。

【プログラム】
・開会挨拶
　情報科学研究院長・学院長
　近野　敦教授
　北楡会 伊藤明男会長
・発表会（北楡会OB/OG・学生によるショートプレゼンテーションとポスター発表）
・意見交換会

北楡会 伊藤会長の挨拶


ポスター発表会の様子1


ポスター発表会の様子2

農学院・農学研究院・農学部

市民公開「新渡戸稲造記念講演会」

9月28日（土）13:00～15:00　　農学部大講堂

農学院・農学研究院・農学部では、ホームカミングデーの行事として、市民公開「新渡戸稲造記念講演会」を開催しました。本講演会は、一般社団法人札幌農学同窓会と共に主催しており、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきた歴史を持ちます。平成9年以来、広く一般市民の方々にも公開しており、今年度も北方生物圏フィールド科学センター及び一般社団法人新渡戸遠友リビングラボによる共催、北海道や札幌市等54団体の後援をいただきました。

講演会には、同窓生や教職員、学生以外にも一般市民を含め50名以上が参加し、野口　伸農学研究院長による開会挨拶の後、副学長の弥　和順教授から「新渡戸稲造と新渡戸カレッジ」と題して、ご講演いただきました。新渡戸稲造の生涯や著書『武士道』から新渡戸の精神が解説され、それを受け継ぎたいとの思いから設置された新渡戸カレッジの活動についても紹介されました。講演後には、参加者から質問や感想が寄せられ、最後に札幌農学同窓会理事長の松井博和名誉教授から閉会挨拶があり、大変盛会のうちに終了しました。

弥教授の講演

野口研究院長の挨拶

獣医学部

令和6年度獣医学部同窓会通常総会

9月28日（土）13:00～16:00　　獣医学研究院講堂　　参加者47名

令和6年度獣医学部同窓会通常総会は、獣医学研究院講堂で47名の出席者（オンライン出席3名を含む）のもと開催されました。

八つの議案が審議され、全て可決承認されました。本年の議案には、今後の同窓会報・名簿の発行形態という重要な審議が含まれ、活発な議論が交わされました。同窓会総会に引き続き、第13回北海道大学獣医学部同窓会フォーラム「国際共修、多文化間共修環境の先進部局として」を開催しました。獣医学部及び獣医学研究院が実施している活発な国際活動の一端を同窓一同が共有することを目的として、担当教員等からのプログラムの説明に続き、実際に活動を経験した学生から体験談を話していただきました。

学部の取り組みでは、タイ、イギリス、ザンビアでの活動内容、大学院の取り組みでは、卓越大学院プログラムに関連した内容を紹介いただきました。改めて、獣医学部及び研究院が「国際共修、多文化間共修」を活発に推進していることを実感しました。フォーラム後、引き続き、懇親会を開催しました。1時間少々の短い時間でしたが、同窓生、学生が交流を深める会となりました。

通常総会の審議風景

通常総会後の集合写真

懇親会の一コマ

水産科学研究院・水産科学院・水産学部/北水同窓会

ホームカミングデー2024 水産学部卒業生・在校生のつどい

9月29日（日）10:00～11:30　　函館キャンパス講義棟　　参加者　講演会30名、懇親会59名

本年は、水産科学未来人材育成館の完成披露式の開催に合わせて、講演会と北水同窓会懇親会を実施しました。講演会では、本学部OBで総合博物館水産科学館館長の今村　央教授に、「魚類分類学のすすめ－水産科学研究院で展開される魚類の基礎研究－」と題してご講演いただきました。講演内容は、魚類の系統分類と種分類の考え方とその重要性、国際命名規約と学名の成り立ち、新種の命名法等を、様々な魚類の実例とともに分かりやすく解説していただきました。出席者からの質問にも明快な回答をいただき、国際的かつ学際的な学問分野ならではの、大変奥行きの深い知識が得られる講演でした。

「懇親会」では、これまでにない函館キャンパスでの開催という特性を活かして、全国から駆け付けた卒業生と、現役学生の直接交流が実現しました（他に現役教員8名も参加）。参加した学生からは、自らの将来像を固めるために有益な情報を、卒業生から直接得られる良い機会になったという感想を聞くことができました。卒業生からは、現役学生の気質や考え方が分かると同時に、抱いている悩みを直接聞いたことに触発され、かつて学生時代の悩みや不安を思い起こすことができ、大変懐かしい気持ちになれたという感想をいただけました。懇親会の最後には都ぞ弥生と水産放浪歌を斉唱して、散会となりました。

講演をする今村先生

今村先生の講演を熱心に聞き入る参加者

OBのお話を伺う現役学生

環境科学院/環境科学同窓会

環境科学院ホームカミングデーにおいて修了生による講演会を開催

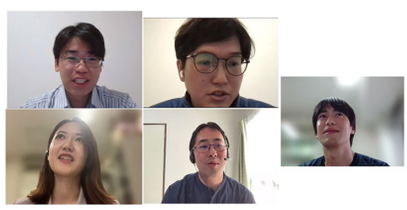
9月27日（金）15:00～17:00　　オンライン　　参加者53名

環境科学院のホームカミングデーでは修了生をお迎えし、現職の業務内容をご紹介いただくとともに、学生時代の経験や就職活動を踏まえて、在学生へのアドバイスなどを講演いただいております。

今年度はオンラインでの開催となり、冒頭に谷本陽一地球環境科学研究院長・環境科学院長より、環境科学院校舎を背景に屋外よりご挨拶をいただき、修了生の皆さんには懐かしい学び舎をご覧いただきながら、講演会が始まりました。

今回は日本各地より4名の修了生に講演いただきました。講演者は石川修平さん（株式会社クボタエンジンジャパン）、三栖紗也香さん（株式会社村田製作所）、小林勇介さん（兵庫教育大学）、そして佐藤壮一郎さん（京都府立大学）です。現職の企業を選んだ理由や、「中の人」（関係者）でないと分からない業務内容や遣りがい、業務から学びとなっていることや、大学院時代の研究が活かされている場面など、詳しく分かりやすくご講演くださり、学生等参加者にとっては非常に有意義なものとなりました。

ポスター


講演者の皆さん（左4名）と
司会の先崎理之先生（右）

国際広報メディア・観光学院

ホームカミングデー@IMCTS 修了生meet在学生2024

9月28日（土）14:00～18:00　　メディア・コミュニケーション研究棟　　参加者20名

秋晴れの9月28日（土）、国際広報メディア・観光学院では、「修了生、活躍中！」というテーマで修了生2名による講演会及び懇親会をメディア・コミュニケーション研究棟407室で開催しました。

奥　聡国際広報メディア・観光学院長による開会の挨拶の後、まず本学院4期生の遠山りえ氏（札幌国際法律事務所）による「あなたの知らない弁護士の世界」と題した講演が行われました。遠山氏は業界の仕組みや職務内容を、明朗かつユーモアたっぷりの語り口で分かりやすくお話ししてくださいました。ドラマや映画に登場する弁護士と実際の弁護士のふるまいの違いなど、普段聞くことができない興味深い内容に、皆熱心に耳を傾けていました。

続いて、8期生の金　明柱氏（同志社女子大学）による講演、「大学教員になるまで・なってから～大学院卒業後のキャリア形成」が行われました。金氏は修士号・博士号を本学院で修められたあと、日本国内の高等教育機関で教職に就かれています。ご自身の経験とその中で感じられた気づきや問題意識を、こちらもユーモアを交えてお話しいただきました。

両講演とも、同窓生が集うホームカミングデーならではの踏み込んだエピソードが盛りだくさんで、他の修了生にとっても在学生にとっても、非常に学びの多い時間となりました。その後の懇親会でも昔話や互いの近況報告に花が咲き、終始和やかな雰囲気の中での歓談となりました。

遠山氏による講演の様子

金氏による講演の様子

北方生物圏フィールド科学センター

植物園の縦覧見学、「北大農場」ミニツアーの報告

植物園の縦覧見学

9月28日（土）9:00～16:30　植物園　参加者21名

植物園においては、ホームカミングデー特設窓口を設置し、卒業生等を出迎えました。幅広い年代にわたる21名の卒業生等が道内外から来園し、庭園、博物館・宮部金吾記念館などを懐かしそうに見学されました。

植物園で受付記帳する同窓生

「北大農場」ミニツアーの報告

9月28日（土）①14:30～15:00　②15:30～16:00　生物生産研究農場　参加者10名

生物生産研究農場の「北大農場」ミニツアーは、14：30開始と15：30開始の2回実施しました。同窓生の方々、合計10名の参加がありました。天候は快晴で、少し風がありましたが、例年同様、北方生物圏フィールド科学センター管理棟の屋上へご案内し、農場全体の眺望を楽しみながら、生物生産研究農場の活動内容をご紹介しました。昨年度、農場内に設置されたスマート農業教育研究センターや最近の教育研究の説明も行いました。同窓生の皆様から学生時代に「講義や研究の合間にふらっと来ていた」等コメントがありました。2回のツアーともほのぼのとした雰囲気で開催できました。同窓生の皆様ありがとうございました。

屋上から農場の説明をする後藤農場長

ポプラ並木にて記念撮影をする同窓生

アドミッション本部（北大キャンパスビジットプロジェクト）（校友会エルム共催）

キャンパスツアー　現役北大生と巡る札幌キャンパス

9月28日（土）13:30～15:00　　札幌キャンパス　　参加者10名

現役北大生と巡る札幌キャンパスと題したキャンパスツアーは、北大キャンパスビジットプログラムのスタッフである現役の学生が正門をスタート地点として実施し、卒業生や元教職員の方々に参加していただきました。

今年は、北海道ワイン教育研究センター棟のギャラリースペース（旧昆虫学及養蚕学教室）で開催されている「北大ワインテイスティング・ラボ」内にもご案内し、ラボの紹介のほか、札幌キャンパスに現存する最古の歴史的建物をリノベーションしたギャラリースペースの様子も紹介しました。ギャラリースペースの天井は、当時の梁がそのまま見える形で改修されており、天井の合板と床材には、研究林の木材が使用されている等、本学の昔と今が融合する空間となっており、参加された皆様も興味深く説明に聞き入っていました。参加者からは、スタッフである現役学生が知らない情報等も共有される等、本学の新たな一面を知る貴重な機会となりました。

また、「エンレイソウ」では、創基150周年のプロジェクションマッピングが放映されており、短い時間でしたが映像で見る本学の様子を楽しむこともできました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは、例年、年に数回、一般市民や受験生向けのキャンパスツアーを行っておりますので、今回ご参加いただいた方々からお伺いしたお話も参考にし、より良い企画を実施してまいります。

古河講堂の紹介

北海道ワイン教育研究センターでの北大ワインテイスティング・ラボの紹介

北大創基150周年プロジェクションマッピング鑑賞（オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」にて）

附属図書館

企画展示

9月28日（土）、29日（日）9:00～17:00　　附属図書館本館正面玄関ロビー　　参加者：北大関係者、一般市民等

附属図書館は、創基150周年記念事業の一環として、パネル企画展示「北方古地図展（第一期）北海道図の変遷」を、8月23日（金）から9月29日（日）まで開催しました。

当館所蔵の北方資料コレクションは、開拓使の写真や地図などをはじめとして、江戸時代の和漢書や現代の出版物まで北海道を中心とした北方地域に関する様々な資料で構成されています。なかでも北海道（蝦夷）、樺太（カラフト）、千島の地図・図類は系統的に収集しており、大変興味深いコレクションの一つになっています。

本企画展示では、特に江戸初期から明治初期にかけて作成された特色ある北海道図を10点選出し、地図の変遷をたどりました。

現在、図書館では科学研究費補助金の採択により北方資料データベースで公開しているデジタル画像の高精細化を進めており、今回の展示でもその詳細な画像をご覧頂きました。来場された多くの方から「良かった」との感想をいただき、好評を得ました。

展示の様子1

展示の様子2

蝦夷国全図 / 林子平（1784年）

大学文書館

企画展示「数学者桂田芳枝が切り拓いた女性研究者の道」等を公開

9月28日（土）、29日（日）9:30～16:30　大学文書館　44名

大学文書館では、9月28日（土）及び29日（日）にわたり、館内展示の①企画展示「数学者桂田芳枝が切り拓いた女性研究者の道」（会場：沿革展示室）、②パネル展示「札幌キャンパスを歩く～あの時あの場所、今昔」（会場：2階展示回廊）、③常設展示「北大生の群像」（会場：展示ホール）を公開しました。

本学最初の女性の教授となった数学者桂田芳枝の事績を紹介した企画展示①では、村守隆男氏から新たにご寄贈いただいた、桂田芳枝による特別講義「大域の微分幾何学特講」の記録ノート（1969年）も公開しました。

札幌キャンパスの見所を紹介した②では、1900～2020年代の風景写真や設計図面等から紹介するパネルを掲げ、白堊館（旧工学部本館）の外壁タイルなども公開しました。また、函館キャンパスについても、キャンパスの風景やおしょろ丸の写真をパネルにして紹介しました。

期間中、卒業生の方々や、平日開館日には来館できない一般の方々などが訪れ、両日あわせて44名が見学されました。見学者の方からは、「白堊館」や、1960年代頃の中央ローンの風景を懐かしく思う声が聞かれました。

沿革展示室

展示回廊

展示ホール

産学・地域協働推進機構

北大ブランド商品についての紹介―北大の研究成果を活かした商品の紹介―

9月27日（金）～29日（日）8:30～20:30　インフォメーションセンター「エルムの森」

産学・地域協働推進機構は北大ブランド認定商品の紹介を行いました。

インフォメーションセンター「エルムの森」にて、認定商品を取り扱っている店舗と商品をマップにしたポスターの展示及び学内飲食店と協力し、普段は一般流通しない本学の農産物を使用した限定メニューの提供を行いました。

限定メニューでは、北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場の北大牛乳、卵や野菜、静内研究牧場の北大短角牛、七飯淡水実験所の北大トラウト、構内の腐葉土で育てられた大葉を使用した料理の提供を行いました。また、北海道大学病院栄養管理部とインフォメーションセンター「エルムの森」内のカフェdeごはんとのコラボレーションによる「北大マインド食*弁当」を販売しました。ご来場いただいた卒業生・観光客の方々、及び地元の皆様には、実際に農場生産物を食べ、北大ブランド商品を手に取って頂くことを通じて、本学の研究を知っていただきました。

＊マインド食：（MIND: Mediterranean-anDASH Intervention for Neurodegenerative Delay）は、「地中海食」と、高血圧の予防を目的とした「DASH食」を掛け合わせた食事法のことで、加齢による認知機能低下を遅らせる食事パターンとして注目されています。

カフェdeごはん　北大食材のプレート

展示ブース

大学院教育推進機構リカレント教育推進部

「北大道新アカデミー体験受講 古文書から紐解くツルと人の関係史」を開催

9月28日（土）15:00～16:30　　高等教育推進機構　　参加者3名

大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、9月28日（土）、高等教育推進機構N1講義室において「北大道新アカデミー体験受講　古文書から紐解くツルと人の関係史」を開催しました。この体験受講は、9月から11月の土曜日に合計8回開催される、令和6年度北大道新アカデミー総合コース「動物と人間社会～科学・歴史・文化から問い直す～」を今回のホームカミングデーの来場者のために開放したものです。

講義は、歴史鳥類学、博物誌を専門とする、文学研究院の久井貴世准教授が担当しました。古文書の記録からツルの生息状況や人との関わりの歴史を紐解き、今後の向き合い方について考える内容です。来場者が気軽に体験受講に参加できるように、北大道新アカデミーとは別の教室を準備し、講義をオンラインで配信する形式で行いました。3名の来場者は、最後まで熱心に講義を聴講していました。

受付の様子

創基150周年記念事業企画運営委員会　情報発信施設検討WG

コミュニケーション活性化拠点「ENLIGHT」社会連携プロジェクト構想発表会

9月28日（土）13:30～15:00　　オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」　　参加者24名

情報発信施設検討WGでは、150周年記念の機運醸成及び研究の社会実装を目的として、学内の農林水産領域研究を起点に、地域産業・行政と連携した「北海道の次の150年」を構想し、実装に向けた具体的なアクションへつなげるためのプロジェクトの設計を進めています。今回は、ホームカミングデーの開催に合わせて、そのキックオフイベントとして「コミュニケーション活性化拠点『ENLIGHT』社会連携プロジェクト構想発表会」を開催しました。

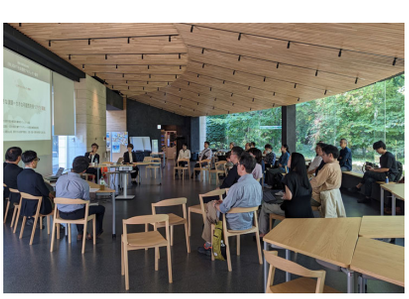
初めに産学・地域協働推進機構の滝田陽介特任准教授から、プロジェクトの基本構想の発表があり、続いて北方生物圏フィールド科学センターの後藤貴文教授から「先端生物科学とスマート放牧管理でZ世代が導く革新的な地域社会の実現への挑戦」と題して講演が行われました。

その後は、株式会社サイバコの岩瀬峰代代表取締役がモデレーターに加わり、次世代畜産の研究から実装を目指す後藤教授の研究を軸に、研究・行政・事業の立場から、後藤教授とクラウドファーム株式会社代表取締役の田名辺健人氏、産学・地域協働推進機構の齊藤大地准教授、白老町農林水産課主査の安藤啓一氏の3名によるパネルディスカッションを行いました。

来場者からも多くの質問が寄せられ、新しい技術・研究の社会実装のためには、どのような視点が必要か、それらを理解することでどのような連携が可能になり、持続可能な未来に近づくことができるのかについて活発な議論が行われました。

講演する後藤教授

パネルディスカッションの様子
（左から安藤主査、齊藤准教授、
田名辺代表取締役、後藤教授）


会場風景

創基150周年記念事業企画運営委員会（創基150周年記念事業準備事務室）

創基150周年記念事業紹介

9月28日（土）10:00～16:00　オープンイノベーション・ハブ「エンレイソウ」　参加者87名

創基150周年記念事業企画運営委員会は、創基150周年カウントダウンイベントとして実施したホームカミングデー2024において、創基150周年記念事業の紹介等を行いました。

創基150周年紹介動画（3面）の上映、主な記念事業のパネル展示、「北大百年史」「北大百二十五年史」「北海道大学百五十年史（資料編一）」等の閲覧展示を行いました。

また、株式会社HBCフレックスの協力により、企画：北海道大学、制作：北海道放送映画株式会社（現HBCフレックス）「エルムの学園」（1964年、42分間、16㎜映画）のデジタルアーカイブを限定公開しました。パソコン3台を用意して視聴いただきましたが、お待ちいただく方が出るほどの盛況ぶりでした。

「自分は昭和41年入学なので、ほぼ同時期の映像は懐かしい」「父の働いていた頃の様子を知りたく、母と視聴させていただきました」「限定公開ではなく、YouTube上で公開しては」「北大キャンパス施設の資料（建築・環境・景観・計画）をしっかりまとめておく」等々ご意見をたくさんいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も、150周年に向け、また、その先の150年に向け、意義ある記念事業に取り組んでいきます。

記念事業紹介パネルと年史等展示

年史を閲覧する参加者

「エルムの学園」を視聴する参加者

ほっかいどう同窓会（校友会エルム共催）

ランチパーティー

9月28日（土）12:00～14:00　百年記念会館　参加者60名

校友会エルム共催のもと、9月28日（土）に百年記念会館にて「ほっかいどう同窓会ランチパーティー」を開催しました。ホームカミングデーでは恒例行事となっている本ランチパーティーですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で久々の開催となった昨年よりも同窓生や元教職員、現役教職員の参加者が増え、寳金清博総長をはじめ大学執行部の先生方を交え賑やかな会となりました。ランチパーティーはほっかいどう同窓会の真弓明彦新会長、寳金総長の挨拶で始まり、本パーティーのドリンクの協賛をいただきました株式会社幸楽輸送社長の不動直樹様の乾杯のご発声で歓談となりました。

歓談では久しぶりの再会を懐かしむとともに、参加者同士の新しい出会いなども随所で見られました。東京より駆けつけていただいた校友会エルムの石山　喬前会長、東京同窓会の廣重勝彦様より会の途中でご挨拶をいただき、横田　篤理事・副学長の締めの挨拶で2時間弱の会は終了となりました。来年も再び多くの会員の皆さんが気軽に集う楽しいランチパーティーになることを願っております。

ランチパーティーの様子

一般社団法人恵迪寮同窓会

北大学寮（恵迪寮）150周年カウントダウンイベント　誇り高き自治寮よ 永遠に！ー恵迪寮改修問題を考えるーシンポジウム

9月28日（土）13:30～15:30　　クラーク会館　　参加者59名

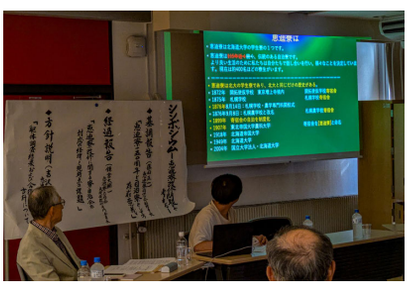
現在の恵迪寮は築40年を超え老朽化が進み、喫緊の課題である改修問題について広く認識を共有するために企画しました。

まず、本同窓会の藤田正一副理事長（元副学長）は、「学寮は学生の経済的救済・人格形成・文化創造の場などの多様な機能を持ち、これらの教育効果は自治寮であることにより実現できる。札幌農学校寄宿舎以来の歴史がある寮自治こそ、『北大に通底する精神』の生きた継承の場だ。ホームカミングデーになると、思い出したようにクラーク精神を語り、入学式・卒業式では『都ぞ弥生』を歌うが、その生きた継承者たる恵迪寮は少しも大切にされていない。これでよいのか」と、自治寮としての存在意義について語りかけました。

次に、恵迪寮自治会大規模改修専門委員会の鎌倉大輔委員長は、平成26年の大規模改修の頓挫の経緯と反省、及び当面の課題について報告し、今なお先行きは不透明だが、未来の困窮学生支援と寮自治の継承の為にも、寮の存続を第一として、改修の現実的な課題には柔軟に妥協点を見出し、建設的に交渉を行っていく方針を発表し、理解と支援を求めました。

最後に、同窓会の吉沢武治代表幹事は「恵迪寮の存続は全同窓生の共通要求であり、躯体調査の結果も建替え不要のようだ。北大フロンティア基金での寮改修支援募金をはじめ、大学・自治会・同窓会の三者懇談会等により北大の担当理事、関係者と相互理解を一層深め、恵迪寮の早期改修を何としても実現する」と決意を述べました。

恵迪寮改修問題を考える



自治寮としての存在意義とは

寮歌の集い

9月28日（土）16:00～18:00　　クラーク会館　　参加者69名

シンポジウムに引き続き、同じ会場で道内外からの同窓生をはじめとする多彩な参加者69名を得て、「寮歌の集い」を行いました。

まず、恵迪寮同窓会の横山　清理事長、北海道恵迪寮同窓会の内藤春彦会長の挨拶、「都ぞ弥生」の斉唱、恵迪寮同窓会の藤田正一副理事長による乾杯があり、しばらくの懇談の後、プログラムは「寮歌高唱」へと移りました。

第一部は、「寮歌に歌われた地名をたどる」と題して、参加者全員で北海道を旅しました。恵迪寮寮歌に多くの地名が歌われているからこその企画です。都で「清き国」を憧れるところから、津軽海峡を越えて来道し、北海道の各地や札幌市内を歌で享受しました。明治40年から今日まで連綿と作り続けられている恵迪寮寮歌の奥深さを改めて知ることができました。

第二部は、小樽商科大学の友情出演、現役寮生による最新寮歌の披露、応援吹奏団による演奏でした。

第三部は、代表寮歌や新しい寮歌の大合唱でした。同窓会の行事に駆けつけてくれた約20名の現役恵迪寮生の若々しい歌声に、多くの同窓生は元気をもらうとともに、寮歌が今もなお生きていることを実感しました。最後は全員で肩を組んで、「都ぞ弥生」1～5番を声高らかに歌いました。

最後に、北海道恵迪寮同窓会の千川浩治副会長からの閉会挨拶でお開きとなりました。

会の始まりは寮歌で

応援吹奏団による演奏

全員肩を組んでの「都ぞ弥生」

秋の叙勲に本学から5氏

この度、本学関係者の次の5氏が、令和6年秋の叙勲を受けることについて、11月3日（日）に発表となりました。

勲　　章	経　　歴	氏　　名
瑞　宝　中　綬　章	北海道大学名誉教授	内　田　和　男
瑞　宝　中　綬　章	北海道大学名誉教授	鏡　味　洋　史
瑞　宝　中　綬　章	北海道大学名誉教授	小　野　　浩
瑞　宝　単　光　章	元　北海道大学病院看護部副看護部長	新　岡　郁　子
瑞　宝　双　光　章	元　北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長	秋　沢　宏　次

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。なお、内田和男名誉教授については、本人の意向により感想等の掲載を省略いたします。

（社会共創部広報課）

鏡味（かがみ）　洋史（ひろし）　氏

感　想

この度は叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄に存じます。御高配を賜りました皆様には心より御礼申し上げます。

私は1943年東京都に生まれましたが、直ぐ郷里に疎開し高校卒業まで名古屋で過ごしました。高校1年生の1959年伊勢湾台風で被災し学校も暫く休校になりました。その間、毎日ボランティア活動で救援物資の輸送・仕分、堤防仮締切の土嚢作りなどをしました。東京工業大学では建築学を学びましたが次第に防災がらみの研究に向かったのはこの体験からかも知れません。

1966年大学を卒業し直ちに助手に採用され、恩師の地震工学の小林啓美教授の元で地盤の震動問題の研究を進めました。小林先生は理学との交流を重んじ東京大学地震研究所の応用地震学部門に出入りされ、先生にお供し勉強させていただきました。ある時、名古屋大学理学部から着任された気鋭の太田裕助教授を紹介いただきました。以来、太田先生から理学部流の手厳しい議論をいただく日々が続きましたが、1973年北海道大学工学部建築工学科に新設された耐震工学講座の教授として転出されました。先生から建築の土俵でさらに手厳しいご意見をいただくものと覚悟している中、北大に来ないかとのお誘いを受け1974年7月に北大に転じました。以来、地盤震動、地震動評価、地震防災など、次々新しい視点で展開される問題に取り組みました。しかし、先生は1989年に地震研究所から請われ古巣に戻られました。1993年の釧路沖地震に始まり南西沖、東方沖と北海道で、さらに1995年兵庫県南部地震が大都市を襲いました。これらを契機に地震対策の見直しが急務となり北海道、札幌市、旭川市、函館市等の被害想定策定に関わってきました。さらに2002年発足の文部科学省「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」でマルチエージェントシステム開発が採択され、津波避難の問題に適用しました。

突発地震に対する調査研究が海外も含め科学研究費で進められ、多くの内外の地震調査に参加してきました。特に1993年インド中部の地震、1999年コロンビア中西部地震では辺境の地や治安の問題から引き受け手がない中、研究代表者を務め苦労しましたが貴重な経験をすることができました。

2000年から4年間、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センターの客員教授を務めました。当時1978年宮城県沖地震の再来が懸念されており、過去の宮城県沖地震被害の解明が重要と考え、合間に現地の図書館等に通い当時の新聞記事などを収集し論文にまとめました。さらに北海道の既往の被害地震などに適用し文献調査の手法を定着させました。定年退職後も本手法の賛同者を得、日本全国に拡げ続けております。

退職後は北海道大学の図書館をよく利用させていただきましたが、最近は国会図書館のデジタルコレクションに自宅からアクセスできます。体力と気力の続く限り被害地震の文献調査は続けられそうです。

功績等

鏡味洋史氏は、昭和41年4月に東京工業大学理工学部建築学科建築構造第一講座助手に採用され、同49年7月1日に北海道大学工学部助手に転任し、同52年4月同大学工学部

講師、同54年4月同大学工学部助教授、平成2年4月同大学工学部教授に昇任し、同9年4月には機構改革に伴う大学院の重点化で、大学院工学研究科教授に配置換となり、同19年3月に定年により退職されるまで、学生の教育並びに地震工学の発展に尽力され、同19年4月1日に北海道大学名誉教授の称号を授与された。

昭和49年からの北海道大学在任中、学部においては各種構造Ⅰ・Ⅱ、地震工学、地震工学演習、防災計画論、建築序説、建築都市学ゼミナールⅠ・Ⅱなどの専門科目の他、全学教育科目の総合講義、一般教育演習、科学技術の世界、大学院においては防災アセスメント特論、都市防災学特論、建築都市空間デザイン特別演習、Urban Disaster Mitigation、公共政策大学院においては自然災害論、災害危機管理事例研究などの講義、演習を担当されるとともに、学部学生並びに大学院生の研究指導にあたられ、多くの研究者・技術者の育成に貢献された。

研究面では、地震工学・都市防災学に関する幅広い研究を行われ、特に大学卒業時から継続して、地盤による地震波の増幅特性を実測・解析両面から研究された。現在では一般的になりつつある、地震危険度を空間上で把握する手法、所謂サイスミックゾーニングにおいては、先駆的研究を行い、その成果として昭和52年2月に学位論文「地盤の構成にもとづくサイスミック・マイクロゾーニングに関する研究」によって東京工業大学から工学博士の学位を授与された。

学外においては、日本建築学会の振動運営委員会、地盤震動小委員会、災害委員会、学会賞選考委員会委員を歴任され、特に都市防災検討小委員会初代主査として平成7年阪神淡路大震災時の学会対応に貢献された。日本自然災害学会においては副会長を務められ、平成17年度からは京都大学防災研究所自然災害研究協議会議長を務め、防災科学研究の取りまとめに貢献されている。

北海道においては、北海道庁、札幌市をはじめ、多くの行政機関で防災関係専門会議の委員を務められ、特に、北海道防災会議地震専門部会委員長、札幌市地震被害想定委員会委員長を歴任されている。

以上のように、同人は、学生の教育、学術研究の発展、北海道大学の運営並びに地震工学・都市防災学の分野の発展に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著であった。

略　歴

生　年　月　日	昭和18年8月3日
昭和41年　4月	東京工業大学理工学部建築学科建築構造第一講座助手
49年　7月	北海道大学工学部助手
52年　4月	北海道大学工学部講師
54年　4月	北海道大学工学部助教授
平成　2年　4月	北海道大学工学部教授
12年　4月	北海道大学工学部建築都市学科長（～平成13年3月）
12年　4月	北海道大学工学部建築工学科長（～平成13年3月）
19年　3月	定年退職
19年　4月	北海道大学名誉教授

（工学院・工学研究院・工学部）

小野（おの）　浩（ひろし）　氏

感　想

この度は、叙勲の栄誉を賜り誠に光栄に存じます。

この栄誉は、私の研究生活を振り返る契機を与えてくれました。日本の大学院では、二人の恩師から指導を受けました。博学の倉林義正先生、更に倉林先生が一年間、国連に出向した折に出席したゼミの藤野正三郎先生です。ブラウン大学の大学院では、佐藤隆三先生のリサーチアシスタントをし、当時American Economic Reviewの編集長であったジョージ・ボーツ教授の指導を受けました。国際経済学を専攻し、昭和50年にPh.Dを取得後一年間ポスト・ドクターとして彼の研究を補助しました。昭和51年、黒田重雄教授のご助力で北海道大学に赴任しました。私は、唐渡興宣、佐々木隆生両先生と三人で全学教育の経済学を担当しました。昭和54年から一年間フルブライト上級研究員として渡米した折には所哲也教授及び小林好宏教授に私の担当科目を代行頂き心から感謝いたしております。昭和61年、私が学生委員の折、特に思い出すのは、第一小委員長として恵迪寮入寮選衡権をめぐっての寮生との団交です。この問題の解決は、法学部の石川武学生部長を中心に文学部の藤本幸三教授、教育学部の鈴木敏正教授、事務職員の方々が一致団結した結果と思います。

私が国際交流のチャンスを与えられて感じたことを二三書きたいと思います。

昭和58年12月から6月までカナダのセント・メリーズ大学で日本経済論の講義を行いました。帰国直前に社会人向けの夜間セミナーを依頼され、「日本的経営」の講演を行いました。その際フロアーからの質問で、日本企業の賃金体系が年功序列的に形成されており労働生産性に基づいていない、後年その差額を受け取るという暗黙の合意は、契約に基づいていないという疑問があり、終身雇用を前提としていない欧米の人には理解が困難だったと当時の私は思いました。

二つ目は、昭和62年春、文科省の短期招聘教授としてブラウン大学のボーツ教授をお招きしました。滞在中に、ある新聞社から自由論題での原稿依頼がありました。内容は1980年代半ばのアメリカ東海岸での不動産投資銀行の破綻問題を取り上げ、日本経済にも警鐘を鳴らした長文の論文を投稿されました。しかしこの論文は大幅にカットされコラム欄に掲載されました。当時の状況では、外部からの警告は聞き入れられずバブルが崩壊して始めて土地神話なるものがバブルの一現象だと理解されたのでした。このエピソードを思い出すと客観的な視点を持つことの重要性を学んだ気がします。

私が北海道大学で充実した研究生活を送ることが出来たのは、優秀な学生との出会い、同僚及び先輩諸氏との交流、恩師の激励など多くの幸運に恵まれた結果です。

最後に、これまでお世話になった方々にあらためて厚く感謝申し上げます。また、北海道大学が教育及び研究の両面で益々発展し、多くの分野で貢献できるよう願っております。

功績等

小野　浩氏は昭和18年11月5日北海道に生まれ、同41年3月小樽商科大学商学部を卒業後、日本道路公団に入社。翌昭和42年4月に一橋大学大学院経済学研究科修士課程に進学。昭和44年同研究科博士課程に進学後、同46年8月よりブラウン大学大学院経済学研究科へ入学。その後、昭和50年6月経済学博士号（Ph.D）を取得された。ブラウン大学でポスト・ドクトラル・アソシエイトとして9箇月間務められ、昭和51年8月に北海道大学経済学部助教授として赴任され、同61年7月に教授に昇任された。

北海道大学赴任後は主として「ミクロ経済学」の授業を担当され、30余年にわたって学部学生、大学院生の教育及び指導に務められた。

研究面においては、長年国際経済学の理論研究に従事され、ヘクシャー・オリーン・モデルの拡張、及び寡占、独占的競争などの不完全競争下での貿易パターンの分析、その後自動車産業への実証分析の応用などの分野で顕著な貢献をされた。また、フルブライト上級研究員としてのブラウン大学滞在、カナダのセント・メリーズ大学での客員教授、カナダのマクマスター大学での招聘教授、英国ウォーイック大学での客員教授など、学術研究交流において、長年にわたって国際的な交流を精力的に続けられた。

さらに平成2年には、韓国延世大学経済学部との間での国際交流協定に主導的役割を果たされ、その結果教員レベルだけでなく、大学院生、学部生の派遣交流が可能となり、今日では学部・研究科の国際交流の重要な柱となっている。

同人は経済学部の教育者として、研究者としての多大な貢献にとどまらず、学内行政についても大いに尽力された。北海道大学評議員（平成7年～同9年）、経済学部経済学科長（平成13年、同18年）を務められるなど要職を歴任され、北海道大学と経済学研究科及び経済学部の発展に寄与された。

同人は平成19年3月北海道大学を定年退職後、68歳まで市内の私大の学部・大学院で専門分野の講義、演習を担当した。また、平成21年4月1日から同24年3月31日まで札幌国際大学で教授（特任教員）として教育・研究に尽力した。

以上のように、同人は国際経済学の研究（とりわけヘクシャー・オリーン定理の拡張と日本自動車産業）並びに国際交流の発展に尽くした功績は誠に顕著である。

略　歴

生　年　月　日　昭和18年11月5日
昭和50年 9月～51年 6月　ブラウン大学Post Doctoral Research Associate
51年 8月　北海道大学経済学部助教授
61年 7月　北海道大学経済学部教授
平成 7年 8月～9年 7月　北海道大学評議員
13年 4月～14年 3月　北海道大学経済学部経済学科長
19年 3月　定年退職
19年 4月　北海道大学名誉教授
21年 4月～24年 3月　札幌国際大学教授（特任教員）

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

新岡（にいおか）　郁子（くにこ）　氏

感　想

この度は叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄に存じます。これもひとえに、ご指導いただきました諸先輩の方々をはじめ、ともに切磋琢磨した仲間や医療チームの皆様方のおかげと心から感謝し、御礼申し上げます。

振り返りますと、私の看護職としてのスタートは、昭和55年4月北海道大学医学部附属看護学校の入学からです。看護学校はすでに医療技術短期大学への移行が決まっていたため、私たちは最後の卒業生でした。寮生活で、夜遅くまでグループワークや実習記録に追われる3年間でしたが、北海道大学の美しい自然環境で過ごした学生生活はとても思い出深いものです。何より苦楽を共にした同期や、温かく時に厳しくご指導いただいた教員及び諸先輩のご支援により、看護職として「続ける力」「熟考する力」を育むことができたと思います。

卒業後、最初の配属先は循環器内科病棟でした。その頃は心臓カテーテル検査でも約1か月の入院期間で、看護師は食事や運動等の生活指導を担いました。病態を学び、じっくりと患者さん個々の生活に関わる経験は、看護師としての基礎になりました。

その後、脳神経外科病棟へ異動し、結婚・出産を経て外科外来へ異動しました。今では当たり前に行っている外来での看護計画立案・看護記録の取り組みや、外来フォロー中の患者さん宅への訪問看護、事例研究の学会発表等、対象理解の視野を広げる様々な経験ができ、看護のやりがいを感じました。

その後、副看護師長へ昇任し、放射線科病棟・中央材料部・婦人科病棟で15年間役割を担いました。それぞれの部署で、チームで患者中心の看護実践やエビデンスの重要性を学び、特に、患者さん一人一人の人生や生きざまに触れて継続看護を行ったがん看護の経験は、自分自身の看護の核になりました。そして、看護師長へ昇任後は、人材育成をテーマに振り返りの機会を大事にしながら管理に取り組みました。

副看護部長へ昇任し、業務担当として6年間委員会活動や指導看護師養成プログラムの運営等に携わりました。改めて、看護者として成長の機会をいただきながら39年間継続できたことは自分の大きな財産です。

今後は、後輩たちが看護のやりがいを感じ継続できるよう何らかの形で支援を継続し、微力ながら社会に貢献してまいりたいと思っております。

最後に改めて、これまでお世話になりました北海道大学、北海道大学病院、そして看護部のご発展を祈念し、お礼の言葉といたします。

功績等

新岡郁子氏は、北海道岩見沢市に生まれ、昭和55年3月北海道立岩見沢東高等学校を卒業、同58年3月北海道大学医学部附属看護学校を卒業し、同年4月北海道大学医学部附属病院に採用された。平成9年4月に副看護婦長、同24年4月看護師長、同28年4月副看護部長を歴任し、令和4年3月に北海道大学病院を定年にて退職されるまで看護管理及び看護職の人材育成に貢献した。

同人は採用以降、循環器内科、脳神経外科・神経内科、第一外科・第二外科外来、放射線科・麻酔科、中央材料部、婦人科で勤務し、各所での多大な功績と優れた看護管理能力が評価され、平成28年4月に副看護部長に就任した。業務担当副看護部長として、看護部業務委員会を通じて、看護職や看護補助者の業務基準や業務環境の整備に尽力した。特に夜間に勤務する看護補助者の雇用や勤務体制の整備においては多職種と協働して取り組み、成果を上げた。

また、北海道大学大学院保健科学研究院との協働事業である「看護職キャリアシステムプラン開発・評価組織体制」において、平成27年から定年退職まで「指導看護師養成コースプログラム開発・評価部門」を担当し、部署内教育実践者の院内認定看護師養成に尽力した。平成28年8月には第20回日本看護管理学会において「部署内教育の統括的役割を担う指導看護師の実践状況の実態」、同30年には第22回日本看護管理学会において「部署内教育の統括的役割を担う指導看護師の役割発揮と行動変容に関する自己評価の実態」を発表した。また、平成29年には指導看護師の活動について書籍「看護現場のOJT事例部署内の教育・研修の進め方」を共同執筆し発刊に尽力した。

これらの業務の中、平成14年に保健師助産師実習指導者講習会の受講を始め学習活動を継続し、同18年に放送大学（発達と教育専攻）を卒業、臨地実習指導者として知識・技術の向上に努めた。令和元年に日本看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修を受講し、看護管理者としての能力向上に努め、同2年に認定看護管理者に認定された。

また、社会貢献では平成28年から令和4年まで公益社団法人北海道看護協会看護師職能Ⅰ委員として北海道の看護師職能のニーズに沿った研修企画や交流会を運営し、看護師職能の質向上及び地域ネットワークの強化に貢献した。

以上のように同人は、39年の永きにわたり看護の質の向上、看護管理、看護師教育に尽力し、その功績は誠に顕著である。

略　歴

生　年　月　日	昭和36年7月25日
昭和58年　4月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成　9年　4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部副看護師長
24年　4月	北海道大学病院看護部看護師長
28年　4月	北海道大学病院看護部副看護部長
令和　4年　3月	定年により退職
4年　4月 5年　2月	札幌市立大学看護学部実習インストラクター
5年　1月 5年　2月	北海道医薬専門学校看護学科実習指導教員
5年　3月	札幌市立大学桑園キャンパスキャリア教育補助員 現在に至る

（北海道大学病院）

秋沢（あきざわ）　宏次（こうじ）　氏

感　想

この度、令和6年度の秋の叙勲の栄を賜り、身に余る光栄に存じます。これもひとえに多くの皆様のご指導、ご支援、ご尽力の賜物と心から感謝し、御礼申し上げます。北海道旭川市で生まれたのち高校卒業まで過ごしましたが、その後の進路について相当悩んだことを思い出します。理系の授業が好きだったこと、また手に職をつけることが望ましいとの考えと多くの方の助言から国家資格を有する臨床検査技師といわれる職業を選択しました。

昭和56年に北海道大学医学部附属病院検査部に入職し、令和6年までの43年間勤務させていただきました。最初の勤務部署は一般検査室で、主に尿や糞便の検査を行う検査室です。学生時代もこれらの検査について習ったつもりでしたが、ほとんど役に立たない程度の知識だと痛感しました。次に配属されたのが生化学検査室です。40年以上前のことです。伝票と言われた紙の指示箋があり、そこに医師からの検査オーダーがチェックされており検体と一緒に提出されます。検査結果は手書きで伝票に担当技師が記入します。今では考えられませんが、誤記入が頻繁に発生しました。当時の医師は検査結果を100％信頼していないとも聞かされていました。この頃から検査過誤との戦いが始まりました。誤記入の対処は検査室のコンピューター化により皆無となりましたが、検査の機械化や自動化が進んだ半面、多数検体処理の功罪により検体取違いなどの発生です。日進月歩で急激な発展を遂げている臨床検査ですが検

査過誤を全てなくすことは不可能であり、これを予防する能力やシステムを構築する人材育成が今後の臨床検査技師に求められて喫緊の課題です。

退職までの数年間は、北海道大学病院の底力を見ることができました。新型コロナウイルス感染症対応です。多職種それぞれが専門性を発揮し協力しながら戦いました。特に医師、看護師の献身的な取り組みは頭の下がる思いです。コメディカルや事務部門も相当に厳しい業務体制だったと思われます。このような素晴らしい病院に勤務できたことは私の誇りです。

最後に改めて、ご指導くださった諸先輩方、同僚、他職種の方々の皆さまに心から感謝申し上げるとともに、これまで支え続けてくれた家族に感謝します。また、この度の受章にあたりまして関係教職員の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。北海道大学、北海道大学病院の益々のご発展を祈念し、お礼の言葉といたします。

功績等

秋沢宏次氏は、北海道旭川市に生まれ、昭和56年3月日本医学技術専門学校臨床検査学科を卒業し、同56年10月に北海道大学医学部附属病院に採用された。平成7年4月に検査部主任臨床検査技師、同29年4月に医療技術部臨床検査技師長を歴任し、同31年3月に北海道大学病院を定年退職した後、同31年4月より令和6年3月まで同院嘱託職員として臨床検査技師の教育・研究及び医学生や看護師の教育、感染管理室の立ち上げ、細菌検査室運営に努め、今日に至る。

北海道大学医学部附属病院検査部に採用当初より細菌検査を担当し、特に本院における感染管理に注力した。平成12年4月に細菌検査室、同13年3月に感染管理室を設立し、病院内における感染症のコントロールや、院内感染防止のための調査・研究及び対策を迅速かつ機動的に行う感染管理体制の構築等本院の治療体制の確立に大きく貢献した。

臨床検査技師の教育において、学生に検査総合管理学の講義を行い、臨床検査技師の役割や検査の意義、精度保証、安全管理など検査の基礎の教育に貢献した。特に医療安全や感染対策に関する指導を強化し、学生に深い知識を修得させた。加えて、生化学的検査と細菌学的検査を中心に指導し、実践的な検査手技の向上に貢献した。また、検査の倫理規定や個人情報保護についても詳しく解説し、医療人としての資質向上に努めた。医師養成過程の学生には、グラム染色検査の実習を通じて、細菌検査過程で得られる重要な診断情報について指導し、知識の研鑽に貢献した。看護師養成過程の学生には、検体採取の意義と注意点を重点的に指導し、感染管理を行う認定看護師には、院内感染を起こす細菌についての講義を行い、認定看護師の育成に貢献した。

研究においては、臨床検査の生化学的研究及び微生物学的研究に力を注ぎ、研究成果を日本臨床検査技師会学会にて多数発表している。特に、平成12年1月にはコレステロールの代謝について研究し、研究雑誌である医学と薬学に「コレステリルエステル転送蛋白完全欠損患者血清リポ蛋白のLDLコレステロール自動測定における反応特性」を投稿し研究の発展に貢献した。

平成14年4月より一般社団法人北海道臨床検査技師会常務理事を務め、北海道の医療の向上と福祉の充実に寄与し、臨床検査技師の地位・身分向上のために尽力するなど、地域医療の発展に貢献した。

また、永年にわたり臨床検査業務に従事し、臨床検査の発展に対し常に研究を重ね、新しい耐性菌などの情報をいち早く取り入れ、業務との連携を図ってきたこと、北海道大学の臨地実習において、30年以上学生指導に取り組み、医学教育に長く貢献した功績を認められ、平成28年11月に文部科学大臣から医学教育等関係業務功労者表彰を受けた。

以上のように、同人は、臨床検査技師の教育・研究及び医学生や看護学生や看護師の教育、病院における細菌検査や感染管理に尽力し、その功績は誠に顕著である。

略　歴

生　年　月　日	昭和34年3月15日
昭和53年10月 56年　3月	医療法人財団慈生会野村病院
56年10月	北海道大学医学部附属病院検査部
58年　4月	北海道大学医学部附属病院検査部臨床検査技師
平成　7年　4月	北海道大学医学部附属病院検査部主任臨床検査技師
15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院診療支援部主任臨床検査技師
28年　4月	北海道大学病院医療技術部主任臨床検査技師
29年　4月	北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長
31年　3月	定年により退職
31年　4月	北海道大学病院医療技術部嘱託職員 現在に至る

（北海道大学病院）

事務局が「災害等危機対策本部設置訓練」を実施

9月30日（月）、事務局において、災害等危機対策本部設置訓練を実施しました。

本訓練は、平時における大会議室のレイアウトから災害等危機対策本部（以下、対策本部）へのレイアウト変更、情報伝達に関する机上訓練等を行うことによって、災害発生時の迅速な対策本部の設置・運営に必要な対応力を身に付けることを目的とし、事務局各課（室）の職員41名が参加して行われました。

総務課職員による進行の下、対策本部を構成する各班に分かれ、レイアウト変更、被害情報の集計、模擬対策本部会議の開催等の訓練が行われました。

訓練終了後、対策本部総括副本部長である行松泰弘理事から、災害は思いがけないときに発生し、発生した場合には停電等で対応が困難な状況も考えられることから、災害が発生しても落ち着いた行動が取れるように、災害時の心がまえを日頃から持って訓練を積むことが重要であるとの講評がありました。

北海道大学では、今後も防災意識の向上に資する訓練等を継続的に実施します。

（総務企画部総務課）

災害等危機対策本部設置訓練の様子

講評を行う行松理事

北海道大学職員採用試験内定者懇談会を開催

10月23日（水）、令和6年度国立大学法人等職員統一採用試験合格者のうち、本学事務系職員採用内定者を対象として、内定者懇談会を開催しました。

本学職員となる上でのイメージづくりや、内定者同士の交流、採用前の不安の解消などを目的として実施し、行松泰弘理事との面談をはじめ、施設見学として、実際に事務系職員が勤務している事務室や関連施設などの見学を行いました。

懇談会の最後には、同日開催の「初任事務職員フォローアップ研修」に加わり、内定者と1年目の先輩職員同士でも交流が行われました。

内定者からは「同期になる方たちと顔を合わせて交流できてよかったです。これから北海道大学で働くのが楽しみになりました」など、本学職員として勤務することへの自覚を新たにするとともに、内定者同士の親睦を深める機会となりました。

（総務企画部人事課）

行松理事との面談の様子

施設見学の様子
（北海道大学病院リハビリテーション部）

初任職員フォローアップ研修の様子

令和6年度北海道大学次世代AI博士人材フェローシップ採用者ガイダンスを開催

10月7日（月）に令和6年度北海道大学次世代AI博士人材フェローシップ採用者ガイダンスを対面（高等教育推進機構）及びオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

本フェローシップは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）で今年度から開始された「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）次世代AI人材育成プログラム（博士後期課程学生）」事業に基づいたもので、緊急性の高い国家戦略分野である、次世代AI（AI及びAI分野における新興・融合領域）に資する研究に取り組み、将来的に次世代AI分野を開拓・牽引する博士人材を育成することを目的としているものです。この度、少数精鋭の8名の博士（後期）課程学生が、本フェローシップの第1期生として採用されました。

ガイダンスは、山本文彦理事・副学長から第1期生に向けての激励メッセージにより始まり、続いて、第1期生の自己紹介が行われました。その後、石森浩一郎事業統括・副学長から本フェローシッププログラムの概要や課せられる義務等について、事務部から事務手続きに関して、小川貴弘情報科学研究院教授から創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）で実施する共同研究に関してそれぞれ説明があり、最後は第1期生及び関係教員による記念撮影で締めくくりました。

ガイダンスは、終始和やかな雰囲気で行われましたが、第1期生は皆、真剣な眼差しで説明に聞き入っており、本フェローシッププログラムへの参加意欲の高さがうかがえました。

今年度採用された第1期生の皆様には、本フェローシップの支援を受けて、学会発表、論文、産業との連携、国際共同研究等に積極的に取り組み、成果を挙げることが期待されています。

（学務部学務企画課大学院教育改革推進室）

第1期生と関係教員

令和6年度新渡戸カレッジ入校式を開催

10月5日（土）、新渡戸カレッジ入校式を高等教育推進機構にて開催し、学部カリキュラム180名（合格者181名）、大学院カリキュラム28名（合格者33名）の計208名が入校しました。

今年度から新渡戸カレッジのプログラムが変わり、これに伴い学部カリキュラムの入校式についても開催時期が5月から10月に変更となりました。

入校式では、寶金清博校長（北海道大学総長）及び杉江和男副校長（校友会エルム会長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役員、学部長・学院長、フェロー・メンターの紹介が行われ、フェローを代表して大友俊彦さん、メンターを代表して石川憲一さんによる挨拶がありました。学生からは、学部カリキュラム入校生を代表して佐藤拓さん、大学院カリキュラム入校生を代表して三岡莉子さんが挨拶を行いました。最後に、令和5年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞ゼミ（伊藤ゼミ）の成果発表が行われ、式は無事に終了しました。

（学務部教育推進課）

寶金校長の挨拶

佐藤さんの挨拶

三岡さんの挨拶

公開シンポジウム学生大賞ゼミ　成果発表

ベスト・エクセレント・ティーチャー表彰式を挙行

10月28日（月）、高等教育推進機構にて、令和6年度ベスト・エクセレント・ティーチャー表彰式を挙行しました。

本機構では、全学教育科目に係る授業アンケートの結果をもとに、総合評点の値が上位の教員を「エクセレント・ティーチャーズ」として選定し、当該授業科目の目的や内容、実行上の取組や工夫等についての報告を同機構のウェブサイト上で紹介しています。「ベスト・エクセレント・ティーチャー」とは、この「エクセレント・ティーチャーズ」のうち、学生からの評価が各授業科目区分内で最上位だった者に対しその功績を表彰する制度で、令和5年度から実施されています。

表彰式は、受賞者7名全員が出席し、山本文彦高等教育推進機構長、野村益寛全学教育部長、平田公明学務部長の列席のもと執り行いました。山本機構長から受賞者へ記念の楯が授与されたのち、「本学の教育活動へ貢献いただいたことに感謝します」と労いの言葉がありました。

なお、この度表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（学務部教育推進課）

「ベスト・エクセレント・ティーチャー」受賞者

高等教育推進機構	杜　　長俊 准教授
高等教育推進機構	亀野　　淳 教授
理学研究院	川本　思心 准教授
経済学研究院	相澤　俊明 准教授
メディア・コミュニケーション研究院	GAYMAN JEFFRY JOSEPH 教授
メディア・コミュニケーション研究院	渡部　聡子 助教
工学研究院	久保田浩司 准教授

受賞者記念撮影

山本機構長からの祝辞

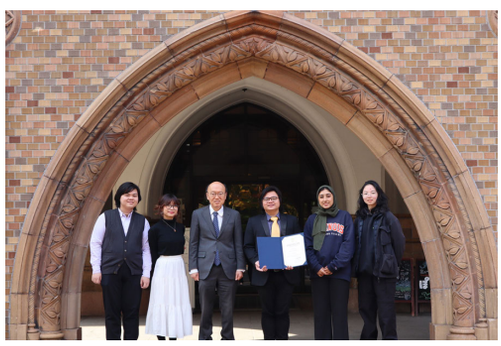
令和６年度Integrated Science Program（ISP）修了証書授与式を挙行

外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program（以下、ISP）」を9月に修了した学生の修了証書授与式を10月30日（水）に理学部において挙行しました。本年度9月修了者は2名で、このうち10月に本学博士後期課程へ進学したアマリア・ボン・リーフ・ドミンゲズさん（総合化学院修士課程修了）が出席しました。副プログラム長である鈴木久男教授からアマリアさんに修了証書が授与され、母国から遠く離れた日本で、様々な困難を乗り越えて学業を成し遂げたことを称えました。続いて、アマリアさんがISPへの思いや関係者への感謝の言葉を述べた後、参列したISP学生と共に記念撮影が行われ、新たな門出を祝いました。

アマリアさんは、本学入学後3年半で学士課程を早期卒業し、その後総合化学院での修士課程を1年半で早期修了を果たし、ISPとして初めて、通常より1年間早い5年間でプログラムを修了しました。

（学務部教育推進課）

鈴木教授から修了証書を授与されるアマリアさん



記念撮影

令和6年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験― 被表彰者の決定

この度、令和6年度北海道大学鈴木章記念賞―自然科学実験―の第1学期被表彰者4名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木　章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設されたもので、今回を含め92名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者には、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者と共に、令和7年3月に行います。

【令和6年度第1学期被表彰者】

17組　　杉尾　有雛
22組　　谷口　智樹
24組　　信定　優季名
27組　　佐藤　拓

（学務部学生支援課）

新入留学生オリエンテーションを実施

9月30日（月）、10月に入学する外国人留学生を対象として、新入留学生オリエンテーションを開催しました。

このオリエンテーションは留学生が一日も早く北海道大学での学生生活に慣れ、戸惑いや不安を解消し新しい環境へ適応してもらうことを目的としています。オリエンテーションは英語セッション及び日本語セッションの2部構成で進められ、48の国と地域から新しく渡日した合計253名の新入留学生が参加しました。

オリエンテーションでは、ラフェイ・ミシェル・ケイ総長補佐の挨拶に続き、留学生相談室のカウンセラーから日本の学生生活に適応するためのヒントとして、「文化適応とメンタルヘルスについて」と題したミニ講義を実施しました。北海道警察及び札幌北警察署から日本の交通ルールやサイバーセキュリティについての説明がなされたほか、学生相談総合センター、新渡戸カレッジ、先端人材育成センター、情報セキュリティー、北図書館及び保健センターの紹介に加え、サポートデスクのスタッフによる留学生に対する様々なサポートや茶話会、留学生向けのワークショップ及びランゲージコーナーの紹介があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

オリエンテーション終了後は希望者に対し、日本語・英語・中国語の3言語でキャンパスツアーを実施し、これから過ごすキャンパスを散策し、構内の施設についての説明を受けていました。

（学務部学生支援課）

新しく渡日した留学生へ歓迎のスピーチをする
ラフェイ総長補佐

英語でのミニ講義

札幌北警察署による交通ルールなどの説明

キャンパスツアーで構内の説明を受ける留学生たち

第63回全国七大学総合体育大会総合優勝を総長へ報告

10月2日（水）、七大戦を担当する北海道大学体育会役員の学生3名が総長室を訪れ、第63回大会の総合優勝と、本学を主管大学とする第64回大会実施の意気込みを寶金清博総長へ報告しました。

全国七大学総合体育大会（通称：七大戦）は、旧帝国大学である七大学が毎年主管を持ち回りで実施する体育大会です。第1回大会は、昭和37年度に本学を主管大学として開催され、七大戦の歴史がスタートしました。

令和6年度に名古屋大学を主管大学として開催された第63回大会では、柔道、相撲、弓道女子の3連覇をはじめ、硬式庭球女子、バドミントン男子、バレーボール男子の2連覇など多くの団体の躍進により、本学が第43回大会以来の総合優勝を果たしました。七大戦での優勝は実に20年ぶりであり、加えて本学初の「主管校破り」による総合優勝となります。

寶金総長からは、第63回大会総合優勝への賛辞と、第64回大会実施の激励が送られました。また、髙橋　彩理事・副学長から第64回大会の運営に関する質問があり、学生からホスト役を担う大学として各競技や式典が盛況に終えられるよう尽力したいと力強い回答がありました。

主管大学が10巡目に入る第64回大会は、本学を主管校として令和7年度に実施されますが、アイスホッケー、航空及びスキーの3競技は令和6年度冬季に実施されるため、第64回大会はまもなく始まります。

未だ本学が成しえていない連覇に向け、皆様の応援をよろしくお願いします。

（学務部学生支援課）

総長室での写真撮影
（左から、杉山雄介第78期体育会委員長、
髙橋理事・副学長、萱沼虎太朗第77期体育会委員長、
寶金総長、近藤　紫第64回七大学総合体育大会実行委員長）

総長室での懇談

秋のガレージセールを開催

10月8日（火）、クラーク会館にて、秋のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の配偶者と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要な物資を提供しています。これまで学生交流ステーション中庭を中心に開催していたガレージセールですが、今回より会場をクラーク会館へと移し、天候に左右されず開催することが可能となりました。

開場とともに、多くの留学生が食器や調理器具、衣料、寝具、スーツケースなどのコーナーに詰めかけていました。来場者数は約220名にのぼり、留学生たちは手に大きな荷物を抱え、活気ある賑わいを見せていました。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（学務部学生支援課）

オープン時の様子

布団を購入する留学生

ひな人形を購入する留学生

人形や雑貨を購入する留学生

高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催

北海道教育委員会及び本学主催の、高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」のうち「高校生受入プログラム」を10月16日（水）～18日（金）の3日間開催しました。

本事業は、国際交流に興味・関心を持ち、大学等に進学し、学術研究に意欲的に取り組もうとする道内の高等学校の生徒に対して、留学生との相互交流や講義等の受講の機会を創出することにより、国際理解の促進と進学意欲の向上を図り、将来におけるグローバル人材を育成することを目的としています。

本事業は、9月に行った「留学生派遣プログラム」と今回の「高校生受入プログラム」の2部構成となっています。9月には本学の留学生22名を道内の高等学校19校に派遣し、授業や部活動への参加を通じた異文化交流を行いました。そしてこの度、道内の高等学校22校から高校生37名を本学に受け入れ、以下のプログラムを実施しました。

■留学生とのキャンパスツアー
■本学教員による留学経験の講演
■留学生によるプレゼンテーション及び交流
■高等学校教諭によるワークショップ
■本学教員による大学の講義体験

各地から集まった生徒は、全て英語で行われるプログラムを通して英語力を高めながら、留学生と積極的に交流することで、留学を念頭に置いた大学進学や国際交流に対して更に関心を深めたようです。

また、本学の留学生からも、本事業は異文化理解の促進において有意義であったとの声が寄せられ、双方にとって良い経験となりました。

（学務部入試課）

留学生とのキャンパスツアー

繁富（栗林）香織准教授による大学の講義体験

留学生によるプレゼンテーション及び交流

2024年度国際インターンシップ全学成果報告会を開催

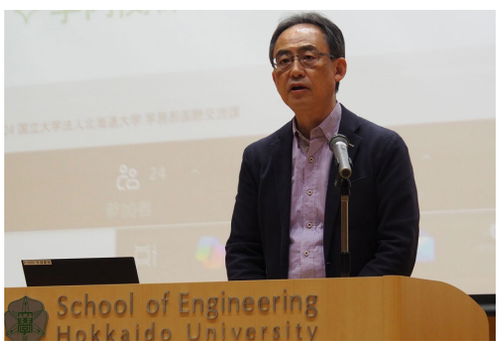
高等教育推進機構は、10月26日（土）に、本年8月、9月に実施した国際インターンシップの全学成果報告会を開催しました。

「国際インターンシップ」とは、グローバルに事業を展開する企業・機関等の海外拠点にて、就業体験型として研修を行う実践的キャリア教育プログラムです。学生がこの研修を通し、国際性とリーダーシップ力を醸成するとともに、グローバルな視点で自らのキャリアや今後の進路について考えることを目的としています。本プログラムは、2016年度に3か国、3拠点、4名を派遣することで試行的に開始され、それ以降、多くの受入企業・機関のご支援の下、年々プログラムを拡充し、この8年間で、155企業・機関様のご協力をいただき、340名の学生を受け入れていただきました。

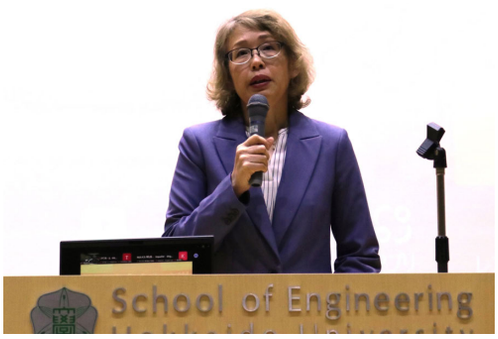
本報告会では、2024年度夏に10か国の25企業・機関のご協力を得てインターンシップに参加した46名の学生が、それぞれの研修で得た学びについて日本語、或いは英語で報告しました。ご支援企業・機関の関係各位、本学学生・教職員など、学内外や研修先海外拠点からも多くの方々に対面、オンラインで参加いただきました。学生の報告終了後には、参加企業・機関の方々から本報告会へのご講評及び学生への励ましのお言葉がありました。

高等教育推進機構では、今後も、グローバルな視野を持ちながら、変化の激しい社会の多様性に対応できる学生を育成してまいります。

（学務部国際交流課）



開会挨拶を行う山本文彦理事・副学長



学内講評を行う髙橋　彩理事・副学長

報告会終了後の集合写真

「北海道大学宇宙研究フォーラムキックオフシンポジウム」を開催

10月27日（日）、「北海道大学宇宙研究フォーラムキックオフシンポジウム」を工学部フロンティア応用科学研究棟で開催しました。

本学は、宇宙関連の研究に携わる学内教員及び宇宙技術を利用する学内教員が互いに情報を共有し、共同で教育研究活動などを検討できる場として、新たに「北海道大学宇宙研究フォーラム」を立ち上げました。本シンポジウムは、そのキックオフとして、学内外の宇宙研究・宇宙産業に関係する方、宇宙に関心がある方が集まり、宇宙研究や宇宙産業などについての最新の情報を共有するために開催したものです。

シンポジウムでは、最初に、瀬戸口剛理事・副学長が開会挨拶を行いました。

続いて、東京大学大学院公共政策大学院の鈴木一人教授が基調講演を行った後、工学研究院の永田晴紀教授、理学研究院の高橋幸弘教授、北極域研究センターの平田貴文特任准教授、遺伝子病制御研究所の園下将大教授及び理学研究院の倉本　圭教授が一般講演を行いました。

その後、理学研究院の大津珠子准教授をファシリテーターとして、基調講演及び一般講演の講演者がパネリストとなりパネルディスカッションを行いました。

そして最後に、行松泰弘理事が閉会挨拶を行いました。

本シンポジウムは、学内外114名の方（うちオンライン58名）に御参加いただきました。

（研究推進部研究振興企画課）

基調講演を行う鈴木教授

パネルディスカッションの様子

閉会挨拶をする行松理事

参加者の集合写真

コルスンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使による講演会を開催

10月22日（火）、コルスンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使をお迎えし、スラブ・ユーラシア研究センターにて、「未来のユーラシアのための協力：ウクライナと日本の対話（Cooperation for Future Eurasia: Dialogue between Ukraine and Japan）」をテーマに講演会を開催し、本学教職員及び新渡戸カレッジ生等の学生約60名が参加しました。

本講演会は、スラブ・ユーラシア研究センターの岩下明裕教授による大使の紹介の後、大使からの希望により岩下教授との対談形式で開催されました。大使から、ウクライナの現在の状況や、日本からの支援への感謝、EU、グローバルサウス、東アジア諸国など、世界の国・地域との関係などについてお話しいただいた後、質疑応答では、参加者からの「デイトン合意型和平の可能性」「ラテン・アメリカ諸国との関係性」といった質問に大使が回答しました。

講演会の前には寶金清博総長及び髙橋　彩理事・副学長との懇談が行われ、日本とウクライナの今後の協力に関する意見交換が行われました。

（スラブ・ユーラシア研究センター、国際部国際連携課）

コルスンスキー大使による挨拶

スラブ・ユーラシア研究センター 岩下教授による司会

コルスンスキー大使と岩下教授の対談

寶金総長とのギフト交換の様子

「東京サピアアカデミー」で曾根輝雄北海道ワイン教育研究センター長が講義を実施

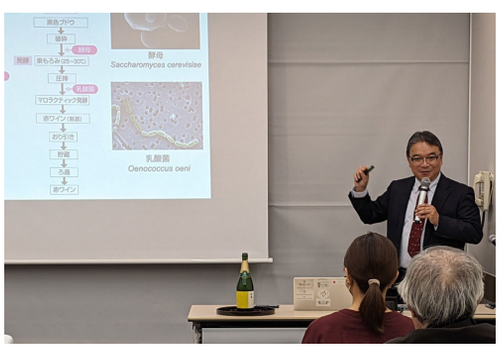
10月20日（日）、本学東京オフィスが入居するサピアタワーにおいて、東京サピアアカデミーが開催され、北海道ワイン教育研究センター長の曾根輝雄教授が講義を行いました。

東京サピアアカデミーは、株式会社JR東日本ビルディングが主催、本学が協賛する知的情報発信イベントで、2011年度から著名人による講演やサピアタワー入居大学等による講義が行われています。今回は、「これからの未来」をテーマに、基調講演と11の大学・企業等による講義が行われました。

「北海道大学の目指すワイン教育研究：地域振興のKeyとして」と題した講義では、曾根教授とワインとの関わりから、ワインはテロワール（土地の個性）を楽しむものあり、それが世界中でワインが作られ楽しまれている理由の一つであること、北海道大学でワインの教育研究を行う意味や、旧昆虫学及養蚕学教室（1901年建設、登録有形文化財）を保全改修し令和5年9月に開所した北海道ワイン教育研究センター棟について説明がありました。最後に、曾根教授は、北海道のワイン産業は、北海道全体の持続可能性を高め、明るい未来をもたらすKeyであり、北海道ワイン教育研究センターは、北海道－ワインプラットフォームと力を合わせ、地域の食やアクティビティと結びついた持続的なテロワールが集積する「北海道ワインバレー」実現のために教育研究に注力していきたいとの展望を語りました。

講義途中には、9月6日（金）に一般開放を開始したセンター棟内の「北大ワインテイスティング・ラボ」で有料試飲を行っている「玲瓏」が提供され、参加者は本学余市果樹園のりんごを使ったシードルの風味を楽しんでいました。

（社会共創部広報課）



会場の質問に答える曾根教授

シードル「玲瓏」

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をすることとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	（9月30日現在）／50,792件	7,439,629,295円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	（9月30日現在）／13,744件	1,274,860,738円

＜ご寄附状況＞

9月は278件43,718,550円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アルクエデュケーション、有限会社栄光ネットワークス、下越通信工業株式会社、一般財団法人協済会、協和総合管理株式会社、医療法人社団クラーク会、株式会社札幌トランジスター、株式会社上越商会、医療法人スワンアイクリニック、辻野建設工業株式会社、医療法人中の島はやし皮フ科、ニチモウ株式会社、株式会社日立プラントサービス、藤建設工業株式会社、北大同窓ゴルフ会、北海道大学工学部同窓会東京支部、北海道ファミリー株式会社、株式会社本間解体工業、まつぞの小児科医院、松田歯科クリニック、三井ホーム北海道株式会社、メタウォーター株式会社、株式会社吉本組、株式会社ロジネットジャパン

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青井　良平	青木　俊介	青山　英史	赤羽　弘充	赤平　幸郎	秋野　信子	浅井　哲也
浅見　謙二	阿部　悟	阿部　雅史	池田　登予	石井　哲夫	石井　信行	石垣　隆弘	石川　薫
石川　信行	石田香代子	石原　隆之	和泉　唯信	市坂　有基	伊藤　和行	伊藤　雄三	井上　崇
井上　将希	井野　智	猪股　路子	井原　博	今井　晋	入江　祐眞	入澤　秀次	上田　繁
上田　昭平	上田　雅敏	打田　武史	梅津　博司	梅本　由佳	縁記　和也	遠藤　公憲	遠藤　由香
大野　泰熙	大原　正範	大森　義範	大和田英生	岡田　英子	沖崎　遼	奥　輝之	生島　靖雄
小田原一史	小野　雅人	小原　大和	加藤　伸康	金川　眞行	金子　晋	河藤小百合	河本　充司
菅野　一敏	北浦　千鶴	北村　均	衣川　暢子	清末　数仁	釘本　裕生	栗原　誠治	光地　悠輔
上月　浩	國分　純	小坂　清	小平　紘之	後藤　普	小林　賢人	齊藤　晋	齋藤　奈央
齋藤　久	堺　敦生	酒井　迪	坂本　大介	崎元　大志	左近　祥夫	佐々木寿博	佐藤　拓実
鹿野　耕太	志済　聡子	佐藤　巧也	三升畑元基	柴田　恵子	渋谷　進	清水　慧	菅原　新也
菅原　弘士	杉浦　文康	杉江　和男	杉山未奈子	鈴木　貴之	鈴木　章之	鈴木　正宣	瀬名波栄潤
髙木　眞弓	高瀬登志彦	髙橋　修	高柳　涼	田栗　和奈	武士　俊也	橘　孝則	田村　寛子
長　祐子	辻井　博彦	辻　政雄	土家　琢磨	常本　秀幸	手島　昌一	寺澤　睦	寺田木の実
豊田　威信	中島　嘉紀	中塚　英俊	中西　喜嗣	中村　徹	中村　透	長本　克義	奈良平敦司
西谷内力世	根本　叔治	野口　真司	畠山　義彦	花田　秀一	馬場　登	原林　透	廣重　勝彦
深澤雄一郎	福田　恵	福田　浩二	福永　悟郎	藤澤　裕子	藤田　芳康	藤山　文乃	船木　典子
船津　康次	古川夕里香	干野季美子	星野　謙蔵	堀元　俊明	町田　泰一	松井　耕二	松尾　望
松原　謙一	真弓　明彦	三木　證永	三田地利之	緑川　光正	皆川　忠晴	南田　大朗	宮田　信幸

村上　泰一	村上　広輝	村澤浩一郎	村瀬徳啓充	村瀬　亮太	村松　隆一	森　　和弘	森　喬太郎
山下　裕久	山田　和子	結城　　舷	横山　　考	吉田　広志	吉田　　学	若狭　　哲	渡邊　一永

＜寄附者への特典＞

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。

なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/ ）

＜感謝状の贈呈＞

松本篤二様・松本佳子様（令和6年9月6日）
※代理の松本健郎様（ご子息）にお受け取りいただきました。

伊藤獻一様（令和6年9月27日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

令和6年度第1回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施

6月17日（月）～19日（水）に植物園において、令和6年度第1回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施しました。本実習は、昨年度まで北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクト事業の一環として実施したものであり、異なる職場の業務体験等を通して幅広い視野を養い、分野を超えた横のつながりを醸成することを目的としています。

参加者は計4名（工学研究院2名、北方生物圏フィールド科学センター2名）で、賑やかな雰囲気の中、実習は進みました。初日は、園内を点検しながら、来園者の安全に配慮した園内管理についての説明を受け、植物園の顔とも言える園入口の花壇の整備を行った後、来園者を意識した花壇の管理について学びました。バラ園では、なぜ花がら（咲き終わってしおれた花のこと）を取るのか、剪定する箇所の決め方など、管理の基本について説明を受けながら作業を行い、まだきれいに咲いているようにも見える中、どの花を摘んでよいのか、迷いながらの作業となりました。

2日目はライラックの剪定作業から始まり、観覧者に見やすいよう、大胆に剪定をしなくてはならないものの、本当にこんなに切ってしまってよいのだろうかと迷いの見えた参加者たちも、時間が経つに連れ、思い切ってできるようになっていく姿が見られました。続いて高山植物の植え替えを行い、高山植物の管理は植え替え・水やりともに、それぞれの花の特性を理解して行わないと、貴重な植物がダメになってしまうとの説明を聞いた実習生たちは、各人が担当した鉢の植物を植え替えで傷つけてしまわないように、気を付けながら作業を行いました。

最終日は、ネズミの標本作りを一から行う実習であり、手先の器用さと根気がいる難しい作業でしたが、担当技術職員の丁寧な指導と、穏やかな中にユーモアを交えた語り口に励まされ、全員が標本を完成することができました。

参加者からは、「異なる職場を経験し自分の仕事を見直すきっかけになった」「有料施設ならでは管理方法を学べた」「職員同士のつながりができた」等の感想が寄せられました。

（技術支援本部）

ライラックの剪定作業

ネズミの標本作製実習

花壇の管理実習

高山植物の鉢植え替え実習

令和6年度第2回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施

10月1日（火）～3日（木）に苫小牧研究林にて、令和6年度第2回北海道大学技術職員横断連携体験実習を実施しました。本実習は、北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクト事業の一環として実施したものであり、異なる職場の業務体験等を通して幅広い視野を養い、分野を超えた横のつながりを醸成することを目的としています。

苫小牧研究林では春と秋、研究林内を流れる幌内川の上流、約5.3kmの区間に生息している魚類を全て調査しており、今回の実習はこの魚類調査に合わせて実施されました。参加者は計4名（工学研究院3名、北方生物圏フィールド科学センター1名）で、二つの班に分かれ、それぞれ1泊2日の行程で実習を受けました。調査では、まず電気ショッカーを使用し魚を捕獲した後、魚の入ったバケツを調査の基地となるトラックまで運びました。トラックの荷台に設置された作業スペースでは、容器に魚を移し麻酔をかけた後、ICタグの確認、体長・体重の計測及び記録、写真撮影、あぶらびれのサンプル収集、未装着の魚へのICタグ装着の順に作業を行います。計測が終わった魚は、捕獲された場所付近に運ばれ麻酔が解けたあと放流されます。参加者はひととおり作業を見学した後、それぞれの作業に入りました。捕獲した魚を弱らせずに川に戻すためには、全ての工程で効率良く作業をしなくてはならないため、各作業には、至るところに工夫が見られました。ICタグの取り付けは、魚のお腹にメスを当てる力具合や、タグの挿入が難しく、魚を手で触っている時間が長くなってしまいやすいものの、目の前で同じ作業をする担当技術職員は、小さい魚でも素早くタグを取り付けており、参加者は熟練の技に驚いていました。1日目の作業終了後には、調査を指揮する岸田　治准教授から、調査の概要、研究成果に関する講義を受け、世界でも類を見ない取り組みに参加していることを実感する参加者の姿が見られました。

本実習を通じて、研究林の技術職員が教員から絶大な信頼を寄せられていることや、研究のアイデアを安全に実現するために欠かせない存在であることが垣間見られました。また、実習後のアンケートでは、「知見を広げることができた」「現在の業務を効率化するヒントが得られた」「通常業務のやり方を考えるきっかけになった」等の声が寄せられ、参加者にとって良い刺激となったことがうかがえました。

（技術支援本部）

トラック上の調査作業場

計測機器の説明

ICタグの取り付け作業

データ入力作業

第4回鈴木章賞授賞式及び第8回ICReDD国際シンポジウムを開催

創成研究機構化学反応創成研究拠点（以下、ICReDD）では、10月22日（火）～24日（木）の3日間、第4回鈴木章賞授賞式・受賞講演会及び第8回国際シンポジウムを、フード&メディカルイノベーション国際拠点を会場に、ハイブリッド形式にて開催しました。

鈴木章賞は、鈴木　章ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授の卒寿の記念と、2010年ノーベル化学賞受賞の功績を称え、鈴木章賞組織委員会によって2021年に創設されました。広義の化学反応の発見に関する研究への顕著な貢献を表彰し、科学技術の発展に寄与することを目的としており、実験科学分野と計算（理論）科学・情報科学分野のそれぞれにおいて化学反応開発に顕著な功績を収めた研究者に「アキラ・スズキ・アワード」と「アイクレッド・アワード」が贈られます。

第4回目となる2024年は、アキラ・スズキ・アワードをカリフォルニア工科大学のグレゴリー・フー教授が、アイクレッド・アワードをトロント大学のアラン・アスプル・グジック教授が受賞し、授賞式と併せて2名による受賞講演会が行われました。会場には、賞の創設以来初めて鈴木名誉教授が列席し、鈴木名誉教授からのご挨拶では、会場から大きな拍手が贈られるとともに、2名の受賞者も喜びの表情を見せていました。

続いて開催されたICReDD国際シンポジウムでは、ICReDDから3名、国内外から7名の招待講演者による講演が行われました。宇川　彰WPIプログラムディレクター及びICReDDの前田　理拠点長の挨拶に始まり、第1セッションでは情報科学分野、第2セッションでは材料化学と計算科学、2日目の第3セッションでは有機化学、第4セッションでは高分子化学とフロー化学、とテーマを分け、ICReDDの特色である「計算・情報・実験科学の3分野融合による化学反応開発」に沿った招待講演が行われました。

3日目はICReDD国際シンポジウムの中でも“Rising Star Program”と銘打ち、ICReDDのジュニア主任研究者（Jr. PI）企画による若手研究者の招待講演が行われ、ICReDDから1名、学外から6名が登壇しました。Rising Star Programではまた、2日目のポスターセッションにて、国内外から広くポスター発表者を募り、総勢52名のポスター発表者が会場に集いました。学外の優秀な学生には旅費の一部を支援するトラベル・アワードを、また、すべてのポスター発表者のうち優秀な発表を行った学生にはポスターセッション・アワードが贈られました。

3日目のクロージングでは、ICReDDの高　敏（ガオ・ミン）准教授より、講演者と参加者への感謝と挨拶が述べられ、シンポジウムは活況のうちに閉会となりました。シンポジウムへの参加人数は642名（対面398名、オンライン244名。延べ人数）で、3日間を通して日本のみならず世界各地からの参加者同士が積極的な議論・意見交換を行う姿が見られました。

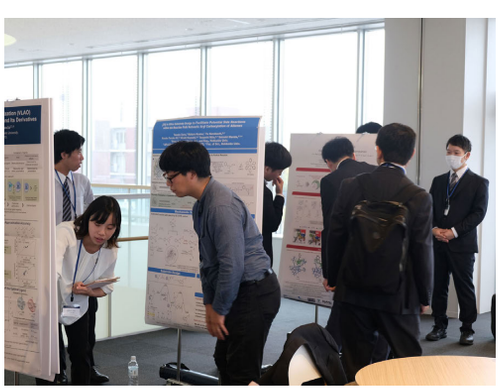
ICReDDでは今後もこのような国際シンポジウムを開催し、ICReDDにおける研究を世界へ発信するとともに、様々な分野の研究者との融合研究を展開していきます。

（創成研究機構化学反応創成研究拠点）

集合写真

鈴木名誉教授（左）の挨拶

会場の様子


ポスターセッションの様子

創成研究機構ワクチン研究開発拠点がBioJapan 2024に初出展

創成研究機構ワクチン研究開発拠点は、10月9日（水）～11日（金）までパシフィコ横浜で開催されたBioJapan 2024に初めて出展しました。

本イベントは、本拠点が出展したBioJapanと、再生医療JAPAN並びにhealth TECH JAPANの3展同時開催で、アジア最大級のパートナリングイベントです。国内だけでなく、海外からも多くの企業、スタートアップ、アカデミア、研究機関が参加し、開催3日間の来場者数は延べ約14,000人に上りました。

今回は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）／先進的研究開発戦略センター（SCARDA）による「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」における研究開発活動及び広報活動の一環として、当該事業や本拠点の研究開発概要を紹介するとともに、企業との連携強化、ワクチンシーズ導出や新たな共同研究開発の機会獲得を図るべく、参画5拠点機関（北海道大学、東京大学、千葉大学、大阪大学、長崎大学）が共同出展しました。

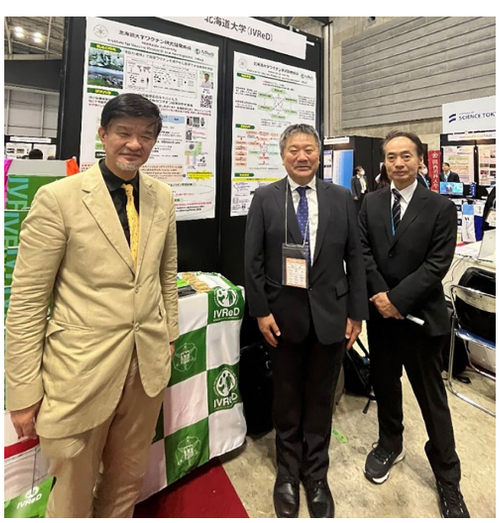
ブースでは、これまでの本拠点の研究成果や最新の取り組みなどについてポスター掲示した他、各種資料の配付や企業面談により、本拠点の活動を紹介するとともに、新たな共同研究の可能性を探索しました。特にキタキツネから分離した高病原性鳥インフルエンザウイルス株がプレパンデミックワクチン株として国から認定された成果や、新たな診断法の研究開発が注目を集めました。また、会期初日には、瀬戸口剛理事・副学長がブースに来訪し、本拠点の成果を確認しました。

パネル展示の他にも、プロジェクトマネージャーの山本啓一特任教授と人獣共通感染症国際共同研究所の山岸潤也教授により、本拠点の研究開発内容を紹介するプレゼンテーションが行われ、連日多数の聴衆の参加がありました。

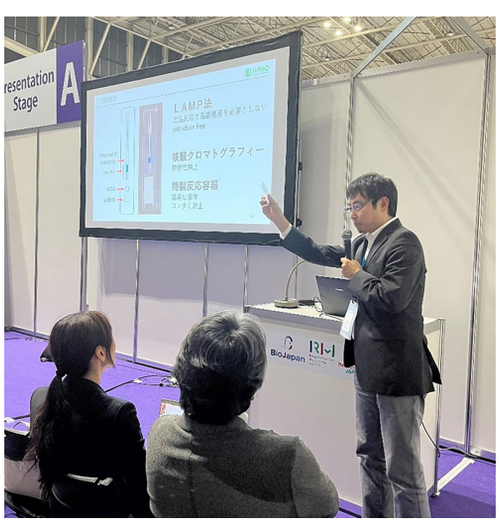
会期中、ブースには多数の来訪者があり、多くの企業・研究機関と新たな関係構築の機会を得ることができ、非常に有意義な情報発信・収集の場となりました。

今回は初めての展示ということもあり、手探りのところも多々ありましたが、本拠点では、来年度もBioJapanへ出展し、ワクチンシーズの導出や共同研究開発の推進を計画しています。

（創成研究機構ワクチン研究開発拠点）



左から瀬戸口理事・副学長、澤　洋文拠点長、山本特任教授



プレゼンテーションを行う山岸教授

高校生・高専生向け起業体験プログラム「StartupBaseU18 in 北海道大学」を実施

9月21日（土）～9月22日（日）の2日間で、産学・地域協働推進機構は株式会社まつりばの協力のもと、高校生・高専生向け起業体験プログラム「StartupBaseU18 in 北海道大学」を実施しました。

参加した学生28名はプログラムの冒頭で、それぞれビジネスとして実現してみたいアイデアを持ち寄り、「高校生が勉強できるおしゃれな空間を作る」「自分を客観的に知ることができるサービスを作る」など自身が直面している課題から発想したものや、「ロスフラワーから香水を作る」「自動分別するゴミ箱を作る」など社会課題に注目したものなど様々なアイデアを発表しました。これらのアイデアをもとに、チームで試作品であるプロトタイプを実際に開発し、これを用いてフィールドワーク・検証を行い、ビジネスの実現を体験しました。

プログラム1日目の後半には、ソウルドアウト株式会社の奥村裕貴エリアビジネス本部長・ゲームテクター株式会社の新井晶也代表取締役から参加者に対して、ビジネスの観点でアドバイスを行い、プロトタイプをブラッシュアップしました。2日目の最終発表会では、各チームが考案したプロトタイプの集大成を発表しました。審査員は、札幌市教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課の西野功泰指導主事、株式会社バイオビアの宮地帝輔代表、合同会社Kプロジェクトの三好清佳代表の3名に務めていただき、発表に対してご講評をいただきました。

教育関係者や起業家など様々な分野の専門家からビジネスアイデアへのフィードバックをいただくことで、参加学生にとって貴重な学びの機会となりました。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日程：9月21日（土）～9月22日（日）
場所：北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）
対象：18歳以下の高校生、高専生
主催：北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部
共催：北海学園大学地域連携推進機構
後援：HSFC、STARTUP HOKKAIDO
協力：株式会社まつりば
協賛：ソウルドアウト株式会社

グループワークの様子

メンタリングの様子

最終発表の様子

集合写真

アントレプレナーシップ教育プログラムを中富良野町にて実施

9月27日（金）に産学・地域協働推進機構は株式会社NudgeUと協働し、中富良野町にて小中学生向けアントレプレナーシップ教育プログラムを実施しました。

本プログラムでは、中富良野町立中富良野小学校の総合的な学習の時間を活用して小学5年生30名を対象に小中学生がアントレプレナーシップ教育を学べるカードゲーム型教育プログラム「チャレンジピッツァ」を実施しました。株式会社NudgeUは、本学のアントレプレナーシップ教育を受けた大学生がプログラムを開発し、創業した企業です。これまで多くの社会教育の場で実施してきましたが、この度初めて公教育の場での実施事例となりました。

また同日、産学・地域協働推進機構の椎名希美特任准教授が、中富良野町の教職員30名にアントレプレナーシップ教育の意義と公教育への導入に関するセミナーも実施しました。

9月28日（土）には、株式会社NudgeU及び一般社団法人GENE BOXと協働し、中富良野町のカフェであるCaféてくりで「チャレンジピッツァでアントレプレナーシップinてくり」を実施し、中富良野町の小中学生15名が参加しました。本プログラムは「チャレンジピッツァ」と、Caféてくりご協力のもと「ピザづくり体験」を掛け合わせ、食育とアントレプレナーシップの醸成を目指して実施しました。

参加した小中学生からは「初めてアントレプレナーシップという言葉を聞いて、面白いと思った」などの意見が寄せられ、一方で教職員からは「アントレプレナーシップ教育の必要性は感じているが、既存の限られたカリキュラム内にどう導入するかが課題である」といった小中学校へのアントレプレナーシップ教育の展開に向けた課題も見つかりました。

今後も北海道の様々な教育段階へのアントレプレナーシップの涵養に資するべく、このような取り組みを継続的に実施してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容①

実施日： 9月27日（金）
場　所：中富良野町立中富良野小学校
参加者：小学5年生30名、教職員30名

実施内容②

実施日： 9月28日（土）
場　所：Caféてくり
参加者：小中学生15名

中富良野小でのチャレンジピッツァ開始の様子

考えたアイデアを発表する様子

大学生によるファシリテーションの様子

Caféてくりでの集合写真

「Vtuter ～VTuberと一緒に社会課題を学ぼう～」を開催

産学・地域協働推進機構は、本学のアントレプレナーシップ教育プログラムを受講した中学生と協働し、「Vtuter　～VTuberと一緒に社会課題を学ぼう～」を開催しました。

本イベントは、札幌市の中学生を対象とし、食育をはじめとした社会課題を学ぶことを目的として実施しました。企画・運営を担当した中学生の上原知世さんは、令和5年度に開催したアントレプレナーシップ教育プログラム「アントレクエスト」に参加した際に本イベントを構想し、この他アントレプレナーシップ教育イベントに継続参加する中で、アイデアを具体化し、この度実現に至ったものです。

本イベントは、中学生にとって日頃から関心が高いVTuberを講師役とすることで、参加者自身が普段の生活で実感することが難しい社会課題を身近に感じさせることを狙いました。プログラムの中で、参加者は食育をはじめとした社会課題について積極的なディスカッションを展開し、それらの社会課題を解決するオリジナル料理のメニューを考案しました。

参加者からは「VTuberがいたことでいつもより話しやすかった」「これまで社会課題について考えたことがなかったが、これから考えていきたいと思えた」などの声がありました。企画・運営をした上原さんからは「初めてのことばかりで、良い挑戦になった。成功した部分と失敗した部分もあり、今後も継続してより良いイベントを作って社会課題への意識を広げていきたい」との感想がありました。また、本イベントはNHKの取材を受け、番組上で紹介されたこともあり大きな反響がありました。

今後も北海道のアントレプレナーシップの涵養に資するべく、このような取り組みを継続的に実施してまいります。

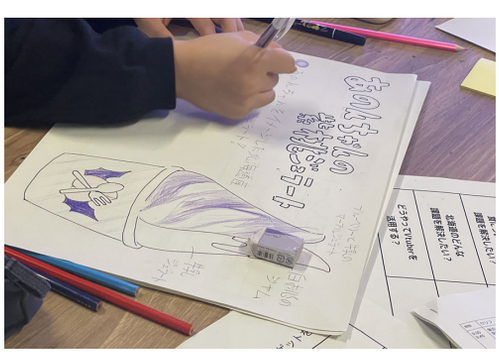
（産学・地域協働推進機構）

イベント実施内容

日　時：9月29日（日）10:00～12:00
内　容：VTuberと一緒に社会課題とその解決アイデアを考えるワークショップ
参加者：中学生15名
会　場：Deep Tech CORE SAPPORO

会場の様子

グループでのディスカッション


オリジナルのメニューを考案

XRスタジオにて集合写真

産学・地域協働推進機構が「北海道大学新技術説明会」を開催

国立研究開発法人科学技術振興機構と産学･地域協働推進機構は、10月10日（木）にJST東京別館ホール（東京都千代田区）において、「北海道大学新技術説明会」を開催しました。

本新技術説明会は、産学･地域協働推進機構が主催し、本学が持つ特許技術シーズを集め、研究者が自身の特許技術について実用化を展望した技術説明を行うことで、事業化及び共同研究を希望する企業等と本学がマッチングを図るイベントです。昨年に続き今回も対面にて開催し、1日8件の講演発表が実施されました。

来場者数は31名、個別相談件数は3件、名刺交換数は27件に上りました。これにより、参加者との新たな関係構築の機会が生まれ、今後の連携の可能性が広がっています。

アーカイブ配信の視聴申込は約500名となり、多くの方々から関心を寄せられたことも大きな成果です。今後、引き合いを受けた企業様に対して継続的なフォローを行い、技術移転活動に反映させてまいります。

（産学・地域協働推進機構）

1.「植物細胞やポリマー分析のための変色する蛍光色素」　地球環境科学研究院：山田幸司准教授
2.「ペプチド由来の環境にやさしい船底防汚物質の開発」　地球環境科学研究院：梅澤大樹准教授
3.「固体触媒を利用したバイオマス由来環状ジオールの合成」
触媒科学研究所：中島清隆教授（代理：大須賀遼太助教）
4.「フロー自動反応最適化装置」　理学研究院：永木愛一郎教授
5.「銀系化合物を用いる水素の活性化とCO_2のメタン等への転換」
工学研究院：坪内直人准教授
6.「中分子ペプチドの構造最適化を網羅的かつ迅速に実現するペプチドスキャニング手法」
薬学研究院：市川　聡教授
7.「血液を使って非アルコール性脂肪性肝炎を診断する手法の開発」
保健科学研究院：櫻井俊宏准教授
8.「難治性間質性肺炎の新規の非侵襲治療技術の開発」　遺伝子病制御研究所：村上正晃教授

新技術説明会の様子

マサチューセッツ大学アマースト校の研究担当理事一行が本学を来訪

10月1日（火）、2日（水）に、本学の戦略的国際研究パートナーである米国マサチューセッツ大学アマースト校のローラ・バンデンバーグ研究・外部連携担当理事、マイケル・フォックス自然科学研究院長、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長が本学を来訪しました。同校はマサチューセッツ大学の5校の旗艦校に当たり、札幌農学校の初代教頭であるウィリアム・スミス・クラーク博士が第三代学長を務めたマサチューセッツ農科大学に端を発します。クラーク博士が北海道に滞在した期間は1年にも満たないものですが、その影響は今なお大きく、同校にとっても印象深い土地となっています。特に自然科学研究院は、農科大学時代からの母体であるストックブリッジ農学校を傘下に収めており、フォックス研究院長からはこの訪問に対する想いが明かされました。

平成27年以降の国際連携研究教育局（GI-CoRE）の食資源、ビックデータ・サイバーセキュリティ分野での教員のクロスアポイントメント、先端生命科学研究院の龔　剣萍教授と先方高分子工学科のアルフレッド・クロスビー学科長のグループにおける若手研究者交流と、近年の人事交流を踏まえ、令和5年の寶金清博総長一行のアマースト校訪問を経て、両校は戦略的国際研究パートナーとして全学的に持続可能な研究連携を強化することで合意しました。令和6年1月には、「高分子工学におけるバーチャルシンポジウム」を合同開催するに至りました。また、同じく戦略的国際研究パートナーである豪州メルボルン大学と同様に、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」における本学の海外連携機関になっています。

寶金総長、瀬戸口剛理事・副学長（研究担当）、髙橋　彩理事・副学長（国際担当）に迎えられた来訪者一行は、既存連携先の農学研究院、北方生物圏フィールド科学センター、先端生命科学研究院、情報科学研究院、工学研究院を訪問しました。北方生物圏フィールド科学センターでは、星野洋一郎教授から両校の果樹園農産物連携が提案されました。更なる連携可能性の拡大のため、獣医学研究院、動物医療センター、人獣共通感染症国際共同研究所、ワクチン研究開発拠点、エネルギー・マテリアル融合領域研究センター、スラブ・ユーラシア研究センター、現代日本学プログラムの代表教員たちとも面会し、施設を視察しました。また、横田　篤理事・副学長（サステナビリティ担当）と植村妙菜学術主任専門職の案内の下、札幌農学校第二農場、総合博物館、大学文書館等、クラーク博士やウィリアム・ペン・ブルックス博士の時代を偲ぶ資料を見学しました。総合博物館では首藤光太郎助教からクラーク博士が収集した地衣類の標本について説明があり、今なお残る148年前の植物標本が今日の研究に繋がるという事実に感銘を受けていました。

訪問の締めくくりには、寶金総長から「令和8年に迎える北海道大学150周年記念には、是非再度の来札を」との提案があり、バンデンバーグ理事より「その頃までに更に研究連携の拡大を」との期待が示されました。2年後の札幌での再会が待たれます。

（国際連携推進本部）

クラーク博士の植物標本を楽しむ来訪者一行

ストックブリッジ農学校を束ねる
自然科学研究院長とクラーク博士の肖像

執行部、連携部局長たちと来訪者一行

マサチューセッツ大学アマースト校一行を迎える寶金総長

タルトゥ大学との国際教育連携を確認

10月21日（月）、本学の大学間交流協定校であるエストニア共和国タルトゥ大学で修士課程のプログラム「現代アジア及び中東学」を担当する、エヴァ・リイアス経済・経営学部講師が本学を訪問しました。これは、欧州連合の「Erasmus+（エラスムスプラス）」事業の支弁による訪問で、令和3年に本学学部学生の短期派遣事業ファースト・ステップ・プログラム受講生と当該教員のオンライン交流の機会があったこと、先方学部学生のHUSTEPへの定期的な受け入れがあることから実現したものです。

リイアス講師は、今後の国際教育連携の可能性を探るべく、現代日本学プログラム（MJSP）の佐々田博教教授、石見　禎講師、Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）を担当する国際交流課の竹内亮太係長、助川祐太係員、HUSTEPのピーター・フィルコラ教授、佐々木友恵特定専門職員、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職との面会を行いました。現在は中国に重点が置かれているタルトゥ大学の当該プログラムで、多角的な視野を持つ学生を育てるためにも、日本、台湾、韓国といった国・地域の地政学要素を取り入れたいこと、欧日の貿易摩擦と中小国・企業での食品輸出入に係る課題、学部学生の企業インターンシップの実情と設計等が話され、互いの既存の枠組みであるゲストレクチャーシリーズやHokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）の活用、ハイブリッドイベントの両大学学生への拡大の提案がなされました。

また、本学に留学中のタルトゥ大学の学生2名からも、本学のキャンパスや教職員・学生の印象、履修科目と課題の多さから見る両国国立大学の教育の違い、エストニアの気候との類似性から来る北海道の居心地の良さ等を聞き、学生感覚での北大を知る機会となりました。

（国際連携推進本部、学務部国際交流課）

MJSP教員との面会

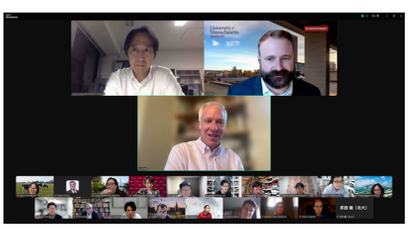
HUSTEPに参加するタルトゥ大学の学生たちと

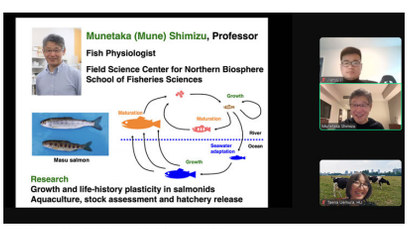
米国マサチューセッツ大学アマースト校との研究ワークショップを開催

10月21日（月）～23日（水）の3日間、本学の戦略的国際研究パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校と、研究者マッチングのためのワークショップを開催しました。これは、10月初めにアマースト校のローラ・バンデンバーグ研究・外部連携担当理事、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長、マイケル・フォックス自然科学研究院長が来札したのに合わせて計画されていたもので、両校で共同出資する「HU-UMA共同研究シードファンド（仮称）」を立ち上げるにあたり、複数分野の研究者が繋がりを得る契機として開催されました。

両校の共通関心分野として、「先端材料と応用生命科学」「再生可能農業と持続可能性」「人文学と社会」という大きな枠組みの3分野で開催されたワークショップは、バンデンバーグ理事による趣旨説明を経て、本学先端生命科学研究院から5名、工学研究院から5名、水産科学研究院から2名、北方生物圏フィールド科学センターから1名、スラブ・ユーラシア研究センターから1名、メディア・コミュニケーション研究院から2名、文学研究院から1名が参加し、研究紹介、重なり合う研究・教育・施設環境の確認、シードファンド申請に係る想定が話し合われました。多様な研究内容ながらも、大きいテーマで繋ぐ異分野融合研究を増やすための方針は、ファンドの枠組みにも反映されます。研究者たちは、両校連携に対する心境、商品開発可能性、「帝政終焉時・後」といった一つの時代設定に基づき広く研究者が集まるバーチャルシンポジウムの今後の開催等を含め期待を語りました。

（国際連携推進本部）


先端材料・応用生命科学のワークショップ



再生可能農業・持続可能性のワークショップ

人文学・社会のワークショップ

第8回道総研オープンフォーラムに横田　篤理事・副学長が登壇

9月27日（金）に、地方独立行政法人北海道立総合研究機構が、かでる2・7（北海道立道民活動センター）において開催した「第8回道総研オープンフォーラム」の基調講演に横田　篤理事・副学長（最高サステイナビリティ責任者）が登壇し、「北海道の未来を見据えた北海道大学の取り組み　―SDGsを中心に―」と題して講演を行いました。

横田理事・副学長は講演の中で、本学は世界最大の研究林（国土の約0.2%）、広大な農場を保有しており、フィールド資産を活用してSDGs課題の中核をなすフィールドサイエンスに強みを持つ大学として発展してきたこと、キャンパスマスタープランを国立大学で初めて策定したこと、THEインパクトランキングで高い評価を得ていること、昨年度、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）に採択されたこと、令和5年には「HU VISION 2030」を、令和6年には「北海道大学サステイナビリティ宣言」を策定したこと等を説明しました。

また横田理事・副学長は、こうした本学発展の経緯を踏まえ、学長のリーダーシップ（トップダウン）のもと、各自がサステイナビリティに繋がる活動をしているとの認識を促し、矜持と尊厳を持って自らの可能性に挑戦し、能力を最大限に発揮できる環境を整えることで、サステイナビリティやSDGsの概念を大学全体に浸透させ、組織の一体感の醸成と、SDGsの倫理観の浸透を実現し、これにより、大学が総合力を発揮して世界の課題解決に取り組むこと（ボトムアップ）で、社会から共感を得てその存在価値を高め、社会的インパクトを向上させることが本学の運営に肝要であるとの基本的な考え方を示しました。その上で、北海道地域の持続可能な未来社会の構築のために、自治体と連携した共同研究、人材育成などへの展開に貢献したい、すなわち「第9期北海道総合開発計画」及び「北海道総合計画」の達成に貢献していきたいと述べました。

本フォーラムの展示ホールでは、「HU VISION 2030」や、THEインパクトランキングにおける本学の評価を紹介するパネルが展示されました。

（サステイナビリティ推進機構）

基調講演を行う横田理事・副学長

横田理事・副学長登壇の様子

会場の様子

パネル展示の様子

システミックデザイン体験 1day Boot Campプログラムを開催

サステイナビリティ推進機構は、10月6日（日）に学術交流会館にて、「脱炭素と自然保全を考えるシステミックデザイン体験1day Boot Camp」を開催しました。株式会社BIOTOPEの戦略デザイナー/システミックデザイナーである山田和雅氏をファシリテーターとしてお招きし、本学のサステイナビリティ推進を進化させるために、共創活動の基盤となる「システミックデザイン」という課題解決の考え方を習得するとともに、実践型で学びながら未来を構想しました。本プログラムには学部生・大学院生11名及び教職員3名が参加しました。

今回用いた「システミックデザイン」はイリノイ工科大学デザインスクールで開発したツールで、「システム思考」と「デザイン思考」を融合させた関係性のデザイン手法です。参加者の多様な視点を集め、システム構造図として課題を構造化し、解決策をシステマチックに導出していきます。まずは現在の状況をそのまま（as is）捉え、ミクロレベルから、メゾ、マクロ、意図へと4つの次元に転換していき、そこからあるべき姿（to be）の規範から問いのデザインを行い、解決策のデザインへ展開していく手法です。

当日は、最初に山田氏からアイスブレークとシステミックデザインについての講義を受けた後、4つのグループに分かれ、キャンパス内の「教育研究施設エリア」「保全緑地・水系エリア」「歴史・伝統建物エリア」「博物館やコンビニなどの外部との共有エリア」の現状調査を行いました。今回は現状をできるだけそのままシステム化するため、現地で気になる写真を撮影し分析の材料としました。撮影した写真から、アクター（人物＋人工物＋自然物）を抽出し（ミクロ）、アクター間の関係性から得られるサービスを記述（メゾ）し、サービスが志向している価値観（マクロ）と意図を、システミックに構築していきました。グループ内及びグループ間で共有することで、多様な視点を組み込むことができました。

次に、構築したシステム構造に対して、あるべき姿（to be）から「批判（クリティック）」を加え、社会環境システムをリ・デザインしていきました。今回のあるべき姿は、「脱炭素」「環境保全」「ウェルビーイング」の規範を取り上げ、リ・デザインを行っていきました。

その結果、キャンパスを訪れる一般市民や観光客との共存や、学生目線でのキャンパスづくりなどの提案が数多く出されました。参加者は、システミックデザインについて習得するとともに、社会課題解決の提案にこの手法が有用であることを理解することができました。

サステイナビリティ推進機構は、これからも社会課題解決のための手法に関する人材育成を進めていきます。

（サステイナビリティ推進機構）

ファシリテーターを務めた山田氏

撮影した写真を元にアクターを抽出

リ・デザイン案を発表する様子

参加者及びスタッフによる集合写真

ウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」で「無料で健康チェック！」を実施

本学ほか4者で進めるウェルネス推進プロジェクト「H-ARTs（ハーツ）」では、10月20日（日）に「無料で健康チェック！」を実施し、過去最多の285人が参加しました。

今回は、保健科学研究院の小笠原克彦教授が「脚の筋力とバランス測定」を行ったほか、「骨健康度測定」「脳年齢測定」及び推定野菜摂取量が測定できる「ベジチェック®」を実施しました。また、健康チェックの測定結果について相談できるブースや、札幌市北区第1地域包括支援センターによる「高齢者の介護相談」、札幌市北区介護予防センター新道南による「簡単！健康状態チェックブース」を設けました。さらに、北海道キリンビバレッジ株式会社と江崎グリコ株式会社の協力のもと、免疫ケア飲料の試飲コーナーや、ゲーム感覚で糖質について学べるクイズと糖質＆塩分OFFの商品紹介を行う「糖質＆塩分OFFブース」を設置しました。次回は2025年3月9日（日）に開催予定です。

（サステイナビリティ推進機構、保健科学研究院）

名　称：無料で健康チェック！
日　程：2024年10月20日（日）10時00分～16時00分
場　所：スーパーアークス北24条店1F及び2F（札幌市北区北24条西9丁目1-1）
主　催：北海道大学、株式会社アークス、株式会社ラルズ、株式会社ツルハ、札幌市
協　力：札幌市北区第1地域包括支援センター、札幌市北区介護予防センター新道南、北海道キリンビバレッジ株式会社、江崎グリコ株式会社
対　象：一般市民
参加費：無料

脚の筋力とバランスを測定する小笠原教授（左）

骨健康度測定を補助する加藤　悟サステイナビリティ推進機構教授（右）

測定結果の相談の様子

札幌市北区第1地域包括支援センターによる「高齢者の介護相談」

博士人材と企業の情報交換会第56回「赤い糸会」を対面で開催

大学院教育推進機構先端人材育成センター上級人材育成部門（S-cubic）では、10月17日（木）に札幌グランドホテルにて、本年度第2回（通算第56回）「赤い糸会」を開催しました。

本会は、企業には博士人材の高い専門性や総合力を理解いただき、博士人材には企業の研究開発活動や企業における博士人材の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で通算56回目の開催となる「赤い糸会」は、本学の博士人材が文系を含む10部局32名、連携大学からは博士人材1名（兵庫県立大学）が参加しました。企業については、本会は他のオンライン（無料）での実施回に対して、参加費や旅費の負担が必要であるにもかかわらず、参加を希望する企業が多いため、その中から厳選した17社37名が参加しました。

当日は、大学院教育推進機構長の山本文彦理事・副学長による開会挨拶、先端人材育成センター長の吉原拓也教授による趣旨説明の後、企業から業界動向や博士人材の活躍状況等の紹介が行われ、その後、博士人材の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。情報交換交流会では、先端人材育成センター副センター長の亀野　淳教授から開会の挨拶があり、学生のポスター発表に関する表彰を行いました。

開催後、企業からは、「多くの学生と1対1で交流することで、各自の今後の希望についてきちんとヒアリングでき、充実したイベントになった」「博士学生との接点を持つための企画が複数用意されており、得難い機会となっている」との声をいただくことができました。また参加した博士人材からは、「これまで注目していなかった企業にも注目いただき興味の幅が広がった」「時間配分やポスターの配置など、とてもよく考えられた会だと感じた」といった嬉しい声も聞かれました。

先端人材育成センターでは上記の活動のほか、Advanced COSA、J-window（個別キャリア相談）、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。

なお、興味のある方は先端人材育成センターのウェブサイトを是非ご覧ください。

https://fohred.synfoster.hokudai.ac.jp/

（大学院教育推進機構）

山本理事・副学長の開会挨拶

博士人材ポスター発表の様子

企業ブース交流会の様子

和歌山県古座川町×北大まるごと交流祭を開催

広報・社会連携本部では、本学と自治体が連携し、地域の課題解決と活性化を目指す「自治体×北大まるごと交流祭」を令和6年度から開催しています。

10月25日（金）に、北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林がある和歌山県古座川町とともに、「和歌山県古座川町×北大まるごと交流祭」をオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」（以下、エンレイソウ）にて開催しました。

エンレイソウにおいては、10月21日（月）から古座川町の特産品や和歌山研究林グッズなどを展示し、25日（金）は、それらを販売する「マルシェ」、古座川町の役場職員や和歌山研究林の職員等と古座川町の魅力を語り合いながら交流する「古座川町＆和歌山研究林交流会」、古座川町の地域課題をテーマに古座川町と本学の研究や教育の連携の可能性について参加者を交えてディスカッションする「地域経営×大学リーダーゼミ」を実施しました。

マルシェでは、ジビエ（鹿）のソーセージを炭火で焼いて販売し、ジューシーなソーセージの匂いに引き寄せられるように、約700名の方が来場して大変な賑わいとなりました。古座川町＆和歌山研究林交流会には61名、地域経営×大学リーダーゼミには66名と多くの方が参加し、熱い議論が交わされました。

さらに、古座川町の大屋一成町長が終日参加され、来場者や参加者と交流を深めました。また、寳金清博総長との対談を行い、和歌山研究林を通した古座川町と本学の絆を再確認するとともに、令和7年度に迎える和歌山研究林創立100周年に向けた機運の醸成と、今後のさらなる連携の強化を約束し、力強い握手が交わされました。

全体を通してイベントは大きく盛り上がり、大屋町長からは「本交流祭をきっかけに和歌山研究林、北大全体とのさらなる連携による地域活性化の形を具体的に考えていきたい」とのお言葉をいただき、古座川町と本学の関係をより一層深める機会となりました。

（広報・社会連携本部）

マルシェの様子

古座川町＆和歌山研究林交流会に
参加する大屋町長（右）

地域経営×大学リーダーゼミで発表する
和歌山研究林の岸田　治林長

寳金総長（左）と大屋町長（右）

文学研究院FD「なぜ北大も男だらけなのか」を開催

文学研究院では、令和6年度第2回FD研修を10月25日（金）午後1時からクラーク会館で開催しました。講師には、東京大学副学長・教授の矢口祐人氏をお迎えし、「なぜ北大も男だらけなのか」と題し、質疑応答を含み約1時間30分にわたり実施しました。

FDは川端康弘文学研究院長による開会の挨拶に始まり、『なぜ東大は男だらけなのか』（集英社新書）の著者である矢口教授に、日本のトップ大学における教員と学生間の女性・男性比率とその課題について、東京大学及び北海道大学のデータ等を提示しながら講演いただきました。講演後の質疑応答の時間では、積極的な意見交換がなされ、最後はダイバーシティ・インクルージョン推進本部の矢野理香副本部長による閉会の挨拶にて終了いたしました。

今回のFDは、参加者が女性と男性や、都市と地方における教育の機会の不均衡など、誰もが平等・公平・公正に過ごせる大学づくりについて、主体的かつ具体的に考えるよい機会となりました。

また、本FDは、「2024年度 ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた部局等による取組支援プログラム」採択事業として、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部と共催で実施しました。文学研究院だけでなく、本学の教職員・学生及び一般市民も参加対象とし、事前にメディアでも告知されたため、当日は総勢155名が参加した大変有意義な一般公開型のFDとなりました。

（文学研究院）

川端文学研究院長による開会挨拶

講師の東京大学副学長・矢口教授

参加者の様子

矢野ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長による閉会挨拶

会計専門職大学院が税理士制度説明会を開催

10月15日（火）に、会計専門職大学院と北海道税理士会との共催により、「税理士制度説明会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて対面で開催しました。この説明会は、学部・学院を問わず広く本学の学生へ、税理士についての理解を深めてもらうことを主たる目的としています。

北海道税理士会広報部長である峯岸正幸氏からは、税理士の社会的使命や魅力、税理士（業界）の現状等について、同会のPR動画を交えてご説明いただきました。同会広報副部長である伊藤貴雄氏からは、税理士試験の概要や実務経験について、また同会広報部委員である佐藤史郎氏からは、税理士というプロフェッションに限らず、自分の目標に向かって努力をすることの重要性について語っていただきました。

最後に、同会租税教育推進部副部長である吉田大吾氏からは、社会人を経て税理士を目指した経緯を、ご自身の経験をもとに語っていただきました。身近な存在である税理士について分かりやすく解説していただき、学生にとって将来の選択肢の一つになることが期待されます。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

説明会の様子

令和6年度分島亮研究奨励金授与式を挙行

9月13日（金）、理学研究院において、「令和6年度分島亮研究奨励金授与式」が執り行われました。

本奨励金は、分島　哲様・敦子様が、令和3年5月に逝去されたご子息の分島　亮様（元理学研究院准教授）の意志を引き継ぎ、基礎研究を行う若手ポスドクの支援を目的にご寄附されたことを契機に、理学研究院において若手ポスドクの研究を支援しようとする趣旨で創設されたものです。

授与式では、関係者列席のもと、網塚　浩理学研究院長から採択者3名に証状が授与され、本奨励金の趣旨と今後の研究活動に対する期待と激励の言葉が述べられました。

（理学研究院）

採択者との記念撮影（左から張　潘潘博士研究員、
尾崎有紀専門研究員、網塚研究院長、神野智世博士研究員）

マハサラカム大学獣医学部が生命科学院・理学研究院・理学部を表敬訪問

9月18日（水）、マハサラカム大学獣医学部（タイ）のスカンヤ・リートンディー学部長をはじめとする訪問団が、生命科学院・理学研究院・理学部を表敬訪問しました。マハサラカム大学はタイ東北部に位置し、近年各種ランキングで順位が上昇している総合大学です。今回は生命科学院生命システム科学コースの博士後期課程に同大学の教員が所属している縁で、将来的な部局間協定を見据えての表敬訪問が実現しました。

当日は理学部国際化支援室長の河村　裕教授が本学全体の説明を行った後、網塚　浩理学部長・理学研究院長と佐藤美洋生命科学院長らが加わって、お互いの部局についての説明が行われました。その後、昼食をとりながらさらに交流を深め、今後の部局間協定のあり方について建設的な議論を行いました。昼食後、訪問団は総合博物館をはじめとした札幌キャンパスを視察し、最後に同大学の教員の受け入れ先である生殖発生科学分野の木村　敦教授・藤森千加助教の研究室を視察しました。この表敬訪問を受けて、今後は部局間協定に向けて具体的な議論を進めていくことで一致しました。

（生命科学院・理学研究院・理学部）

部局間の説明の様子

マハサラカム大学獣医学部の訪問団とともに

令和6年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム（SMatS）第6期生採用式を開催

9月25日（水）、北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム（以下、SMatS）第6期生採用式が理学部にて執り行われました。このプログラムは、大学院生に対して、専門分野の研究にとどまらず、スマート物質科学力並びに社会実装実現力を養成するものです。武次徹也プログラムコーディネーター・理学研究院教授が6名のプログラム生に採用認定証を授与しました。

認定証授与ののち、武次プログラムコーディネーターから挨拶があり、採用への祝意と本プログラムの概要、そしてプログラム生の今後の活躍を期待しているとの言葉がありました。

採用式に続き、髙橋正行特任教授によるガイダンスが行われました。特に人的ネットワーク形成力を涵養する科目群の中でも社会的に注目され、4年間継続して続けている「DX提案実践演習」が詳しく紹介されました。この実習はIT企業における顧客へのDX提案を体験するインターンシップ形式のアクティビティです。日本オラクル株式会社の支援のもと、富良野市や石狩市と共働し、各種メディアでも取り上げられてきました。

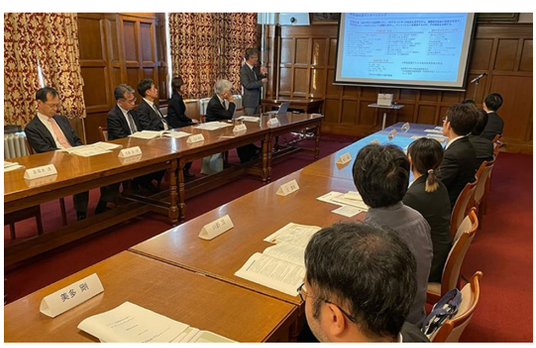
その詳しい内容はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信）で紹介されています。
https://phdiscover.jp/phd/article/1380
https://phdiscover.jp/phd/article/1939
https://phdiscover.jp/phd/article/2772

採用された学生の皆さんは熱心に聞き入り、これからの学びに期待を寄せていました。

（総合化学院、理学院、工学院、環境科学院、生命科学院、情報科学院）

武次プログラムコーディネーターの挨拶

手前から6名のプログラム生


髙橋特任教授による履修ガイダンス

医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンターが第3回北海道大学医療AIシンポジウムを開催

8月17日（土）、学術交流会館にて、医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンター（HAIXIC）主催のもと、第3回北海道大学医療AIシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、国内外の研究者による最先端の医療AI研究成果の発信、産学連携の推進、さらに今後、医療AIの開発者を目指す研究者たちに対し、人脈形成や国際的視野の拡大、共同研究の機会、将来のビジョンやキャリアパスの形成に貢献することを趣旨として、2022年から毎年開催しています。第3回となる今回は、対面参加とオンライン参加ができるハイブリッド形式で実施し、国際展開に重点を置いて全て英語で行いました。

本シンポジウムは、全体を「Imaging（画像診断・画像解析）」「Surgery（手術）」「Gait（歩行の解析）」並びに「Informatics（情報学）」の4セクションに分け、国内外の著名な講師を招聘し、最先端の医療AI研究についてご講演をいただきました。さらに、AIRS　Medical社、スター・プロダクト株式会社にはランチョンセミナー、キヤノンメディカルシステムズ株式会社並びに富士フイルムメディカル株式会社にはイブニングセミナーをご協賛いただきました。

シンポジウム当日は、現地55名、Zoomでは143名（うち海外29名）の方々にご参加いただき、医療AIの最新技術開発の現状、並びに将来の展望について活発な議論が交わされ、盛況のうちに終了いたしました。今後もHAIXICでは、国際的な視野を広げ、研究者間のネットワークを形成し、共同研究や将来のビジョン、キャリアパスの構築に繋がるイベントを積極的に開催します。学部生、大学院生、教職員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

HAIXICは、医療AI開発者養成プログラム（CLAP）を提供しています。興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください。

https://ai.med.hokudai.ac.jp/news/2894/

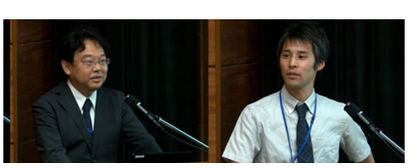
（医学研究院）

セッション名	講師のお名前（ご所属）
AIRS Medical社、スター・プロダクト株式会社によるランチョンセミナー	ジョンホ・リー（ソウル大学校　教授） 藤間憲幸（北海道大学病院　講師）
Imaging（画像診断・画像解析）	渡邉嘉之（滋賀医科大学　教授） チェン・ユー・チェン（台北医学大学　教授）
Surgery（手術）	杉森博行（北海道大学　准教授） 河野健一（株式会社iMed Technologies　代表取締役CEO）
Gait（歩行の解析）	角家　健（北海道大学　特任准教授） 中尾元基（岩手医科大学　助教）
Informatics（情報学）	ヴィクラム・パティル（JSS医科大学　教授） マイク・コンウェイ（メルボルン大学　講師）
キヤノンメディカルシステムズ株式会社によるイブニングセミナー	菊地智博（自治医科大学　講師）
富士フイルムメディカル株式会社によるイブニングセミナー	伊藤広貴（富士フイルムメディカル株式会社） 坂本圭太（北海道大学病院　講師） 加藤大祐（北海道大学病院　医員）

右上から時計回りに藤間講師、チェン教授、渡邉教授、リー教授

右上から時計回りに河野CEO、中尾助教、角家助教、杉森准教授

右上から時計回りにコンウェイ講師、伊藤氏、菊地講師、パティル教授



左から坂本講師及び加藤医員

医学研究院が動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では、10月4日（金）、医学部学友会館にて、令和6年度動物慰霊式を執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、100名以上の教職員、学生等が参列しました。

はじめに大場雄介施設長から追悼の辞を述べた後、畠山鎮次医学研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行いました。最後に大場施設長から、適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）

追悼の辞を述べる大場施設長

畠山研究院長による挨拶

参列者による献花

令和6年度第2回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議を開催

10月4日（金）、本学が当番大学となり、令和6年度第2回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議（以下、薬学部長会議）を開催しました。

薬学部長会議には、全国20の薬学部及び関係大学院を有する国公立大学の薬学部長、科長、学長の出席に加え、文部科学省高等教育局医学教育課、厚生労働省医薬局総務課の各担当の方々に出席いただき、オンライン（Zoom）形式での開催となりました。

会議では、まず厚生労働省医薬局の大原　拓薬事企画官から、厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会での検討事項、令和7年度の医薬関係概算要求の概要等についての情報提供がありました。

続いて、文部科学省高等教育局の俵　幸嗣医学教育課長から創薬力向上に関する国内の取組、令和7年度概算要求事項の内容説明、薬学実務実習充実に係る厚生労働省及び文部科学省における議論の方向性について情報提供がありました。

その後、参加者の間で、令和7年度概算要求事項における調査研究の内容や、創薬力の向上に対しての大学の役割等について、活発な意見交換が行われました。

続いての報告事項として、第1回薬学部長会議において議論され、その後の各大学への意見聴取後にまとめられた文部科学省への要望書に基づき、9月19日（木）に行われた文部科学省高等教育局と上原　孝岡山大学薬学部長、本学の木原章雄薬学部長との意見交換内容の紹介、薬学部長会議のもとに置かれた国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会及び国公立大学高度先導的薬剤師養成プログラム運営委員会からの検討内容の報告などが行われました。

今後の我が国の創薬力を加速するための新たな人材育成の方策など、大学が今後進めるべき教育研究の在り方について、文部科学省・厚生労働省及び各大学間で課題及び方向性を共有し、会議は成功裏に幕を閉じました。

（薬学研究院・薬学部）

議長を務める木原薬学部長

会議の様子

工学研究院等自衛消防訓練（ShakeOut消防訓練）を実施

工学系部局では、10月17日（木）に自衛消防訓練を実施しました。

訓練は、工学系部局敷地内にある土木工学研究棟、機械工学総合研究棟、資源工学研究棟、量子集積エレクトロニクス研究センター、データ駆動型融合研究創発拠点棟の五つの棟を対象として行われ、教職員・学生の地震発生時の防災行動及び建物からの避難、特設テント内の煙の中で行う避難体験、水消火器訓練、屋外消火栓放水体験、消防自動車展示解説など、多数の訓練内容で行われました。

例年、訓練の避難では地震を想定した防災訓練と火事を想定した消防訓練を組み合わせて実施していますが、今年度は防災にかかる行動を更に重視し、効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議（日本シェイクアウト提唱会議）から公式認定を受け、参加者が事前の防災学習や訓練時の防災行動として「安全行動の1-2-3」の実践を行う「ShakeOut（シェイクアウト）」訓練として実施し、より効果的な災害対応の訓練となるよう工夫が図られました。

訓練では、まず、緊急地震速報の訓練音が流れ、参加者は机の下にもぐり頭部を保護するなど防災行動をとった後、火災報知器による警報音または放送の指示に従って、建物から指定の避難場所へ避難を行いました。なお、途中、参加者による避難はしごの使用や煙中避難体験を実施しました。

一方、その間、工学系事務部職員及び学務部国際交流課職員で構成される自衛消防隊は、自衛消防隊長の佐々木好美工学系事務部長の指示のもと、通報連絡、初期消火、安全防護、負傷者救護、避難誘導などの一連の自衛消防活動を実施し、災害時に基本となる動きを確認しました。

今回の訓練は、内容が盛り沢山となったため、想定より時間を要したものの、その分、参加者は、例年よりも充実した防災体験を得られる訓練となりました。

訓練終了後、札幌市消防局北消防署の伊東裕希司令補及び幅﨑浩樹工学研究院長による講評が行われ、今回の訓練を活かして減災につとめてほしいとの希望が述べられました。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）

煙中避難体験の様子

避難はしごによる降下訓練の様子

消防自動車解説展示と参加者の様子

北消防署員に質問する幅崎工学研究院長

農学部・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催

農学部・農学院・農学研究院では、9月10日（火）に留学生見学旅行を開催しました。留学生見学旅行は留学生同士の交流を深めるとともに、北海道の様々な産業に触れることを目的として約40年前から実施しています。

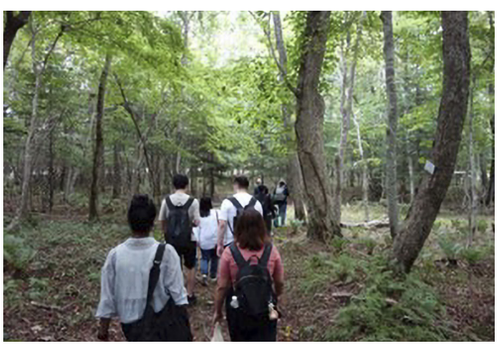
今年は16か国からの留学生27名と教職員4名、サポート役の日本人学生6名が参加しました。午前中は、苫小牧市にある北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林において植竹　淳准教授及び2名の技術職員から研究林や自然環境などについて説明を受け、研究林内の樹木園、資料館・記念館、森林観測塔を訪問しました。その後、白老町に移動し、民族共生象徴空間（ウポポイ）を訪問しました。

苫小牧研究林の雄大な自然に囲まれながら、北海道の特色ある自然環境や民族共生象徴空間で北海道の歴史や文化などについて学び、更に、国・地域や研究室の域を超えて幅広く交流でき、留学生にとって充実した1日になりました。

（農学院・農学研究院・農学部）

苫小牧研究林での集合写真

苫小牧研究林での昼食・休憩時の様子



研究林内の様子

民族共生象徴空間（ウポポイ）での集合写真

農学研究院・農学院・農学部が台湾大学生物資源農業学部と部局間交流協定を締結

農学研究院・農学院・農学部は、9月13日（金）に台湾の国立台湾大学生物資源農業学部と部局間交流協定及びダブルディグリープログラムの覚書を締結しました。

台湾大学で開催された締結式には、同大学からは、リン・ユピン学部長やファン・チーハオ副学部長、リウ・ジュルエイ副学部長ほか19名が、農学研究院からは、野口　伸農学研究院長、石塚　敏副研究院長、小関成樹教授、濱本昌一郎教授が出席しました。

台湾大学は、日本統治時代に帝国大学として設立されました。アーチ型の窓や玄関を持つ石造りの建物や、大都市の中に緑が生い茂り、高層ビルの合間に広がる農場が安らぎをもたらすキャンパスでした。

本協定締結及び覚書により、次世代の農業・食料生産体系を確立すべく、スマート農業技術の発展、脱炭素社会へ向けた基盤構築、ワンヘルスの概念に基づく食品開発の各分野において、最先端の技術を融合させ、研究力を強化するとともに、世界で活躍できる高度人材育成を実現することで相互の発展に大いに寄与することが期待されます。

（農学院・農学研究院・農学部）

締結式で握手を交わすリン学部長（左）と野口研究院長（右）

締結式での集合写真

獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所で動物慰霊式を挙行

獣医学研究院及び人獣共通感染症国際共同研究所では、10月3日（木）、獣医学研究院において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に多数の動物の尊い生命の犠牲があることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院学生のほか、飼い主等約190人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙祷を捧げた後、滝口満喜獣医学研究院長兼動物病院長が式辞を述べました。最後に、参列者による献花が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究院、人獣共通感染症国際共同研究所）

式辞を述べる滝口研究院長兼動物病院長

参列者による献花

水産科学未来人材育成館の完成披露式を挙行

函館キャンパスの水産科学未来人材育成館が完成し、10月からの開館に先立って、9月29日（日）に完成披露式を挙行し、本学関係者と招待者およそ80名が列席しました。

水産科学未来人材育成館は、老朽化した水産科学館（旧水産資料館）と図書館を合築し、水産科学館（Museum）と図書館（Library）の各機能を融合・連携させ、先進的Archive機能及びショップ機能を備えたMLA連携複合施設であり、水産科学のランドマーク的な図書・博物資料を、日本のみならず全世界に効果的に発信し、地域の皆様とともに学び、新しい成果を創り出す、共創拠点「イノベーション・コモンズ」として機能する設備が備わっています。

式典では、始めに寳金清博総長から挨拶があり、関係者への謝意を述べられたのち、未来の水産科学を担う人材を育成するための拠点となることなどの期待を述べられました。

また、来賓の征矢野清長崎大学海洋未来イノベーション機構長からご挨拶をいただき、総合水産教育の場である同施設への期待を寄せられました。

その後、屋外へ移動しテープカットを行いました。テープカット後の都木靖彰水産科学研究院長の挨拶では、様々な方達が集い、教職員・学生がともに学ぶ施設として、この建物を大いに活用していきたいと抱負を述べられました。

水産科学人材未来育成館は3階建てで、1階はイベントなどが開催できるホール、大きなガラスから自由に研究の様子を見学できるウェットラボ、ショップなどがあり、地域住民や学生などが自由に交流し、情報発信を行うことができます。ホールの開放的な窓からは、春にはキャンパス内に咲き誇る桜を望むことができます。2階の図書館には、12万冊の書籍が並び、ひとり静かに集中できる学習スペースを備えています。3階は博物館となっており、現在は準備中で、令和7年4月にオープン予定です。

水産科学未来人材育成館は、どなたでも利用でき、一部スペースについては一時貸付も可能です。是非ご利用ください。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

挨拶する寳金総長

式典の様子

水産科学未来人材育成館の外観

テープカットの様子

国際広報メディア・観光学院がソウルにて留学生向け説明会を実施

国際広報メディア・観光学院は、9月22日（日）、ソウル市内コンベンションホールにて、留学生向け説明会を開催しました。今回は対面とオンラインのハイブリッドでの開催となり、約21名（対面8名、オンライン約13名）の参加がありました。加えて、在学生・修了生対面5名、オンライン2名も参加しました。

奥　聡学院長の挨拶に続き、例年通り、学院の紹介、入学試験の概要、研究生と大学院生としての学修システム、書類審査応募の注意点、研究生としての勉強、大学院修了後の進路など、留学希望者にとって必要な情報が提供されました。全体説明終了後は使用言語ごとに分かれ、ハイブリッドで個別相談と質疑応答の時間が設けられました。また、在学生・修了生からも、自らの体験をもとにしたきめ細やかな説明や助言が行われました。

説明会後に実施した参加者アンケートでは、回答者全員が説明会を「とても役に立つ」（90.0%）「役に立つ」（10.0%）と評価しました。具体的には、「自由に院生や先生方に相談できたこと」「入試内容や研究計画書の作成についての詳しい説明」などが高く評価されました。また、「先生方や院生の雰囲気を知ることができた」といった対面開催を好意的に評価する感想もいただきました。

説明会を通じて、参加者の本学留学への熱意と関心の高さを感じており、今後も対面とオンラインのそれぞれの強みを生かして、さまざまな地域で説明会を開催することを前向きに検討していきたいと考えています。

（国際広報メディア・観光学院）

説明会の様子

メディア・コミュニケーション研究院が読売新聞・JICAと「新しい世界」をテーマにシンポジウムを開催

メディア・コミュニケーション研究院は10月5日（土）、読売新聞北海道支社、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）との共催で市民公開シンポジウム「北海道大学から新しい世界を考える―Be ambitious! 未来への提言―」を学術交流会館で開催し、寳金清博総長が冒頭で挨拶するとともに、ジュリア・ロングボトム駐日英国大使、垂　秀夫前駐中国日本大使、田中明彦JICA理事長とともにパネルディスカッションにも参加しました。

寳金総長は挨拶で、パンデミック、世界の平和秩序の後退、地球温暖化のほか、日本で確実に起こる最大の有事は少子化だと話し、これらの危機はSustainability、Innovation、Diversityをキーワードに回避できる可能性がある、と指摘しました。また「札幌農学校2期生の内村鑑三は『国におもねる、おとなしい官僚や実業家、紳士を育てることは本学のミッションではない』と語った。社会の矛盾にチャレンジする大学であるべきだと言っている」とし、世界や日本の危機の中で本学が果たす役割に期待を示しました。

続く基調講演では、まずロングボトム大使が、国際社会はかつてないほど複雑で複合的な危機に直面していると訴えました。特に気候変動問題では英国が9月30日、最後の石炭火力発電所を閉鎖し、洋上風力発電を発展させていると説明し、「英国のエネルギー政策は、外交政策と密接な関係がある。気候の安全なしには世界の安全はありえないからだ」と強調しました。

続いて垂前大使は、日本の将来を考える上で「中国とどう付き合うのか」は非常に大事な問題だと指摘し、「歴史から学び、戦略的思考で中国と向き合うべきだ。『中国＝中国共産党』という認識では中国に対して批判しか出てこない」と呼び掛けました。

最後に田中理事長は「世界の中の日本としてODAは計り知れない効果を生み、日本への信頼感も高めた。世界的課題解決のために日本ができることはまだまだある。『世界の中の日本』と『日本の中の世界』を繋いで、世界的課題、日本の課題に取り組む人材はますます必要になっている」と話しました。

基調講演に続き、読売新聞東京本社イノベーション本部の小坂佳子幹事をコーディネーターに、国際社会で活躍する人材をどう育むかパネルディスカッションを行いました。ロングボトム大使は「若い人には常識にこだわらず未来を創造し、失敗しても構わないという勇気を持ってほしい」、垂前大使は「未来にはばたくには逆説的だが、歴史をよく知ることだ。今、我々はどういう時代・世界にいるか的確に把握し、歴史をつくっているという意識を持ってほしい」とそれぞれメッセージを送りました。

シンポジウムには約200名の学生や市民が参加し、学生からは「過去を学び、今を知り、様々な未来の可能性を見通せる能力が多くの場面で求められるのだと理解した。日本がこのまま衰退しないためにも、国内の人材育成はもちろん、国外の人材受け入れも担う観点から、大学が果たす役割は大きいと感じた」とのコメントが寄せられました。

シンポジウムの内容は読売新聞が掲載し、対外発信しました。

（メディア・コミュニケーション研究院）

シンポジウムに登壇した寳金総長、垂前大使、ロングボトム大使、田中理事長、小坂幹事（右から）

シンポジウム前に北海道ワイン教育研究センターを訪れるロングボトム大使

第10回北大・部局横断シンポジウムを開催

9月6日（金）、ハイブリッド形式で、第10回北大・部局横断シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、本学内の若手研究者の交流と融合研究の創成を目的として毎年行われているもので、機能強化事業「新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成」として実施しています。

第10回目となる今回は学内外から825名が参加し、情報系セッション、生物系セッション、物質材料系セッション、文理融合セッション、産学連携セッション、GFCセッション、ポスターセッションが行われたほか、ノーベル物理学賞受賞者である名古屋大学の天野　浩特別教授をお迎えし、ノーベル物理学賞受賞の契機となった青色LED創成に係る研究生活の一端をご講演いただきました。講演後は寶金清博総長が座長となり、活発な質疑応答が行われました。

また、瀬戸口剛理事・副学長に本学J-PEAKSの研究助成「連携研究プラットフォーム」について講演いただき、本学の強みであるフィールドサイエンスの強化に加えて、融合研究領域を創発・育成するシステムに関する説明も行なっていただき、大変充実したシンポジウムとなりました。

加えて、本学OBであり日本放送協会でディレクターを勤める山本高穂氏のオーガナイズによる特別ワークショップとして、世界で活躍する6名の本学OB・OGに講演いただきました。最後に行われた総合討論は予定の講演時間を超え、盛会のうちに終了しました。

なお、天野特別教授の講演を含め、過去の北大・部局横断シンポジウムにおけるノーベル賞受賞者が行った講演は、オープンエデュケーションセンターにご協力いただき、本学及び北海道の高等学校における教材として利用させていただく予定です。

（遺伝子病制御研究所、
電子科学研究所）

天野特別教授による講演の様子

参加者による記念撮影も実施

第10回北大・部局横断シンポジウム概要

日時	2024年9月6日（金） 9：00～18：00
主催	機能強化事業「新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成」
主管	遺伝子病制御研究所、電子科学研究所
共催	獣医学研究院、医学研究院、保健科学研究院、歯学研究院、北海道大学病院、薬学研究院、先端生命科学研究院、人獣共通感染症国際共同研究所、工学研究院、理学研究院、情報科学研究院、水産科学研究院、地球環境科学研究院、総合化学院、低温科学研究所、触媒科学研究所、北方生物圏フィールド科学センター、アイソトープ総合センター、医理工学院、文学研究院、国際食資源学院、化学反応創成研究拠点、法学研究科、産学・地域協働推進機構、量子集積エレクトロニクス研究センター、URAステーション、情報基盤センター、北極域研究センター、大学院教育推進機構、国際感染症学院、教育学研究院、総合博物館、農学研究院、メディア・コミュニケーション研究院、経済学研究院、人間知・脳・AI研究教育センター
後援	機能強化促進事業：フォトエキサイトニクス研究拠点、文部科学省共同利用・共同拠点事業、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道高等学校理科研究会、北海道青少年科学文化財団
プログラム	寳金清博総長による開会の挨拶
	部局研究セッション　情報系、生物系、物質材料系（Zoom）
	文理融合セッション（Zoom）
	産学連携セッション （オーガナイザー：株式会社ニコンソリューションズ　高橋恵太）
	GFCセッション （オーガナイザー：理学研究院教授　網塚　浩）
	ポスターセッション・一般・研究助成 （医学部フラテホール）
	特別講演「社会は変えられる-青色LED創成までの道のりと未来への貢献-」(Zoom/医学部フラテホール): 天野　浩（名古屋大学特別教授、2014年ノーベル物理学賞受賞） 講演後 Q＆A（座長：寳金清博総長）
	特別講演2（Zoom）:「北大J-PEAKSの研究助成『連携研究プラットフォーム』に応募しよう」 瀬戸口剛（理事・副学長）
	特別ワークショップ 山本高穂（日本放送協会（NHK）ディレクター、本学OB）
	総評とベストプレゼンター賞・ベストポスター賞発表 研究助成対象グループ発表 村上正晃（遺伝子病制御研究所長、実行委員長） 閉会の挨拶 居城邦治（電子科学研究所長、副実行委員長）

スラブ・ユーラシア研究センターがニューヨーク大学と共催で国際ワークショップ「ブリヤーチヤ：シベリア・ロシア・ユーラシアの架け橋」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターの生存戦略研究ユニットは、ニューヨーク大学ジョーダン・ロシア高等研究センターと共催で10月7日（月）と8日（火）に、ブリヤートを中心にモンゴル世界を考える国際研究集会を組織しました。これは、主催者のタチヤナ・リンホエヴァ氏が、ちょうど1年前にジョーダン・センターで開いた会に続くもので、今回はロシアとアジアの研究者が時差を気にせずに参加できるように、本センターが共催を受け入れて実現しました。3月8日（金）から5月15日（水）までペーパーの公募を行い、30人以上の申し込みのうち13名の報告者を選定して、テーマに応じて5つのパネルを設けました。本センターの大会議室とZoomの両方での開催となり、現地参加とオンラインを合わせて、両日で延べ100名近い参加がありました。

当初は、研究会の議論が他の専門家を寄せ付けないような専門的で特殊なものになることが懸念されましたが、一旦、報告者と討論者の発言が始まると、そのような心配は霧散しました。このワークショップが設定した「ブリヤーチヤ」は、特殊でありかつ普遍的なのだと痛感しました。モンゴル系の諸民族は、現在に至るまで大国の狭間で生き残るべく懸命に闘っています。ブリヤート人は、ロシアのウクライナ侵攻で最も犠牲を払っている民族の一つであり、内モンゴルの人々は中国の強圧的な政策に苦しんでいます。9月初頭にモンゴル政府は国際刑事裁判所の判断に反してロシアのプーチン大統領を逮捕せず、国際的な非難を浴びました。しかしそこには、ロシアと中国の間を立ち回らなければならない苦境、かといって欧米の助けはもはや信用ならないという苦悩が表れています。モンゴル世界の過去と現在を考えることは、従来の国際秩序が崩壊している現在を生き延びる術を考えるすべての人に必要なように思われました。まさに、本センターが推進している生存戦略研究の縮図でした。リンホエヴァ氏はじめ参加者も、この会をどのような形で続けていくべきか、議論していました。

この研究会が今後も、外部の多様な専門家を議論に巻き込みながら、隣接分野に広範な相乗効果を引き起こしていくことが大いに期待されます。

（スラブ・ユーラシア研究センター）

ワークショップを終えて

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場余市果樹園の一般公開イベントを開催

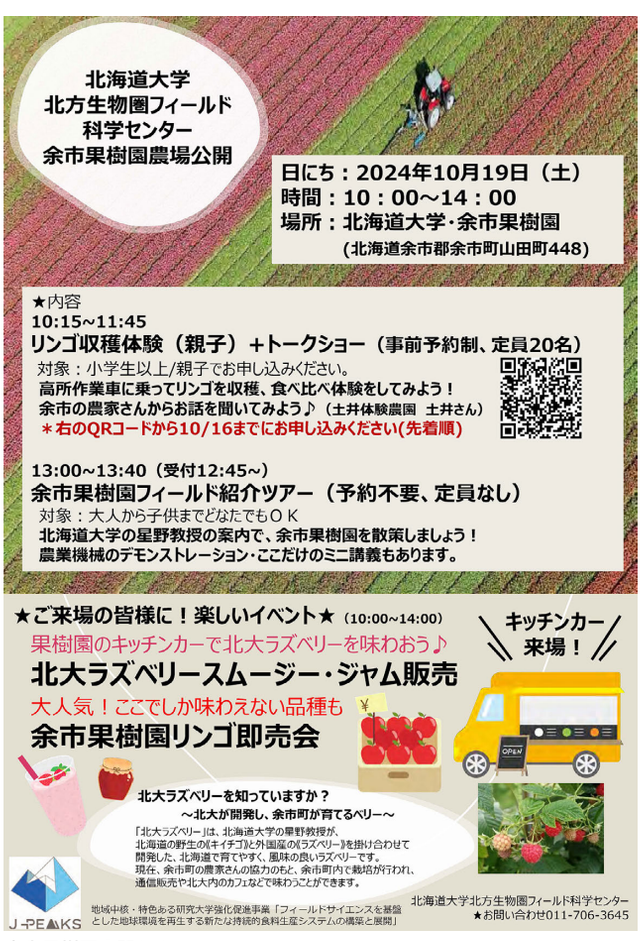
10月19日（土）、北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション生物生産研究農場余市果樹園において、一般公開イベントを開催しました。

余市果樹園は、大正元年に果樹に関する研究と果樹経営の教育を行うことを目的に設立されました。現在、リンゴ、ブドウ、洋ナシ、小果樹（ブルーベリー、ハスカップ、ラズベリーなど）を植栽し、教育研究に広く利用されています。平成21年10月に余市町と北方生物圏フィールド科学センターは連携協定を結んでおり、本事業では広報にご協力いただきました。これまで余市町において本学で育成した「北大ラズベリー（商標）」の産地形成等の事業で交流を続けており、さらに多くの方に余市果樹園の活動を知っていただくための公開イベントを企画しました。

前日からの雨が残る生憎の天候になりましたが、収穫体験、砂川果樹園の人気キッチンカーによるラズベリースムージーやリンゴの販売会、土井体験農園の土井　元氏のトークショーやフィールド紹介ツアーなど盛りだくさんの企画で来訪者を迎えました。午前のリンゴの収穫体験には余市町内外から11名の親子が参加し、奇跡的に止んだ雨に助けられて、子どもたちは果樹園を走り回り、大人たちはそれを追いかけながら収穫籠をいっぱいにして収穫を楽しみました。キッチンカーの人気商品は北大ラズベリーを使用したスムージーで、これを目当てに訪れてくれた方もいらっしゃいました。ラズベリーは国内生産が僅か1％と日本では栽培しにくい果樹ですが、北大ラズベリーは北海道の野生のキイチゴとラズベリーを掛け合わせたもので、栽培しやすいことが特徴であり、本学の研究成果の一つです。余市町でのみ生産してきたもので、良食味のラズベリーとして人気が高まってきています。地域と連携した研究成果の普及活動として、生産者の方にも協力していただき本公開イベントでも北大ラズベリーを使用したスムージーの販売を行いました。

本事業は地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」の活動の一環として実施しました。今後、さらに余市町との交流が進むことが期待されます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



余市果樹園公開のチラシ

技術職員によるリンゴの収穫方法の説明

余市町砂川果樹園の人気キッチンカーが登場

土井氏のトークショー

環境健康科学研究教育センターが令和6年度前期「社会と健康」修了生にディプロマ授与

環境健康科学研究教育センターは、9月30日（月）に令和6年度前期「社会と健康」ディプロマ授与を行いました。今回は1名（保健科学院：小松﨑美帆氏）のプログラム修了生に対して、山内太郎センター長よりディプロマが授与されました。

本プログラムは、本学のすべての大学院生に開かれたプログラムです。大学院共通授業科目「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムが特徴です。これに加えて、各学院・研究科が提供する科目、あるいは「社会と健康」として提供されている科目以外の82科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています（令和6年10月1日（火）現在／過年度の科目を含む）。

「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthにかかわる知識を得るため科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与しています。

平成27年3月に第1回目の授与を行ってから、累計20名の方がプログラムを修了しており、今回は第12回目の授与となります。これまでに、医学院、教育学院、保健科学院、文学研究科（当時）、農学院、獣医学院、工学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

令和6年度後期「社会と健康」ディプロマプログラムの登録申請は、本年12月末まで受け付けており、来年3月に後期授与を予定しています。

（環境健康科学研究教育センター）

山内センター長よりディプロマを授与される小松﨑氏

授与式後の記念撮影

北極域研究センターと公益財団法人オホーツク生活文化振興財団が協定を締結

10月9日（水）、北極域研究センターと公益財団法人オホーツク生活文化振興財団は、北極域及びオホーツク海周辺地域の研究等について協力関係を深め、互いの発展に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。

公益財団法人オホーツク生活文化振興財団は、北海道立オホーツク流氷科学センターなど紋別市内に3カ所の管理運営施設を有し、オホーツク圏の生活文化とスポーツの普及振興のための取り組みを行っています。

当日は、流氷科学センター全天周映像ホールにて、同財団から大塚夏彦理事長と本センターから宇都正太郎センター長職務代理他が出席し締結式が執り行われました。締結式では、宇都センター長職務代理から、「研究連携のみならず、流氷科学センターの展示への協力や、北極域研究センターの教員による出前講義の実施など、これから様々なアイデアが出てくるだろう」と今後の展望が述べられるとともに、式に出席した同財団の理事・監事・評議員からは、連携の成果発信や地域振興に期待が寄せられました。

■連携協定に基づく取り組み

（１）北極域およびオホーツク海周辺地域の研究に関すること
（２）科学・文化の振興に関すること
（３）教育・人材育成に関すること
（４）その他両者の協議による事項

（北極域研究センター）

宇都センター長職務代理（左）と大塚理事長（右）

学生企画ミュージアムグッズに関する令和6年の新展開

理学院専門科目と大学院共通授業科目「博物館コミュニケーション特論ミュージアムグッズの開発と評価」では、毎年、学生達による総合博物館オリジナルのミュージアムグッズが企画開発されています。

本年5月以降、令和5年度の授業で実現した4件のグッズがミュージアムショップぽとろで順次販売開始されました。1件目は「北海道大学総合博物館オリジナルガチャ」（税込300円・500円）です。1）数字に注目してデスモスチルス・ケナガマンモス・ハシボソミズナキドリ・北大式土器・おしょろ丸・カムイロケット・ニッポノサウルスをモチーフにした7種類のアクリルキーホルダー。2）博物館の英語名称や建物ロゴがデザインされたシックなカラーやポップな蛍光カラーの8種類のラバーバンド。3）考古遺物の世界、生物標本の世界、古生物標本の世界、鉱物・岩石標本の世界、科学技術史資料の世界、ラウンジ・知の交差点の1場面を写真で切り取ったスクエア型の6種類のマグネット。この3種類に加えて、令和3年度の学生企画グッズでご好評をいただいた古生物と土器のシールをランダムにセットした再構成版の「発掘！ランダムシール」も新たにガチャのスタイルで販売しています。ショップでは初めてのガチャを設置することで、何が出てくるか分からない購入の楽しみをプラスして演出したいと考案されました。

2件目は「クリアブックマーカー（4連しおり）」（税込330円）です。鉱物、ニッポノサウルス、チョウ、博物館のアインシュタインドームのレリーフをモチーフとした4種類で１セット。美しくカラフルなしおりは1種類ずつ切り離してシェアできます。クリアタイプであるため、ブックマーカーとしてだけでなく、窓辺に飾っていただくのもよいかもしれません。

3件目は北海道原種の極小粒大豆・黒千石を使用したサラダ風味のおかき「北海道大学総合博物館の黒千石先生」（税込1,080円）です。学生企画グッズとしては初めての食品で、おかきは京都の製造者によるものです。大学院生2名が商品名を考え、博物館の印象的な建物の壁面を飾るスクラッチタイルに注目してパッケージをデザインし、個包装のデザインも担当しました。

4件目は、オオバナノエンレイソウの腊葉標本をモチーフとしたペンケース「ロール ハーバリウム」（税込3,080円）。厚手の布地の色は、本学のスクールカラーをイメージさせます。内側には2サイズのポケットが七つ付いており、ロール型で紐でまとめられるため、コンパクトに持ち運んでいただけます。モチーフとなった標本は、博物館3階「生物標本の部屋」のオープン・ハーバリウムに配架されています。実際にご覧いただける標本をモチーフにしているため、ペンケースを日常に使いながら、博物館での時間を思い出していただければとの気持ちを込めて制作されました。

いずれの商品にも大学院生が執筆して研究者の監修を受けた解説書やメッセージカードが付されています。「クリアブックマーカー」の解説は、「博物館探訪記」というエッセイ風な仕上がりで、しおりを手に探訪記を読みながら、展示室での時間を追体験していただければという思いが込められています。

（総合博物館）

令和5年度理学院専門科目・大学院共通科目
「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」

■北海道大学総合博物館オリジナルガチャ
担当学生：石田隆悟（環境科学院）、香田明里（総合化学院）、新開なつみ（文学院）、
長峰実央・藤田知之・矢倉鉄平・矢野滉紀（理学院）
担当学生（令和3年度）：安達寛子（生命科学院）、池田　柊・大藪隼平・森本智郎・
Mohammed Galib Hasan Abir（理学院）、堀井元章（総合化学院）、
横山由奈（国際広報メディア・観光学院）
監修：守屋豊人・高倉　純（埋蔵文化財調査センター）、永田晴紀（工学研究院）、
山下俊介（水産科学研究院）、江田真毅・大原昌宏・小林快次・田城文人（総合博物館）

■クリアブックマーカー（4連しおり）
担当学生：近田茉莉花（理学院）・三田尾有希子（文学院）
監修：大原昌宏・北野一平・小林快次・湯浅万紀子（総合博物館）

■北海道大学総合博物館の黒千石先生（おかき）
担当学生：池内優季　（農学院）・諏訪友葵奈　（環境科学院）
製造者：株式会社鳴海屋
パッケージ制作協力：株式会社第一紙行
監修：北野一平・湯浅万紀子（総合博物館）

■ロール ハーバリウム（ペンケース）
担当学生：北田翔太郎（国際広報メディア・観光学院）・杉西杏友（生命科学院）・多久和隼（理学院）
監修：首藤光太郎（総合博物館）

以上、全商品の指導；北野一平・湯浅万紀子（総合博物館）

オリジナルガチャのラインナップ

クリアブックマーカー（4連しおり）

クリアブックマーカーの解説は博物館探訪記のスタイル

北海道原種の極小粒大豆・黒千石を使用したおかき

オオバナノエンレイソウの腊葉標本をモチーフとしたペンケース「ロール ハーバリウム」

内ポケット付きでロール型のペンケース

博物館実習を実施

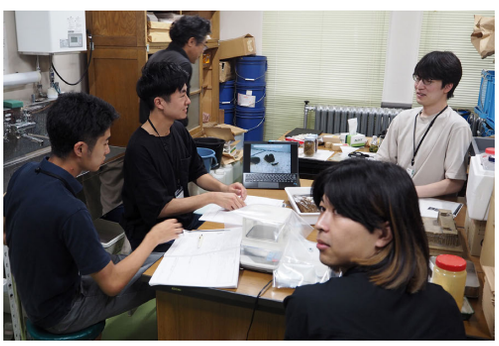
9月10日（火）～13日（金）及び17日（火）～20日（金）、学部4年生から博士課程2年生まで専門分野が異なる16名が、総合博物館での8日間の博物館実習に取り組みました。

午前中の演習では、坪田敏男館長と研究部教員、越前谷宏紀研究員（資料部）が担当分野の研究と教育、博物館活動について収蔵庫や展示室の案内も含めて説明し、近藤誠司研究員（資料部）が札幌農学校第2農場を解説・案内しました。理学・生命科学事務部博物館担当の高橋宏市係長による館運営や事務業務の説明、研究支援推進員の市來紗都子さんと土田江里子さんによるパネル製作に関する実習と展示室での実例説明、展示解説ボランティアの笹谷幸恵さんと渡部典子さんによる解説実演も行われました。

午後の実習は、札幌農学校第2農場、植物、動物、地学の4班に分かれて標本の採集と分類、解剖、展示の改訂や新規制作に取り組みました。最終日には、8日間の実習における各班の活動の内容と成果、課題を発表しました。報告会での活発な意見交換や実習生による事後レポートから、16名がそれぞれに博物館の諸活動への理解を実感をもって深めたことがうかがえます。

（総合博物館）

展示を改訂し、ボランティアの方々とも交流した札幌農学校第2農場班



藻類に関連した実験・工作イベント企画を検討する植物班

鳥類の解剖を行う動物班

北海道の陸地の成り立ちを説明するポスターを制作した地学班

附属図書館で防災訓練を実施

附属図書館本館では、10月25日（金）、地震が発生し、中央棟1階廃棄物保管庫から出火したとの想定のもと、防災訓練が実施されました。図書館利用者及び職員54名が参加しました。

英語による館内放送並びに誘導掲示も行い、火災発生後、職員は直ちに「通報連絡係、避難誘導係、消火係、防護措置係、救護係、搬出係」の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場確認、消防署への通報（模擬）、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて防災設備業者の指導のもと、避難器具、消火器具の取扱説明及び実地訓練を実施し、使用方法に関する留意点を再確認し、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）

消防隊本部を正面玄関前庭に設置

消火訓練を行う図書館職員

▌レクリエーション

令和6年度学内教職員バレーボール大会の開催

9月17日（火）から10月17日（木）にかけて、学内教職員バレーボール大会を第2体育館で開催しました。学内15チームが参加し、活気あふれる大会となりました。

結果は以下のとおりです。決勝戦は両チームともにレベルの高いプレーが見られ、非常に盛り上がる試合でしたが、最終的には北キャンの攻撃力が低温研の守備を上回り決着となりました。

大会結果
優勝　　北キャン
準優勝　低温研
第3位　　病院
第4位　　情報科学研究院

Teams職員レクリエーション活動チャネルの紹介
今年度の試合から、大会通知、組み合わせや試合結果、当日の試合の動画配信をすべてTeamsで行っています。ご興味ある方は以下からアクセスしてください。
DXサイト【すぐプロ#11】Teams「職員レクリエーション活動」チャネル開設
https://dx.general.hokudai.ac.jp/article/30814/

職員バレー部の紹介
北大職員バレー部では、学校開放を利用した練習（月1回程度）を行っています。興味がある方は、お近くの職員バレー部員までお知らせください。

（職員排球部）

優勝：北キャン

準優勝：低温研

3位：病院

4位：情報科学研究院

動画配信の様子

2024年度 第54回 札幌社会人サッカーリーグに出場

教職員サッカークラブは、5月12日（日）から9月15日（日）の日程で、札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

札幌社会人サッカーリーグは最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全7部・63チームで構成されたリーグで、教職員サッカークラブは昨年度Aリーグ4部で優勝したため、今年度はAリーグ3部に参戦しました。対戦成績は以下のとおり、1勝4敗4分で、10チーム中8位でした。今シーズンは苦戦が続きましたが、最終的には、来年度Aリーグ4部への残留を果たしました。

また、教職員サッカークラブは、夏場だけでなく年間を通じて北大屋内運動場を中心に活動しています。

活動の詳細は、ホームページからご確認いただけます。ご興味のある方は、お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

北大教職員サッカークラブHP ： http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com

（教職員サッカークラブ）

5月12日	教職員サッカークラブ	0－2	みっかぼーいず
5月26日	教職員サッカークラブ	0－1	FC PHENIX
6月 9日	教職員サッカークラブ	1－2	LIBERTY
6月16日	教職員サッカークラブ	1－1	エルニーニョ
6月23日	教職員サッカークラブ	2－2	サリーレ札幌FC
7月 7日	教職員サッカークラブ	0－0	OCEANS 札幌
8月25日	教職員サッカークラブ	1－1	F.C.PRADERA
9月 8日	教職員サッカークラブ	0－1	蹴AIクラブ
9月15日	教職員サッカークラブ	1－0	FB.SLAVES

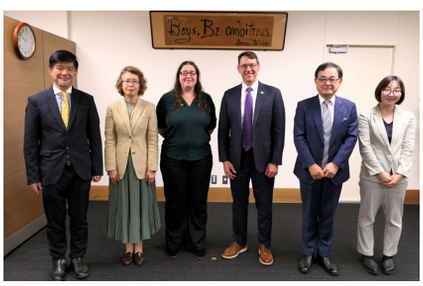
集合写真

▌表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
6.10.1	マサチューセッツ大学アマースト校（アメリカ合衆国） Laura Vandenberg 研究・外部連携担当理事	今後の交流に関する懇談
6.10.2	釜慶大学校（大韓民国）　張 瑛秀 総長	今後の交流に関する懇談
6.10.4	JICA　田中 明彦 理事長	今後の連携に関する懇談
6.10.15	復旦大学（中華人民共和国）　Xin Qiu 党委書記	今後の交流に関する懇談
6.10.22	駐日ウクライナ大使館　Sergiy Korsunsky 特命全権大使	今後の交流に関する懇談及び講演会

（国際部国際連携課）



Laura Vandenberg
マサチューセッツ大学アマースト校理事
（左から3人目）

張　瑛秀 釜慶大学校総長（中央左）

田中明彦 JICA理事長（左から5人目）

Xin Qiu 復旦大学党委書記（左から4人目）

Sergiy Korsunsky 駐日ウクライナ大使（中央左）

▌人事

令和6年11月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
大学院情報科学研究院教授	冨　岡　克　広	大学院情報科学研究院准教授
北方生物圏フィールド科学センター教授	岸　田　　治	北方生物圏フィールド科学センター准教授

新任教授紹介

令和6年11月1日付

情報科学研究院教授に

冨岡（とみおか）　克広（かつひろ）　氏

情報エレクトロニクス部門
集積システム分野

生年月日
昭和55年3月14日

最終学歴
北海道大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野
半導体物性・デバイス工学、結晶成長、化合物半導体

北方生物圏フィールド
科学センター教授に

岸田（きしだ）　治（おさむ）　氏

森林圏研究領域
生物多様性分野

生年月日
昭和51年9月27日

最終学歴
北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士後期課程修了（平成18年12月）
博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野
動物生態学

▌資料

在 籍 学 生 数（令和6年10月1日現在）

（注）1（　）内は女子の内数、〈　〉内は女子の比率。
2［　］内は2年次編入学定員で外数。
3〔　〕内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人［　人］	―人	189人	195人	226人	―人	―人	610人 (254〈41.6%〉)	23人	6人	7人	27人	673人 (294〈43.7%〉)
教育学部	50　〔10　〕	―	53	68	64	―	―	185 (81〈43.8　〉)	17		4	6	212 (97〈45.8　〉)
法学部	200　［10　］〔10　〕	―	224	221	244	―	―	689 (208〈30.2　〉)		1		2	692 (209〈30.2　〉)
経済学部	190	―	200	197	211	―	―	608 (130〈21.4　〉)	16			7	631 (136〈21.6　〉)
理学部	300	―	320	325	370	―	―	1,015 (235〈23.2　〉)		2	2	2	1,021 (237〈23.2　〉)
医学部	280　［5　］	―	290	324	266	113	106	1,099 (516〈47.0　〉)	1			8	1,108 (519〈46.8　〉)
歯学部	53	―	55	55	54	42	51	257 (112〈43.6　〉)	1				258 (112〈43.4　〉)
薬学部	80	―	89	80	83	30	31	313 (118〈37.7　〉)	2		1		316 (119〈37.7　〉)
工学部	720　〔10　〕	―	685	695	796	―	―	2,176 (299〈13.7　〉)		1	1	18	2,196 (301〈13.7　〉)
農学部	215	―	215	215	232	―	―	662 (238〈36.0　〉)	2	2		6	672 (241〈35.9　〉)
獣医学部	40	―	42	44	42	42	43	213 (113〈53.1　〉)					213 (113〈53.1　〉)
水産学部	215	―	235	208	203	―	―	646 (153〈23.7　〉)	7		3	3	659 (156〈23.7　〉)
現代日本学プログラム課程	―	―	16	15	19	―	―	50 (32〈64.0　〉)					50 (32〈64.0　〉)
総合教育部	―	2,686	―	―	―	―	―	2,686 (771〈28.7　〉)					2,686 (771〈28.7　〉)
合計	2,528　［15］〔30　〕	2,686	2,613	2,642	2,810	227	231	11,209 (3,260〈29.1　〉)	69	12	18	79	11,387 (3,337〈29.3　〉)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修生	日本語研修生	合計
高等教育推進機構	1人	人	53人	61人	24人	139人(77〈 55.4〉)
低温科学研究所	2			―	―	2　(0〈 0.0〉)
電子科学研究所	4			―	―	4　(0〈 0.0〉)
遺伝子病制御研究所	2			―	―	2　(0〈 0.0〉)
触媒科学研究所	5			―	―	5　(0〈 0.0〉)
人獣共通感染症国際共同研究所	3			―	―	3　(1〈 33.3〉)
スラブ・ユーラシア研究センター	1			―	―	1　(0〈 0.0〉)
情報基盤センター	1			―	―	1　(0〈 0.0〉)
量子集積エレクトロニクス研究センター	3			―	―	3　(0〈 0.0〉)
北方生物圏フィールド科学センター	5			―	―	5　(3〈 60.0〉)
アイヌ・先住民研究センター	1			―	―	1　(0〈 0.0〉)
北極域研究センター	2			―	―	2　(1〈 50.0〉)
合計	30	0	53	61	24	168　(82〈 48.8〉)

■大学院

（注）法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
生命科学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）						研究生	聴講生	科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	合計
	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	4年次	小計						
文学院	90人	99人	121人	220人（124〈56.4%〉）	一人	一人	一人	一人	一人	35人	43人	40人	79人	一人	162人（78〈48.1%〉）	人	3人	人	13人	2人	400人（213〈53.3%〉）
文学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5（3〈60.0〉）
文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—	12（6〈50.0〉）						12（6〈50.0〉）
法学研究科	20	23	20	43（16〈37.2〉）	50	33 36	13 23	12 —	117（24〈20.5〉）	15	6	4	11	—	21（8〈38.1〉）	6		1	5	3	196（56〈28.6〉）
情報科学院	196	191	221	412（43〈10.4〉）	—	—	—	—	—	43	53	22	40	—	115（14〈12.2〉）				7	2	536（58〈10.8〉）
情報科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14（5〈35.7〉）
情報科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2（0〈0.0〉）						2（0〈0.0〉）
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
水産科学院	114	110	143	253（61〈24.1〉）	—	—	—	—	—	19	24	20	27	—	71（18〈25.4〉）				9		333（84〈25.2〉）
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2（0〈0.0〉）
環境科学院	159	155	152	307（89〈29.0〉）	—	—	—	—	—	63	71	48	94	—	213（90〈42.3〉）		1		4	1	526（182〈34.6〉）
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18					18（9〈50.0〉）
理学院	127	125	138	263（42〈16.0〉）	—	—	—	—	—	55	39	37	65	—	141（20〈14.2〉）				5	3	412（64〈15.5〉）
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12					12（7〈58.3〉）
農学院	142	158	159	317（115〈36.3〉）	—	—	—	—	—	36	35	38	44	—	117（44〈37.6〉）				2		436（160〈36.7〉）
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8（1〈12.5〉）
生命科学院	132	123	108	231（82〈35.5〉）	—	—	—	—	—	44 6	55 5	46 6	73 5	— 9	199（58〈29.1〉）				3		433（142〈32.8〉）
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1（0〈0.0〉）
教育学院	45	36	50	86（51〈59.3〉）	—	—	—	—	—	21	17	16	74	—	107（63〈58.9〉）				2	3	198（117〈59.1〉）
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1（1〈100.0〉）
国際広報メディア・観光学院	47	46	49	95（70〈73.7〉）	—	—	—	—	—	12	14	17	39	—	70（42〈60.0〉）		1	1	2	6	175（119〈68.0〉）
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23					23（19〈82.6〉）
保健科学院	40	48	54	102（54〈52.9〉）	—	—	—	—	—	10	12	12	23	—	47（24〈51.1〉）				1		150（79〈52.7〉）
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13					13（7〈53.8〉）
工学院	326	371	370	741（94〈12.7〉）	—	—	—	—	—	69	89	68	80	—	237（40〈16.9〉）				8	12	998（139〈13.9〉）
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27					27（8〈29.6〉）
総合化学院	129	154	150	304（77〈25.3〉）	—	—	—	—	—	38	42	38	50	—	130（24〈18.5〉）				6	2	442（106〈24.0〉）
経済学院	35	30	36	66（29〈43.9〉）	20	15	22	—	37（8〈21.6〉）	8	4	11	12	—	27（12〈44.4〉）			1		2	133（49〈36.8〉）
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1（1〈100.0〉）
経済学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1（0〈0.0〉）						1（0〈0.0〉）
医学院	20	2 19	19	40（26〈65.0〉）	—	—	—	—	—	90	104	87	106	178	475（120〈25.3〉）				2		517（146〈28.2〉）
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14（6〈42.9〉）
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	12（3〈25.0〉）						12（3〈25.0〉）
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	38	32	24	32	126（57〈45.2〉）						126（57〈45.2〉）
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8（3〈37.5〉）
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	9	17	19	6	51（23〈45.1〉）					16	67（30〈44.8〉）
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7					7（3〈42.9〉）
医理工学院	12	11	15	26（6〈23.1〉）	—	—	—	—	—	5	7	7	5	—	19（5〈26.3〉）	1					46（11〈23.9〉）
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	21	12	17	6	56（25〈44.6〉）				6		62（30〈48.4〉）
国際食資源学院	15	15	15	30（15〈50.0〉）	—	—	—	—	—	6	8	11	13	—	32（12〈37.5〉）				1		63（27〈42.9〉）
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	31	35	—	66（25〈37.9〉）	—	—	—	—	—	—			2			68（25〈36.8〉）
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6（4〈66.7〉）
合計	1,649	1,716	1,820	3,536（994〈28.1〉）	100	115	93	12	220（57〈25.9〉）	643	696	589	915	243	2,443（786〈32.2〉）	167	5	5	76	52	6,504（1,980〈30.4〉）

（学務部学務企画課）

広報誌等一覧

令和6年10月調査結果

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
事務局	企画課	北海道大学近未来戦略150（英語・日本語併記版）	不定期	H26年8月	北海道大学創基150年に向けた近未来戦略	冊子
		HU VISION 2030（和文版）	不定期	R5年7月	2030年をターゲットイヤーとする中長期的ビジョン	冊子、PDF版
		HU VISION 2030（英文版）	不定期	R5年9月	2030年をターゲットイヤーとする中長期的ビジョン	冊子、PDF版
	主計課 財務管理室	北海道大学財務レポート	年1回	R5年12月	本学の財務情報を分かりやすく解説し、ステークホルダーへ広く理解いただくことを目指して作成	PDF版
		北海道大学財務レポート（英語ダイジェスト版）	年1回	R6年3月	本学の財務情報を分かりやすく解説し、ステークホルダーへ広く理解いただくことを目指して作成	PDF版
	学務企画課 大学院教育 改革推進室	大学院総合サイト（日本語・英語）	不定期	—	大学院概要、経済支援、在学生インタビュー等の大学院生活全般に関する情報発信	Webサイト
		YouTube（おもしろ!北大Lab.）	不定期	—	北大の大学院生の研究内容や日常を紹介し、大学院を身近に感じてもらうための動画を配信	動画
		Instagram（grad_hokudai）	不定期	—	大学院改革にまつわる各種取組や、大学院生に関する情報発信	SNS
		X（旧:Twitter）（@grad_hokudai）	不定期	—	大学院改革にまつわる各種取組や、大学院生に関する情報発信	SNS
		note	不定期	—	大学院改革にまつわる出来事や日々の舞台裏などを綴った記事等の掲載	SNS
	教育推進課	新渡戸カレッジ（学部カリキュラム・大学院カリキュラム）パンフレット	年1回	R6年9月	新渡戸カレッジの概要を掲載	冊子
		新渡戸カレッジ（学部カリキュラム） 募集チラシ	年1回	R6年2月	新渡戸カレッジ（学部カリキュラム）の募集案内	チラシ
		北海道大学新渡戸カレッジ 同窓会ネットワーク誌「ACROSS」	年1回	R5年12月 （4号）	新渡戸カレッジ修了生及び北海道大学同窓生向けに新渡戸カレッジの概要又は修了生の近況等を掲載	冊子
		北海道大学新渡戸カレッジ 同窓会ネットワーク誌「ACROSS」英語版	年1回	R5年12月 （4号）	新渡戸カレッジ修了生及び北海道大学同窓生向けに新渡戸カレッジの概要又は修了生の近況等を掲載	PDF版
		新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム）パンフレット	不定期	R6年1月	新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム）の概要を掲載	冊子
		新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム）パンフレット（PDF2024年度版）	不定期	R6年1月	新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム）の概要を掲載	PDF版
		新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム） 大学院合格者対象広報チラシ	年2回	R6年7月	新渡戸カレッジ（大学院カリキュラム）の募集案内	チラシ
		新渡戸カレッジWebsite	不定期	—	日本語・英語で新渡戸カレッジの紹介やお知らせなどを掲載	Webサイト
		Modern Japanese Studies Program（MJSP）パンフレット	年1回	R6年3月	外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の概要を掲載	冊子、PDF版
		Integrated Science Program（ISP）パンフレット	年1回	R6年3月	外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の概要を掲載	冊子、PDF版
		YouTube（Hokkaido Uni_Modern Japanese Studies Program（MJSP））	不定期	R6年3月	外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の説明、学生・卒業生の声等を紹介する動画の再生リスト	動画
		YouTube（Hokkaido Uni_Integrated Science Program（ISP））	不定期	R6年3月	外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の説明、学生・卒業生の声等を紹介する動画の再生リスト	動画
		Facebook（@hokkaido.mjsp）	不定期	—	外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の入試情報、キャンパスや学生の様子、本学の情報等を紹介するSNS	SNS
		X（旧:Twitter）（@MJSP_Hokkaido）		—		SNS
		Instagram（@mjsp.hokkaido）		—		SNS
		Facebook（@isp.hokkaido）	不定期	—	外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の入試情報、キャンパスや学生の様子、本学の情報等を紹介するSNS	SNS
		X（旧:Twitter）（@ISPHokudai）		—		SNS
		Instagram（@isp.hokkaido）		—		SNS
	学生支援課	えるむ	年2回	R6年4月	学生向けに学内行事・ニュース・お知らせ等を掲載	冊子、HTML版
		学生生活の案内	年1回	R6年4月	学部学生向けの学生生活案内	冊子
		学生相談総合センターの広報チラシ（日本語版）	不定期	R4年4月	学生相談総合センターの案内	チラシ
		学生相談総合センターの広報チラシ（英語版）	不定期	R4年4月	学生相談総合センターの案内	チラシ
		学生相談総合センターパンフレット（日本語版）	不定期	R5年9月	学生相談総合センターの案内	パンフレット・PDF版
		学生相談総合センターパンフレット（英語版）	不定期	R4年11月	学生相談総合センターの案内	パンフレット・PDF版
		学生相談総合センターパンフレット（中国語版）	不定期	R4年11月	学生相談総合センターの案内	パンフレット・PDF版
		北大生のための相談先お助けガイド（日本語版）	年1回	R6年4月	学内のサポート機関の紹介及びフローチャートを用いた相談先の紹介	パンフレット・PDF版
		北大生のための相談先お助けガイド（英語版）	年1回	R6年4月	学内のサポート機関の紹介及びフローチャートを用いた相談先の紹介	パンフレット・PDF版
		北海道大学学生寮入寮案内−恵迪寮−	年1回	R6年1月	学生寮（恵迪寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	PDF版

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
事務局	学生支援課	北海道大学学生寮入寮案内−霜星寮−	年1回	R6年1月	学生寮（霜星寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	PDF版
		北海道大学学生寮入寮案内−北大インターナショナルハウス北23条2号棟−	年1回	R6年1月	学生寮（北大インターナショナルハウス北23条2号棟）の概要・入寮出願手続き等を掲載	PDF版
	入試課	Be ambitious（大学案内）	年1回	R6年6月	大学・学部・研究等の紹介、入試・教育・学生生活の紹介等	冊子、デジタル版
		オープンキャンパスリーフレット	年1回	R6年5月	オープンキャンパスの開催日程等を掲載	リーフレット、デジタル版
		北海道大学進学相談会リーフレット	年1回	R6年8月	北海道大学進学相談会の開催日程等を掲載	リーフレット、デジタル版
		フロンティア入試案内	年1回	R6年5月	フロンティア入試の概要について掲載	冊子、デジタルパンフレット
		入学者選抜要項	年1回	R6年7月	入学者選抜に関する概要	冊子、PDF版
		北大キャンパスマップ　ぐるぶら（北大キャンパスビジットプロジェクト制作）	不定期	R5年7月	キャンパス案内、北大キャンパスビジットプロジェクト概要紹介	冊子、PDF版
		知のフロンティア −北海道大学の研究者は、いま−	不定期	H30年1月	本学教員の研究内容紹介	冊子、デジタル版
		外国人留学生のための北海道大学案内	年1回	R6年3月	学部・学科及び大学院等、入試、学生生活等の外国人留学生向けの本学紹介	冊子、PDF版
		INTERNATIONAL STUDENT PROSPECTUS（『外国人留学生のための北海道大学案内』の英語版）	年1回	R6年3月	学部・学科及び大学院等、入試、学生生活等の外国人留学生向けの本学紹介	冊子、PDF版
		DEGREE PROGRAMS IN ENGLISH	年1回	R6年3月	英語で修得できる外国人留学生向け学位プログラムの紹介	冊子、PDF版
	キャリア支援課（キャリアセンター）	キャリア通信	年1回	R6年4月	キャリアセンター利用案内、各種就職ガイダンス・セミナー情報、インターンシップ情報等を掲載。	冊子、PDF版
		X（旧:Twitter）（@hokudai_career）	不定期	—	キャリアセンターが主催するガイダンス・セミナー等の最新情報を発信。	SNS
		X（旧:Twitter）（@hokudai_KOUMUIN）	不定期	—	公務員志望学生に公務員に特化した最新情報を発信。	SNS
	国際交流課	Hokkaidoサマー・インスティテュートポスター	年1回	R5年12月	HSIプログラム概要	紙媒体
		Hokkaidoサマー・インスティテュート学外用チラシ	年1回	R6年1月	HSIプログラム概要	紙媒体
		Facebook（@hokkaidosummerinstitute）	不定期	—	Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）プログラム情報や実際の授業などを紹介	SNS
		Instagram（@hokkaido_si）	不定期	—	Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）プログラム情報や実際の授業などを紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@Hokkaido_SI）	不定期	—	Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）プログラム情報や実際の授業などを紹介	SNS
		YouTube（Hokkaido SI）	不定期	—	Hokkaidoサマー・インスティテュート（HSI）プログラム情報や実際の授業などを紹介	動画
		OGGsリーフレット（日本語・英語）三つ折りA4	年1回	R5年3月	OGGsプログラム概要	リーフレット
		OGGsプログラム概要（日本語・英語）A4	年1回	R5年3月	OGGsプログラムの概要。OGGs科目紹介。	パンフレット
		OGGsプログラム　ホームページ	不定期	—	OGGsプログラムイベント情報や授業の様子などを紹介	Webサイト
		Facebook（@OGGs-One-program-for-Global-Goals）	不定期	—	OGGsプログラムイベント情報や授業の様子などを紹介	SNS
		Instagram（@oggsprogram）	不定期	—	OGGsプログラムイベント情報や授業の様子などを紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@OggsFor）	不定期	—	OGGsプログラムイベント情報や授業の様子などを紹介	SNS
		HANDBOOK FOR INTERNATIONAL STUDENTS	年1回	R6年9月	在学中の留学生に必要な手続き及び生活情報を提供	冊子、PDF版
		Exchange Possibilities at Hokkaido University	年1回	R5年12月	本学の交換留学プログラムの紹介	冊子
		Hokkaido University Short-Term Exchange Program	年1回	R5年12月	北海道大学短期留学プログラムHUSTEPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載	冊子、PDF版
		JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE STUDIES PROGRAM（JLCSP）	年1回	R5年12月	北海道大学短期留学プログラムJLCSPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載	冊子、PDF版
		日本語・国際教育研究紀要	年1回	R6年3月	研究論文、研究ノート、実践報告、調査報告	冊子、PDF版
		北海道大学国際教育研究部ブックレット_10	不定期	R6年3月	異なる「文化」と共に生きる：実践と理論から考える	冊子、PDF版
		国際教育研究部日本語科目案内 国際教育研究部多文化交流科目案内	不定期	R3年3月	日本語科目と多文化交流科目の紹介	紙媒体、PDF版
		「一般日本語コース」受講生募集チラシ	年1回	R6年2月	一般日本語コース受講生募集について	紙媒体、PDF版
		北海道大学日本語スタンダーズ2019年度版	不定期	H31年3月	日本語教育におけるレベル別言語行動目標、Can-Do Listなど	冊子、PDF版
		北海道大学一般日本語コース授業ガイド（日英両言語版）	不定期	H31年3月	北大留学生向け日本語コース紹介	冊子、PDF版
		多文化交流科目リーフレット	不定期	R2年3月	多文化交流科目についての案内と2020年度開講科目一覧など	冊子、PDF版
		高等教育推進機構国際教育研究部ウェブサイト	不定期	—	日本語で高等教育推進機構国際教育研究部に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
事務局	国際交流課	X（旧:Twitter）（@hunihongo）	不定期	—	日本語と英語で日本語コースの情報を発信	SNS
		Instagram（hunihongo）	不定期	—	日本語と英語で日本語コースの情報を発信	SNS
		北大生のための留学ハンドブック	年1回	R5年3月	北大生のための留学情報提供誌	冊子、PDF版
		全学教育科目 一般教育演習（フレッシュマンセミナー）グローバル・キャリア・デザイン[通称:ファースト・ステップ・プログラム（FSP）]	不定期	R6年3月	FSP概要	冊子、PDF版
		国際インターンシップ	不定期	R6年3月	国際インターンシップ概要	冊子
		海外短期語学研修（サマープログラム／スプリングプログラム）	不定期	R6年4月	海外短期語学研修概要	冊子、PDF版
		海外ラーニング・サテライトリーフレット	不定期	R4年2月	海外ラーニング・サテライト概要	リーフレット、PDF版
		国際インターンシップ	不定期	R2年3月	国際インターンシップ概要	冊子
		海外短期語学研修（サマープログラム／スプリングプログラム）	不定期	R2年3月	海外短期語学研修概要	冊子、PDF版
		海外ラーニング・サテライトリーフレット	不定期	R4年2月	海外ラーニング・サテライト概要	リーフレット、PDF版
	研究振興企画課研究公正推進室	YouTube（北海道大学安全保障輸出管理本部）	不定期	—	FD研修用動画を掲載	動画
	施設整備課	歴史的資産ガイドマップ	不定期	R5年7月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマップと写真で紹介	冊子、PDF版
		HISTORIC HERITAGE VISITOR GUIDE AND MAP（歴史的資産ガイドマップ　英語版）	不定期	R2年3月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマップと写真で紹介	冊子、PDF版
		歴史的資産ガイドマップQRコードカード	不定期	R5年7月	ガイドマップデータダウンロード用QRコードカード	名刺サイズカード
	国際企画課	Hokkaido University Global Vision 2040 北海道大学　国際戦略（日英併記）	不定期	R4年1月	「Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」が築いた成果を踏まえて、2040年までの中長期的な将来に向かって国際の観点から本学が歩むべき方向性を示した「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」の紹介	冊子、PDF版
	国際連携課	HaRP事業ウェブサイト（日本語、英語、ロシア語）	不定期	—	文部科学省補助金「大学の世界展開力強化事業」により2017-2021年度に実施していた「日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム（HaRP）」事業のウェブサイトで、各機関の日露交流取組・イベント等の情報を紹介	Webサイト
		Facebookグループ（HaRP - Human Resource Development Platform for Japan and Russia）	不定期	—	HaRP事業をはじめ日露交流に従事している関係者間の情報交換プラットフォーム	SNS
		HaRPアニュアルレポート（日本語・ロシア語）	年1回	R4年3月	R3年度における事業の活動紹介	PDF版
	社会連携課	オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」WEBサイト	不定期	R6年5月	エンレイソウで開催されるイベントや貸切・休館の情報、会員への案内を発信	Webサイト
		instagram（@enreiso_hu）	不定期	R6年5月	エンレイソウで開催されるイベントや貸切・休館の情報、会員への案内を発信	SNS
		X（旧:Twitter）（@enreiso_hu）	不定期	R6年5月	エンレイソウで開催されるイベントや貸切・休館の情報、会員への案内を発信	SNS
		Facebook（@enreiso_hu）	不定期	R6年5月	エンレイソウで開催されるイベントや貸切・休館の情報、会員への案内を発信	SNS
		エンレイソウリーフレット	不定期	R6年4月	エンレイソウに係る施設了解	リーフレット
	広報課	ビジュアルブック	不定期	H30年9月	色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパス風景を四季ごとに紹介	冊子
		北海道大学概要	年1回	R6年7月	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載	冊子、HTML版、PDF版
		北海道大学概要（英語版）	年1回	R6年7月	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載	冊子、PDF版
		北大時報	月１回	R6年10月	その月の大学や部局のニュース、お知らせ等を掲載	PDF版
		キャンパスガイドマップ	年1回	R6年6月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ英語版）	年1回	R6年6月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ簡体字版）	年1回	R6年6月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ韓国語版）	年1回	R6年6月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		北海道大学基幹Webサイト	不定期	—	日本語で北海道大学に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
		Facebook（@HokkaidoUniversity）	不定期	—	日本語で北海道大学基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@HokkaidoUnivPR）	不定期	—	日本語で北海道大学基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
		Youtube（北海道大学【公式】）	不定期	—	日本語で北海道大学の取組や風景を紹介	動画

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
事務局	広報課卒業生・基金室	北大フロンティア基金Webサイト	不定期	—	北大フロンティア基金に関するお知らせ、寄附募集状況等を紹介	Webサイト
		北海道大学創基150周年記念募金リーフレット（日本語版）	不定期	R5年1月	北海道大学創基150周年記念募金を紹介	冊子
		北海道大学創基150周年記念募金リーフレット（英語版）	不定期	R5年3月	北海道大学創基150周年記念募金を紹介	冊子
		北大フロンティア基金活動報告書	年1回	R6年9月	北大フロンティア基金の年度毎の活動状況を報告	冊子、PDF版
		遺贈のご案内	不定期	R4年8月	遺贈に関する手続の概要	冊子、PDF版
		北海道大学メモリアルノート	不定期	R4年8月	北大の歴史と将来の財産管理に関する手続の案内	冊子、PDF版
情報環境推進本部		情報セキュリティガイド（改訂版）（リーフレット）	不定期	R5年2月	情報セキュリティの手引き	リーフレット、PDF版
創成研究機構		創成ニューズレター　CRIS TIMES	不定期	H28年度版	創成研究機構の活動紹介	冊子、PDF版
		北海道大学　創成研究機構	不定期	H28年1月	創成研究機構の組織紹介	冊子、PDF版
		北海道大学　創成研究機構（DVD）	不定期	H23年9月	創成研究機構の紹介DVD（改訂版）	DVD
		Global Facility Center Hokkaido University	不定期	R3年1月	グローバルファシリティセンターの紹介（日本語版）	冊子、PDF版
		Global Facility Center Hokkaido University（English ver.）	不定期	R3年3月	グローバルファシリティセンターの紹介（英語版）	冊子、PDF版
		北海道大学グローバルファシリティセンター	不定期	R2年10月	グローバルファシリティセンターの紹介	チラシ、PDF版
		北海道大学ｵｰﾌﾟﾝﾌｧｼﾘﾃｨ料金表	年4回	R6年7月	オープンファシリティ利用料金一覧（学内・学外用）	冊子、PDF版
		北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター機器分析受託サービス	不定期	R6年9月	グローバルファシリティセンター機器分析受託部門の紹介	冊子
		機器分析受託サービス　分析料金表（学外）	不定期	R6年7月	分析料金一覧　学外料金（日本語版）	チラシ、PDF版
		Price List （Outside Campus）	不定期	R6年7月	分析料金一覧　学外料金（英語版）	チラシ
		機器分析受託サービス分析料金表（学内）	不定期	R6年7月	分析料金一覧　学内料金（日本語版）	チラシ、PDF版
		Price List （Within Campus）	不定期	R6年7月	分析料金一覧　学内料金（英語版）	チラシ
		GFC Tutorial サービス利用登録申請	不定期	R1年11月	GFC総合システムのサービス利用登録方法を説明する動画	動画
		GFC Tutorial 利用料金のお支払いと利用実績の報告	不定期	R2年7月	GFC総合システムの利用料金の支払方法と利用実績の報告方法を説明する動画	動画
		Facebook（@hokudaigfc）	不定期	—	日本語でGFCのイベントやお知らせを配信	SNS
		X（旧:Twitter）（@hokudai_gfc）	不定期	—	日本語でGFCのイベントやお知らせを配信	SNS
		Youtube（北海道大学グローバルファシリティセンター）	不定期	—	GFCの概要や各サービスの紹介	動画
		顕微イメージングソリューションプラットフォーム	不定期	R6年5月	文部科学省:先端研究基盤共用促進事業（先端研究設備プラットフォームプログラム）「顕微イメージングソリューションプラットフォーム」事業の紹介及び利用募集	冊子
化学反応創成研究拠点		拠点概要パンフレット（英語版）	不定期	R5年6月	拠点概要説明、拠点長メッセージ、拠点の特徴、主任研究者一覧、拠点の研究概要、アクセス情報	冊子、PDF版
		拠点概要パンフレット（日本語版）	不定期	R5年6月	拠点概要説明、拠点長メッセージ、拠点の特徴、主任研究者一覧、拠点の研究概要、アクセス情報	冊子、PDF版
		MANABIYA 冊子（英語版）	不定期	R6年10月	教育・研究交流プログラム「MANABIYA」の制度及び応募方法の説明	冊子、PDF版
		ニュースポストカード（日英）	毎月	R6年10月	論文発表があった研究を毎月一編紹介。研究に関連する画像、論文情報、QRコード（オンライン上の情報・プレスリリースなど）を掲載。	ポストカード
		Annual report（年次報告書・英語版）	毎年	R6年8月	化学反応創成研究拠点の年間の活動報告書。拠点長メッセージ、人員構成、研究進捗、活動内容を紹介。	冊子、PDF版
		ニュースポスター「The CATALYST」（英語版）	年4回	R6年9月	化学反応について分かりやすく紹介する冊子。スペシャルトピック、研究者紹介、拠点ニュース、拠点概要情報を掲載。	PDF版
		ニュースポスター「カタリスト」（日本語版）	年4回	R6年9月	化学反応について分かりやすく紹介する冊子。スペシャルトピック、研究者紹介、拠点ニュース、拠点概要情報を掲載。	ポスター、PDF版
		ICReDD棟パンフレット（英）	不定期	R5年6月	ICReDD棟（北キャンパス総合研究棟8号館）の施設情報	冊子
		拠点ウェブサイト（英）	不定期	—	拠点紹介、イベント情報、研究業績、プレスリリースなどの情報を英語で紹介	Webサイト
		拠点ウェブサイト（日）	不定期	—	拠点紹介、イベント情報、研究業績、プレスリリースなどの情報を日本語で紹介	Webサイト
		Listプラットフォームウェブサイト（英）	不定期	—	拠点紹介、イベント情報、研究業績、プレスリリースなどの情報を英語で紹介	Webサイト
		Facebook（ICReDD Hokkaido University）	不定期	—	拠点ウェブサイトに掲載したお知らせ、イベント情報などを英語で紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（Twitter）（@ICReDDconnect）	不定期	—	拠点ウェブサイトに掲載したお知らせ、イベント情報などを英語で紹介	SNS
		Instagram（@ICReDDconnect）	不定期	—	拠点ウェブサイトに掲載したお知らせ、イベント情報などを英語で紹介	SNS
		Instagram（@ICReDDconnect_jp）（日本語版）	不定期	—	イベント情報などを日本語で紹介	SNS

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
化学反応創成研究拠点	Linkedin（Hokkaido University ICReDD）	不定期	—	拠点ウェブサイトに掲載したお知らせ、イベント情報などを英語で紹介	SNS
	Youtube（Hokkaido University WPI-ICReDD）	不定期	—	拠点の概要、メンバー、施設の設備や、シンポジウム講演の様子などを主に英語で紹介	動画
データ駆動型融合研究創発拠点	拠点ウェブサイト	不定期	—	日本語で拠点紹介、イベント情報、活動実績などの情報を紹介	Webサイト
	拠点概要フライヤー	不定期	R5年8月	データ駆動型融合研究創発拠点の概要	フライヤー
ワクチン研究開発拠点	拠点概要パンフレット（日本語版）	不定期	R6年9月	ワクチン研究開発拠点の概要紹介	冊子
	拠点概要パンフレット（英語版）	不定期	R6年9月	ワクチン研究開発拠点の概要紹介	冊子
	拠点ウェブサイト（日）	不定期	—	ワクチン研究開発拠点の紹介・研究成果・活動報告	Webサイト
	拠点ウェブサイト（英）	不定期	—	ワクチン研究開発拠点の紹介・研究成果・活動報告	Webサイト
	年報	不定期	R6年8月	ワクチン研究開発拠点の年間の活動報告書	冊子
高等教育推進機構 高等教育研究部	高等教育ジャーナル −高等教育と生涯学習−	年1回	R6年3月	広く高等教育に関する論文・報告等を公開	冊子、PDF版
	ニュースレター	年2回	R5年5月	高等教育推進機構の活動を報告	冊子、PDF版
産学・地域協働推進機構	産学・地域協働推進機構パンフレット	不定期	R6年9月	産学・地域協働推進機構の概要紹介	冊子、PDF版
	北海道大学 研究シーズ集2023	不定期	R5年3月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介	冊子
	HOKUDAI INNOVATION GUIDE	不定期	R6年9月	北海道大学との契約形態（共同研究・産業創出・学術コンサルティング）の制度紹介、研究シーズ集の案内	リーフレット
	北海道大学　研究シーズ集Webサイト	不定期	—	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介	Webサイト
	北海道大学　産学・地域協働推進機構	不定期	—	産学・地域協働推進機構について活動紹介・ご案内	Webサイト
	北海道大学産学連携メールマガジン	月１回	R6年10月	産学連携に関わるイベント（研究や様々な情報を知っていただくためのセミナーや勉強会、企業と研究者とのマッチングイベントなど）のご案内	E-mail
	DEMOLA　HOKKAIDO	不定期	—	DEMOLA　HOKKAIDOについて活動紹介・ご案内	Webサイト
	Facebook（@Demola Hokkaido）	不定期	—	SNSを使用しDEMOLA　HOKKAIDOについて活動紹介・ご案内を発信	SNS
	Instagram（@DEMOLA HOKKAIDO）	不定期	—	SNSを使用しDEMOLA　HOKKAIDOについて活動紹介・ご案内を発信	SNS
	X（旧:Twitter）（@Demola in Japan）	不定期	—	SNSを使用しDEMOLA　HOKKAIDOについて活動紹介・ご案内を発信	SNS
	BOSTON RESEARCH SHOWCASE	不定期	R5年7月	英語で北海道大学の研究シーズやイベント情報などを案内	Webサイト
	「BOSTON RESEARCH SHOWCASE」Linkedinアカウント	不定期	R4年10月	SNSを使用し北海道大学の研究シーズやイベント情報などを発信	SNS
	HX（エイチクロス）	不定期	—	広域エリア統合プレインキュベーション拠点として、大学発のスタートアップの支援、起業に関する定期的なイベントや勉強会などの開催案内	Webサイト
	HX（エイチクロス）	不定期	R4年3月	広域スタートアップ支援拠点HX（エイチクロス）の施設紹介	チラシ
	北海道大学起業家育成基金リーフレット	不定期	R1年12月	基金要項、申込方法等の掲載、ご支援のお願い	リーフレット
	北海道プライムバイオコミュニティリーフレット	不定期	R5年4月	北海道プライムバイオコミュニティの概要説明	リーフレット
	北海道大学COI−NEXTパンフレット	不定期	R3年3月	北海道大学COI-NEXT拠点概要説明と研究者紹介	リーフレット
	北海道大学COI−NEXT「They magazine」	不定期	R3年3月	ジェンダーをテーマに高校生の座談会、インタビュー記事などを紹介	リーフレット
	北海道大学COI−NEXT×ARCS「WORK×LIVE」	不定期	R6年3月	より生きやすい職場をテーマに情報発信	リーフレット
	北海道大学COI−NEXTウェブサイト	不定期	R4年3月	北海道大学COI-NEXT拠点概要説明とイベント紹介	Webサイト
	「短編小説コンテスト」ウェブサイト	不定期	R5年9月	北海道大学COI-NETXコンテスト「短編小説コンテスト」応募募集・紹介	Webサイト
	「北海道大学COI−NEXT」Instagramアカウント	不定期	R4年3月	北海道大学COI-NEXT拠点活動報告とイベント紹介	SNS
	「北海道大学COI−NEXT　SOZO」Instagramアカウント	不定期	R5年6月	北海道大学COI-NEXTイベント「SOZO」紹介	SNS
	「北海道大学COI−NEXT　SOZO」ウェブサイト	不定期	R5年8月	北海道大学COI-NEXTイベント「SOZO」紹介	Webサイト
国際連携推進本部	ソウルオフィス　リーフレット（日本語版、韓国語版）	不定期	R3年1月	韓国ソウルオフィス及び北海道大学の紹介	冊子
	北海道大学留学案内ガイド（韓国語版）	不定期	R3年1月	韓国人留学生向けの入学案内　（発行:韓国ソウルオフィス）	冊子
	北海道大学留学案内ガイド（中国語版）	不定期	R3年4月	中国人留学生向けの入学案内　（発行:中国北京オフィス）	冊子
	日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS地域）成果報告書	不定期	R元年度版	R元年度における活動紹介	冊子
	アフリカルサカオフィス　リーフレット（英語版）	不定期	R1年8月	アフリカルサカオフィスの紹介	冊子
	日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ地域）事業案内	不定期	R3年3月	日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ地域）事業の案内	冊子・PDF版

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
国際連携推進本部		日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ地域）事業案内	不定期	R3年3月	日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ地域）事業の案内	3つ折りパンフレット・PDF版
		Why Choose Hokkaido University for Graduate Studies?	不定期	R5年9月	大学院に進学を希望する留学生向けの大学院案内（英語版）	B4の観音折パンフレット・PDF版
		Facebook（@hu.future.graduate）	不定期	—	大学院に進学を希望する留学生向けの情報発信（英語版）	SNS
		Instagram（@future.grad.hu）	不定期	—	大学院に進学を希望する留学生向けの情報発信（英語版）	SNS
サステイナビリティ推進機構	キャンパスマネジメント部門	北海道大学サステイナビリティレポート2024	年1回	R6年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2023年度の環境に関連する教育研究活動やエネルギー・水等の使用量の状況を掲載	冊子、PDF版
		Hokkaido University Sustainability Report 2024	年1回	R6年11月予定	北海道大学サステイナビリティレポート2024の日本語版を海外向けに編集した報告書	冊子、PDF版
		Facebook（北海道大学 サステイナビリティ推進機構）	不定期	—	日本語でサステイナビリティ推進機構のサイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
		北海道大学札幌キャンパス生き物ガイド	不定期	R6年4月	生態環境マネジメントWGが監修し、札幌キャンパスで見られる植物・野鳥・昆虫・哺乳類・水生生物等を紹介	冊子、PDF版
	SDGs事業推進部門	サステイナビリティ推進機構　ウェブサイト	不定期	—	日本語でサステイナビリティ推進機構に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
		サステイナビリティ推進機構　英語版 ウェブサイト	不定期	—	英語でサステイナビリティ推進機構に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
		北海道大学×SDGs　ウェブサイト	不定期	—	日本語で本学のSDGsに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
		北海道大学×SDGs　英語版 ウェブサイト	不定期	—	英語で本学のSDGsに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
アイヌ共生推進本部		北海道大学はアイヌ差別を許しません（レイシャル・ハラスメント防止啓発リーフレット）	不定期	R6年3月	レイシャル・ハラスメントに関する基本的な情報、事例、対応策等をまとめたガイドライン	冊子、PDF版
大学院教育推進機構	高等教育研修センター	高等教育研修センター ウェブサイト	不定期	—	高等教育研修センターの紹介・セミナー詳細・活動報告	Webサイト
		高等教育研修センター　Facebook	不定期	—	高等教育研修センターのセミナー等の情報	SNS
	高等教育研修センターラーニングサポート部門	アカデミック・マップ	不定期	R3年4月	進級、学部移行の参考として各学部学科等の研究内容等を掲載	PDF版
		ラーニングサポートレター	不定期	R6年10月	1学期のラーニングサポート室の利用者数の報告、9月実施のイベント報告など	PDF版
		X（旧:Twitter）（@LSO_Hokudai）	不定期	—	ラーニングサポート室の活動等を紹介	SNS
	オープンエデュケーションセンター	北海道大学オープンエデュケーションセンター活動報告書（2020年度）	年1回	2021年版 R4年6月発行	北海道大学オープンエデュケーションセンターの活動報告書	冊子
		北海道大学オープンエデュケーションセンター活動報告書（2021年度）	年1回	2021年版 R4年6月発行	北海道大学オープンエデュケーションセンターの活動報告書	冊子
		北海道大学オープンエデュケーションセンターリーフレット	不定期	R2年3月	学内の教職員を対象にオープンエデュケーションセンターの活動内容を紹介	冊子
		北海道大学オープンエデュケーションセンターフライヤー	年1回	R2年3月	新入学生向けに、北海道大学オープンコースウェア及びオープンエデュケーションセンターに関する案内を掲載	冊子
		北海道大学におけるハイブリッド型授業ガイド	不定期	R4年8月	学内のハイブリッド型授業ガイドの紹介	Webサイト
		教育情報システム（ELMS）リーフレット	年1回	R4年4月	教育情報システム（ELMS）の利用案内を掲載	WEB掲載、PDF
	オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（COSTEP）	CoSTEPリーフレット	年1回	R6年3月	CoSTEPの活動を紹介	パンフレット
		Facebook（@Like.Hokudai）	週4回	R6年9月	いいね!Hokudai 北大の日々を紹介するWebマガジン	SNS
		いいね!Hokudai基幹サイト	週4回	R6年9月	いいね!Hokudai 北大の日々を紹介するWebマガジン	Webサイト
		X（旧:Twitter）（@like_hokudai）	週4回	R6年9月	いいね!Hokudai 北大の日々を紹介するWebマガジン	SNS
		Facebook（@CostepPr）	不定期	R6年9月	CoSTEP PR スタッフや受講生の日常を紹介	SNS
		instagram（@costeppr）	不定期	R6年9月	CoSTEP PR スタッフや受講生の日常を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@costep_pr）	不定期	R6年9月	CoSTEP PR スタッフや受講生の日常を紹介	SNS
		科学技術コミュニケーション（Japanease Journanl of Science Communication）	年2回	R6年9月・R7年3月	広く科学技術コミュニケーションに関する論文・報告・ノートを掲載。HUSCAPで閲覧できるオープンジャーナル	PDF（HUSCAP）
	先端人材育成センター上級人材育成部門S-cubic	S-cubic通信	不定期	R6年3月	DC・PDを対象とした進路選択のガイドブック	冊子、PDF版
		S-cubicフライヤー	不定期	R2年9月	S-cubicの紹介	PDF版
		Hi-Systemフライヤー	不定期	R5年3月	博士研究者の社会活躍をサポートするWebサイトの紹介	フライヤー
		X（旧:Twitter）（@HokudaiDCcareer）	不定期	—	博士人材向けの採用情報等の発信	SNS
		note	不定期	—	北大OB博士への取材記事等の掲載	SNS

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
大学院教育推進機構 先端人材育成センター 上級人材育成部門I-HoP	Career Management Guide for the Doctorates	不定期	R5年2月	外国人英語コース博士のためのキャリアマネジメントガイド	冊子
大学院教育推進機構 先端人材育成センター連携型博士研究人材育成推進部門 COFRe	科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築	不定期	R6年9月	コンソーシアム事業の紹介	PDF版
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）活動報告書	不定期	R6年3月	文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」2023年度報告書	PDF版
	北海道大学　ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言	不定期	R3年12月	北海道大学におけるダイバーシティ&インクルージョン推進宣言の紹介	フライヤー
	北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言　制定記念講演会記録集	不定期	R4年6月	令和3年12月開催制定記念講演会の記録集	冊子
	DEI推進本部パンフレット	不定期	R4年10月	ダイバーシティ・インクルージョン推進本部の活動等の紹介	リーフレット
	DEI推進本部パンフレット（英語版）	不定期	R5年3月	ダイバーシティ・インクルージョン推進本部の活動等の紹介	リーフレット
	DEIニュースレター	年3回	R6年8月	DEIに関連するトピックやキーワード、学内の取組・活動等の紹介	チラシ
	DEI ANNUAL REPORT2023	不定期	R6年3月	ダイバーシティ・インクルージョン推進本部の2022年度の活動紹介	冊子
	DEI推進本部Webサイト	不定期	—	日本語でダイバーシティ・インクルージョン推進本部の取組および、女性リーダー育成型の紹介	Webサイト
	KNITWebサイト	不定期	—	日本語で北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの取組を紹介	Webサイト
	DEI推進本部Facebook（@hokudai.dei）	不定期	—	日本語でダイバーシティ・インクルージョン推進本部の取組を紹介	Webサイト
	DEI推進本部X（旧:Twitter）（@HokudaiDEI）	不定期	—	日本語でダイバーシティ・インクルージョン推進本部の取組を紹介	Webサイト
広報・社会連携本部	北海道大学基幹サイト（英語版）	不定期	—	英語で北海道大学に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学HUAPサイト（英語版）	不定期	—	英語で北海道大学アンバサダー・パートナーに関するお知らせ、イベント情報を紹介	Webサイト
	Facebook（@HokkaidoUni）	不定期	—	英語で北海道大学基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	北海道大学基幹サイト（英語版）	不定期	—	英語で北海道大学に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学HUAPサイト（英語版）	不定期	—	英語で北海道大学アンバサダー・パートナーに関するお知らせ、イベント情報を紹介	Webサイト
	リテラポプリ	年2回	R6年9月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介	冊子、PDF版
	リテラポプリ（英語版）	年2回	R6年7月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介	冊子、PDF版
	北海道大学統合報告書	年1回	R6年9月	本学の価値創造に向けた取組や、それを支えるガバナンス・財務など本学の現状をステークホルダーへわかりやすく伝えることを目指して発行	冊子、PDF版
	北海道大学統合報告書（英語ダイジェスト版）	年1回	R5年12月	本学の価値創造に向けた取組や、それを支えるガバナンス・財務など本学の現状をステークホルダーへわかりやすく伝えることを目指して発行	冊子、PDF版
	Facebook（@HokkaidoUni）	不定期	—	英語で北海道大学基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	X（旧:Twitter）（@HokkaidoUni）	不定期	—	英語で北海道大学基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	英文Instagram（@hokkaidouni）	不定期	—	英語で北海道大学の取組や風景を紹介	SNS
	和文Instagram（@hokkaidounivpr）	不定期	—	日本語で北海道大学の取組や風景を紹介	SNS
	Linkedin（@Hokkaido University）	不定期	—	英語で北海道大学の取組や風景を紹介	SNS
	Youtube（Hokkaido Uni）	不定期	—	英語で北海道大学の取組や風景を紹介	動画
	Tackling Global Issues	年1回	R2年12月	世界の課題解決を目指す北海道大学の先端研究を紹介	冊子、PDF版、ウェブ版
	Spotlight on Research	不定期	R5年2月	北海道大学の多彩な研究成果（該当年の英文プレスリリースから10本程度掲載）	冊子、PDF版
	HU At a Glance	不定期	R5年2月	一目でわかる北海道大学の概要	冊子、PDF版
	Reach　アウトリーチイベントのつくりかたハンドブック	不定期	H28年3月	教職員を対象としたアウトリーチのイベント企画のためのハンドブック	冊子、PDF版
	大地と森と海と―農林水産学の発展をめざして―	不定期	H31年3月	札幌農学校時代から140年以上受け継がれた、北海道大学の農林水産学の「今」を紹介するフォトブック。	冊子、PDF版
	リサーチタイムズ	不定期	—	インタビュー記事やイベントレポートなどを通して北大の研究を発信する	Webサイト
	北海道大学 Academic Fantasista（Facebook）	不定期	—	北大の研究者が知の最前線を、出張講義や現場体験を通して高校生たちに伝える事業を紹介	SNS

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
法学研究科・法学部	法学部案内	年1回	R6年7月	法学部での学生生活、学修内容や教員等の紹介	PDF版
	北大法学論集	年6回	R6年7月	文献の論説、資料の紹介及び判例研究を掲載	冊子、PDF版
	北大法政ジャーナル	年1回	R4年12月	法学研究科の「秀」及び「優」に相当する修士論文及びリサーチペーパー、並びに法科大学院修了者が修了の次年度1月末までに提出し「秀」及び「優」相当の修士論文と同等の水準を有すると認められた論文	冊子
	附属高等法政教育研究センターNewsLetter j-mail	不定期	H28年9月	主催シンポジウムの報告、所属教員・研究会の研究内容等を掲載	PDF版
	大志ある法曹をめざして（法科大学院パンフレット）	年1回	R6年3月	法科大学院の教育プログラム、教員の紹介、入試制度等を掲載	PDF版
	自己点検評価・外部評価報告書	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価報告書 法学研究科・法学部の外部評価報告書	冊子、PDF版
	自己点検・評価報告書評価資料集	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価に関する資料集	冊子
	知的財産法政策学研究	年3回	R6年10月	知的財産法政策学研究に関する研究報告	PDF版
水産科学院・水産科学研究院・水産学部	北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部概要	年1回	R6年7月	沿革、組織、講座等の紹介（一般向け）	PDF版
	北海道大学水産学部 PR誌 aQua	年1回	R6年7月	学部、学院、各学科及び各専攻の紹介（学生向け）	冊子、PDF版
	北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸	不定期	H27年1月	附属練習船おしょろ丸の概要紹介	冊子
	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸	不定期	R4年10月	附属練習船うしお丸の概要紹介	冊子
	北海道大学水産科学研究彙報（Bulletin of Fisheries Sciences、Hokkaido University）	年2回	R6年8月	英文・和文で書かれた報文、短報等をまとめたもの	PDF版
	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences、Hokkaido University（北海道大学大学院水産科学研究院紀要）	年1回	R3年12月	学術的価値を有し、まとまった研究成果を公表する報文、特定の分野に従来の研究を総合的にまとめた総合論文（レビュー）等を掲載	PDF版
	Data Record of Oceanographic Observations and Exploratory Fishing（海洋調査漁業試験要報）	年1回	R3年3月	本学部練習船を用いて行った海洋観測、生物調査、漁業試験結果の紹介	PDF版
	学生寮入寮案内 −北晨寮−	不定期	R6年1月	学生寮（北晨寮）の概要・入寮手続き等を掲載	PDF版
環境科学院・地球環境科学研究院	北海道大学大学院環境科学院の紹介	年1回	R6年度版（R6年4月）	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載	冊子
	英文リーフレット	年1回	R6年度版（R6年4月）	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載	冊子
理学院・理学研究院・理学部	北海道大学理学部　学部案内	年1回	R5年8月	理学部の学科紹介および概要	冊子、 PDF版
	北海道大学理学部広報誌「彩」	年2回	R6年8月	理学部各学科・教員・学生を特集で紹介、注目研究、理学部OB・OG紹介、退職教員からのメッセージ、理学部の歴史等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学理学部広報誌「彩」90周年特別号		R3年3月	理学部創立90年の歩みを振り返り、10年後に迎える100周年へのスプリングボードとする	冊子、PDF版
	International Course in Graduate School of Science（理学院パンフレット）	年1回	R3年4月	理学院の紹介（英文）	冊子、PDF版
	Faculty of Science （理学研究院パンフレット）	不定期	R3年4月	理学研究院の紹介（英文）	冊子、PDF版
	北海道大学理学研究院（公式ウェブサイト）	不定期	—	理学研究院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学理学部（公式ウェブサイト）	不定期	—	理学部に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学理学院（公式ウェブサイト）	不定期	—	理学院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	Facebook（@School.of.Science.HU）	ほぼ毎日	—	理学部に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	X（旧:Twitter）（@Science_HU）	ほぼ毎日	—	理学部に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	Youtube理学部公式（ScienceHU）	不定期	—	理学部の学科紹介や対談動画、イベント、風景等を紹介	動画
	Ph.Discover（公式ウェブサイト）	不定期	—	大学院生のキャリアパスに関するセミナー等の紹介、大学院生のセルフプロモーション	Webサイト
	北海道大学理学部数学科・理学院数学専攻パンフレット	年1回	R6年10月	数学科・数学専攻のスタッフ一覧、専門分野の紹介、履修、進路等について掲載	冊子、PDF版
	Hokkaido Mathematical Journal（紀要）	年3回	R6年10月	研究論文	WEB （PDF版）
	数学科目ガイド（平成23年度以降の入学者向け）	不定期	H30年4月	数学科の学部学生向け科目案内（全学教育科目、専門科目）	WEB （PDF版）
	数学科目ガイド（令和2年度以降の入学者向け）	不定期	R5年8月	数学科の学部学生向け科目案内（全学教育科目、専門科目）	WEB （PDF版）
	Hokkaido University Preprint Series in Mathematics	不定期	R6年8月	研究論文速報（HPにて公開）	WEB（HUSCAP）
	Hokkaido University Technical Report Series in Mathematics	不定期	R6年8月	研究集会、特別講演等、本学で講演されたもののアブストラクト集	WEB （HUSCAP）
	北海道大学理学部化学科パンフレット	不定期	R6年3月	化学科の研究室・研究内容等の紹介	パンフレット
	Annual Report（2020化学部門）	年1回	R3年7月	各研究室の研究業績・外部資金獲得状況等の紹介、各種大学院教育プログラム実績の紹介	WEB （PDF版）

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
理学院・理学研究院・理学部	北海道大学 理学部化学科･大学院理学研究院化学部門（公式ウェブサイト）	不定期	—	理学部化学科･大学院理学研究院化学部門に関するお知らせ、紹介動画、教育･研究活動などの情報を発信	WEBサイト
	物理学部門年次報告書	年1回	R3年4月	部門の活動一覧、各研究グループの成果報告	WEB
	北海道大学理学部物理学科パンフレット	不定期	H29年4月	カリキュラム、研究室等の紹介	
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）学科案内	不定期	R2年9月	高校生･一般向け講座紹介、入学から卒業までの過程、授業内容、卒業実習について、 大学院への進学、卒業後の進路掲載、 教員名簿	PDF版（WEBでも公開）
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）広報	不定期	R6年9月	高校生･一般向け講座紹介、教員紹介、研究動画･生き物紹介、 研究トピックス、 各種お知らせ、入学から卒業までの過程、授業内容等を掲載（HPにて公開）	WEB
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）パンフレット	年1回	R1年7月	学科内容、研究室紹介	パンフレット
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）「高分子図鑑」	不定期	H30年3月	主に個人インタビューに焦点を当てた学科内容、研究室紹介	WEB（youtube）
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）広報	不定期	R3年9月	学科内容、研究室紹介、留学･国際交流、卒業生の声、動画･高分子図鑑など	WEB
	北海道大学理学部生物科学科高分子･機能学「体験!研究者にインタビュー」	不定期	R4年10月	研究、研究者、研究室紹介	WEB
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）広報	随時	R4年10月	研究紹介、研究室紹介、学生の声、生協の献立	サイネージ
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）フライヤー	不定期	R4年7月	研究紹介、HPのURL、QRコード	フライヤー
	理学部SDGsチャネル	不定期	R2年9月	理学部のSDGsの取り組みの広報	デジタルサイネージ（理学部２号館玄関）
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻概要	年1回	H28年5月	専攻の組織、カリキュラム、講座紹介･教員紹介等を掲載	
	北海道大学理学部地球惑星科学科パンフレット	不定期	H29年4月	学科内容の紹介、教員紹介	
	北海道大学地球物理学研究報告	年1回以上	R4年3月	研究論文の発表	WEB（HUSCAP）
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座	不定期	R6年5月	ダイナミクス講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学分野	不定期	H28年3月	システム科学講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	不定期	R3年4月	学部学生を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載	パンフレット
	The Institute of Seismology and Volcanology Faculty of Science、Hokkaido University	不定期	H24年3月	外国人研究者及び留学生等を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター年報	年1回	R5年3月	センターとしての活動･研究活動･教育活動及び構成員名簿を掲載	WEB
薬学研究院・薬学部	北海道大学大学院薬学研究院･薬学部概要	年1回	R6年2月	薬学研究院･薬学部の沿革等の概要を掲載（日本語）	PDF版
	北海道大学薬学部　大学院生命科学院　生命科学専攻　生命医薬科学コース　臨床薬学専攻　パンフレット	隔年	R5年7月	学部紹介パンフレット	冊子
農学院・農学研究院・農学部	北海道大学大学院農学研究院･大学院農学院･農学部概要	年1回	R6年9月	農学研究院･農学院･農学部の沿革等の概要を掲載（和文･英文併記）	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要	年1回	R6年3月	農学研究院の学術研究論文誌	冊子、PDF版
	Journal of the Research Faculty of Agriculture、Hokkaido University（北海道大学大学院農学研究院欧文紀要）	年1回	R2年3月	農学研究院の学術研究論文誌	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要別冊「農経論叢」	年1回	R6年3月	農業経済に関する学術研究論文誌	冊子、PDF版
	Insecta Matsumurana	年1回	R5年10月	昆虫学に関する学術研究論文誌	冊子、PDF版
	農学部学部案内	年1回	R6年7月	各学科･附属施設の内容紹介（冊子）	冊子、PDF版
	20th Anniversary Commemorative Bulletin of the Special Post Graduate Program in English Graduate School of Agriculture Hokkaido University: 1997-2017	不定期	H29年11月	農学院英語コース20周年記念誌	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学院（リーフレット）	不定期	R5年12月	農学院の内容紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学研究院･大学院農学院･農学部Webサイト	不定期	—	日本語で大学院農学研究院･大学院農学院･農学部に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学大学院農学研究院･大学院農学院･農学部Webサイト（英語版）	不定期	—	英語で大学院農学研究院･大学院農学院･農学部に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	X（旧:Twitter）（@HokudaiAgr）	不定期	—	日本語で農学研究院･農学院･農学部ウェブサイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
生命科学院･先端生命科学研究院	北海道大学大学院先端生命科学研究院WEBマガジン「いいね!KOUBUNSHI」	不定期	—	研究紹介、教員･学生の紹介	Webサイト
	次世代物質生命科学研究センター News Letter	年1回	R5年11月	研究紹介、トピックス、受賞、GI-CoRE協力拠点（SMCR）	冊子、PDF版

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
生命科学院・先端生命科学研究院	次世代物質生命科学研究センター　広報	不定期	—	構成、研究活動、研究業績、研究資金、設備紹介、GI-CoRE協力拠点（SMCR）	サイネージ
	次世代物質生命科学研究センター（公式ウェブサイト）	不定期	—	構成、研究活動、研究業績、研究資金、設備紹介、GI-CoRE協力拠点（SMCR）	Webサイト
	北海道大学大学院生命科学院パンフレット	年1回	2022年度版	大学院受験生への学院紹介、研究概要、入試概要、施設・設備紹介	冊子、PDF版
	北海道大学薬学部　大学院生命科学院　生命科学専攻　生命医薬科学コース　臨床薬学専攻　パンフレット	隔年	R5年7月	薬学部、生命医薬科学コース、臨床薬学専攻の概要、カリキュラム、研究活動、施設・設備紹介	冊子
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース　研究室紹介	不定期	R6年4月	コース概要、研究室紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース（公式ウェブサイト）	不定期	—	研究活動、研究室紹介	Webサイト
	北海道大学大学院生命科学院　生命システム科学コース	不定期	R5年度版	コース概要、研究室紹介（日本語）	PDF版
	北海道大学大学院生命科学院　生命システム科学コース	不定期	R3年度版	コース概要、研究室紹介　（英語版）	PDF版
	北海道大学大学院生命科学院　生命システム科学コース	不定期	R3年3月	コース概要、研究室紹介　（英語版）	冊子
	北海道大学大学院生命科学院　生命システム科学コース X（旧:Twitter）（@hokudai_biosys）	不定期	—	日本語で研究成果や学生の受賞など活動成果をタイムリーにお知らせ。プレスリリースなどの情報も紹介	SNS
	北海道大学大学院生命科学院　ソフトマター専攻 研究室紹介	不定期	R6年4月	コース概要、研究室紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院生命科学院　ソフトマター専攻（公式ウェブサイト）	不定期	—	研究活動、研究室紹介	Webサイト
	北海道大学大学院先端生命科学研究院（公式ウェブサイト）	不定期	—	先端生命科学研究院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学大学院生命科学院（公式ウェブサイト）	不定期	—	生命科学院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学　先端NMRファシリティ	不定期	—	NMR装置群・共用利用事業の紹介、利用案内	Webサイト
教育学院・教育学研究院・教育学科	北海道大学教育学部案内	隔年	R5年3月	各研究室の紹介、卒業後の進路、学生の声、卒業生の声、国際交流状況等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院教育学院入学案内	隔年	R5年3月	各研究室を紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院教育学研究院紀要	年2回	R6年6月	研究の成果を論文として掲載	冊子、PDF版
	北海道大学教職課程年報	年1回	R6年3月	北海道大学教職課程に関連した調査研究及び授業実践等に関する論文や各種資料を掲載	冊子、PDF版
	ピンチのおとも	年1回	R6年3月	北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターの研究紹介及び所属教員執筆によるQ&A（北海道新聞連載）	冊子
	子ども発達臨床研究（センター紀要）	年１回	R6年6月	研究の成果を論文として掲載	冊子
国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院	Facebook（@HokkaidoUniv.IMCTS）	不定期	R4年9月	学院主催イベント、入試に関する案内、研究活動紹介等	SNS
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻　観光創造専攻（リーフレット）	年1回	R1年10月	学院の紹介、入試日程概要	冊子、PDF版
	自己点検・評価報告書　外部評価報告書	不定期	R3年3月	自己点検・評価報告、外部評価報告	冊子
保健科学院・保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科概要	年1回	R6年度	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載	PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科概要（英語版）	年1回	R6年度	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載	PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院広報「プラテュス」	年2回	R6年3月	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載	PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院（医学部保健学科）年報	年1回	R3年10月	沿革、組織、研究活動、教育活動等を掲載	PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院 北海道大学大学院保健科学院 北海道大学医学部保健学科自己点検・評価報告書	不定期	R2年1月	理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点等の自己点検・評価を報告	PDF版
	外部評価報告書	不定期	R2年9月	外部評価委員による、理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点等の評価を公表	PDF版
	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド	不定期	H27年6月	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド（日本語版、英語版）	冊子、PDF版
	YouTube（Health Sciences_Hokkaido Univ. / 北大保健科学）	不定期	—	医学部保健学科各専攻紹介、保健科学研究院各分野紹介、公開講座・保健科学セミナー・FHS International Conferenceでの講演を掲載	動画
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学大学院工学研究院・工学院・工学部概要（和文・英文）	年1回	R6年7月	沿革、組織、職員数等、工学研究院・工学院・工学部の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院工学研究院・工学院広報誌「えんじにあRing」	年3回	R6年8月	工学研究院・工学院の研究紹介、ニュース等を掲載	冊子、HTML版、PDF版

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学工学系教育研究センターリーフレット（和文／英文併記）	不定期	R6年3月	工学系教育研究センターの紹介	PDF版
	北大CEED（工学系教育研究センター）eラーニングのご案内（和文･英文）	不定期	R5年3月	工学系教育研究センターeラーニング教育プログラムで提供しているeラーニングに関する紹介、視聴方法等案内、多言語化への取組	パンフレット（紙媒体）
	北海道大学工学部のすべて 2023･2024（学部紹介パンフレット）	隔年	R5年7月	工学部への入学を目指す高校生等を対象に、工学部の概要、特に4学科15コースの内容を中心に紹介	冊子、PDF版
	Girls、Be ambitious!	不定期	H28年3月	工学部への入学を目指す女子学生を対象に、工学部を紹介するパンフレット	冊子、PDF版
	就職に強い!工学部	隔年	R5年7月	工学部･工学系大学院の就職状況を紹介	冊子、PDF版
	english engineering education PROGRAM	不定期	H31年3月	グローバル工学人材養成プログラム（e3）の概要紹介	冊子・PDF版
	北海道大学工学部 情報エレクトロニクス学科（パンフレット）	年1回	R6年4月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介	冊子、PDF版
	E.O	不定期	R3年4月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー･マテリアル融合領域研究センターパンフレット（和文･英文）	隔年	R5年11月	センターの沿革、組織、研究内容、業績等統計を掲載	冊子
	大学院工学研究院附属エネルギー･マテリアル融合領域研究センター 複合量子ビーム超高圧顕微解析研究室	不定期	H30年10月	超高圧電子顕微鏡及び周辺機器の仕様、研究例、沿革等を掲載	冊子
	大学院工学院／大学院工学研究院ウェブサイト	不定期	—	日本語で工学院、工学研究院に関するお知らせ等を紹介	Webサイト
	工学部ウェブサイト	不定期	—	日本語で工学部に関するお知らせ等を紹介	Webサイト
	X（旧:Twitter）（@hu_eng）	不定期	—	工学部各種イベント情報、教務情報等を紹介	SNS
	Instagram（eng_hokudai）	不定期	—	工学部、工学院、工学研究院の風景等を紹介	SNS
	Facebook（@hokkaidouniv.eng）	不定期	—	工学部、工学院、工学研究院に関するお知らせ等を紹介	SNS
	Youtube（北海道大学工学部）	不定期	—	研究室体験動画（オープンキャンパス）等を紹介	動画
	大学院工学研究院／大学院工学院／工学部ウェブサイト（英語版）	不定期	—	英語で工学研究院、工学院、工学部に関するお知らせ等を紹介	Webサイト
	工学系技術センターリーフレット	不定期	R3年12月	工学系技術センターの紹介	冊子、PDF版
	大学院工学研究院／大学院工学院／工学部ウェブサイト（英語版）	不定期	—	英語で工学研究院、工学院、工学部に関するお知らせ等を紹介	Webサイト
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院概要（英語併記）	年１回	R6年10月	沿革、組織、総合化学院の概要、研究室紹介等を掲載	冊子、PDF版
	ANNUAL REPORT 2023	年1回	R6年10月	総合化学院の特色ある教育活動、学生状況、分野（研究室）の教育研究活動を掲載	PDF版
経済学院・経済学研究院・経済学部	北海道大学大学院経済学研究院･大学院経済学院･経済学部概要	年1回	R6年4月	経済学研究院･経済学院･経済学部の沿革、組織、学生数、職員数等の概要を掲載	冊子、PDF版
	経済学研究（紀要）	年2回	R6年6月	経済学研究院･経済学院所属の教員･大学院生の研究論文を掲載	冊子、PDF版
	地域経済経営ネットワーク研究センター年報	年1回	R6年3月	経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターの研究成果を発信	PDF版
医学院・医学研究院・医学部	北海道大学大学院医学研究院･大学院医学院･医学部医学科概要（日本語版）	年1回	R6年9月	医学研究院･医学院･医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院･医学院･医学部医学科概要（英語版）	年1回	R5年10月	医学研究院･医学院･医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載（英文）	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院･大学院医学院･医学部医学科広報	年3回	R6年6月	医学研究院･医学院･医学部医学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院･大学院医学院･医学部医学科紹介DVD	不定期	H29年7月	入学志願者、一般向けにカリキュラム、医学研究院･医学院･医学部医学科の特色等を紹介	DVD
	北海道大学医学部医学科紹介動画（日本語版）	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	動画
	北海道大学医学部医学科紹介動画（英語版）	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	動画
	北海道大学医学部医学科案内	年1回	R6年6月	入学志願者、一般向け医学科案内	冊子、PDF版
	VIS-Voice of the International Students-国際連携部門だより（英語版）	年3回	R6年9月	留学生（大学院生･交換留学生）、医学科学生の意見、国際交流イベントの紹介･参加者の感想等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学　大学院医学院 修士課程案内（日本語版）	年1回	R6年5月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内	Webサイト
	北海道大学　大学院医学院 修士課程案内（英語版）	年1回	R6年7月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内（英文）	Webサイト
	北海道大学　大学院医学院 修士課程公衆衛生学コース　学生募集チラシ	不定期	R6年3月	入学志願者向けに募集案内	チラシ
	北海道大学　大学院医学院 修士課程公衆衛生学コース　学生募集チラシ（英語版）	不定期	R6年3月	入学志願者向けに募集案内（英文）	チラシ
	北海道大学　大学院医学院 博士課程案内（日本語版）	年1回	R6年5月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内	Webサイト

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
医学院・医学研究院・医学部	北海道大学　大学院医学院 博士課程案内(英語版)	年1回	R6年7月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内(英文)	Webサイト
	北海道大学大学院医学研究院 連携研究センター「フラテ」概要	年1回	R6年3月	センターの組織、研究概要、セミナー、研究業績等を掲載	PDF版
	医学院・医学研究院・医学部webサイト	不定期	—	日本語で医学部に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	医学院・医学研究院・医学部サイト(英語版)	不定期	—	英語で医学部に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	YouTube(北海道大学医学部)	不定期	—	医学部の取組をわかりやすく紹介	動画
	北海道大学医学部保健学科案内	年1回	H29年度版	受験生向け保健学科案内	
歯学院・歯学研究院・歯学部	北海道大学大学院歯学研究院・大学院歯学院・歯学部概要	年1回	R6年9月	沿革、組織等、研究院・学院・学部の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学歯学部学部紹介	年1回	R6年7月	歯学部を志願する高校生向けの学部案内	冊子、PDF版
	北海道大学大学院歯学院紹介	年1回	R6年7月	歯学院の志願者向けの大学院案内	冊子、PDF版
獣医学院・獣医学研究院・獣医学部	光れる北を	不定期	R3年12月	獣医学部案内	冊子、PDF版
	The Japanese Journal of Veterinary Research	年4回	R6年6月	欧文による研究論文の発表、広報	PDF版
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・獣医学部 概要(日本語・英語版)	不定期	H30年2月	獣医学研究院・獣医学部の沿革・組織・職員数等の概要を掲載	冊子
	獣医学研究院　附属動物病院	不定期	H27年10月	動物病院の施設・設備等診療案内	冊子
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・獣医学部　動物実験施設	不定期	H30年5月	動物実験施設の概要を掲載	冊子
	外部評価報告書	6年に1回	R4年3月	外部評価委員による、獣医学研究科・獣医学部の施設・設備等の評価を公表	冊子、PDF版
	自己点検評価報告書	6年に1回	R4年3月	獣医学研究科・獣医学部の点検・評価事項を公表	冊子（外部評価報告書に同梱）、PDF版
	One Healthフロンティア卓越大学院プログラム(パンフレット日本語版)	1回	H31年2月	One Healthフロンティア卓越大学院プログラムの概要を掲載	冊子、PDF版
	WISE Program for One Health Frontier Graduate School of Excellence(パンフレット英語版)	1回	H31年2月	One Healthフロンティア卓越大学院プログラムの概要を掲載	冊子、PDF版
	One Healthフロンティア卓越大学院プログラム NEWS LETTER	年2回	R6年6月	プログラムの特徴、学生支援制度、イベント案内、活動報告、教員・学生のメッセージを掲載	冊子、PDF版
	X(旧:Twitter)(@vetspecimen)	不定期	—	獣医学研究院の標本展示室を紹介	SNS
医理工学院	北海道大学　大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内(日本語版)	年1回	R6年4月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内	冊子、PDF版
	北海道大学　大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内(英語版)	年1回	R6年4月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内(英文)	冊子、PDF版
	北海道大学医理工学院 修士・博士後期課程紹介動画(日本語字幕版)	不定期	R6年2月	留学生向けに医理工学院の特色等を紹介	動画
	北海道大学医理工学院 修士・博士後期課程紹介動画(英語字幕版)	不定期	R6年3月	留学生向けに医理工学院の特色等を紹介	動画
	医理工学院webサイト	不定期	—	日本語で医理工学院に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	医理工学院webサイト(英語版)	不定期	—	英語で医理工学院に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
国際感染症学院	北海道大学　大学院国際感染症学院　設置案内(日本語・英語版)	不定期	H28年8月	大学院国際感染症学院の開設・カリキュラム案内	冊子、PDF版
国際食資源学院	北海道大学大学院国際食資源学院概要	年1回	R6年6月	国際食資源学院の沿革等の概要を掲載(和文・英文併記)	冊子、PDF版
	北海道大学大学院国際食資源学院基幹サイト	不定期	—	日本語で国際食資源学院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学大学院国際食資源学院基幹サイト(英語版)	不定期	—	英語で国際食資源学院に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	X(旧:Twitter)(@gfr_hu)	不定期	—	日本語と英語で国際食資源基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	Facebook(@GFR.HU.)	不定期	—	日本語と英語で国際食資源基幹サイトに掲載したお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
文学研究院・文学院・文学部	北海道大学大学院文学研究院・文学部概要	年1回	R6年8月	文学部の沿革、歴代学部長、組織運営等の概要を掲載	PDF版
	北海道大学大学院文学院案内	年1回	R6年6月	文学院の特徴、学院の担当教員や専攻・研究室紹介、学生生活、授業内容、入試情報、進路・就職情報等を掲載	PDF版
	北海道大学文学部案内	年1回	R6年7月	学部の担当教員や履修コース紹介、学生生活、授業内容、留学情報、入試情報、進路・就職情報等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学文学研究院・文学院・文学部　外部評価報告書	不定期	R4年3月	外部評価報告書	冊子
	北海道大学文学研究院紀要	年3回	R6年7月	文学研究院専任教員の研究成果を論文として掲載	PDF版
	北海道大学大学院文学院研究論集	年1回	R6年1月	文学院・文学研究科大学院学生の研究成果を論文として掲載	PDF版

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
文学研究院・文学院・文学部	北海道大学大学院文学研究院研究叢書	年1回	R4年12月	文学研究院専任教員の研究成果や共同研究の公表	冊子
	Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences	年1回	R6年2月	文学研究院教員及び文学院・文学研究科大学院学生等の研究成果を英文論文として掲載	PDF版
	北海道大学大学院文学研究院ライブラリ	年1～2回	R3年3月	文学研究院専任教員の研究成果や共同研究の成果、公開講座のテクストを掲載	冊子
	北海道大学大学院文学研究院楡文叢書	年1回	R5年12月	文学研究院専門研究員の研究成果の公表	冊子
	北海道大学大学院文学研究院・大学院文学院・文学部公式ウェブサイト	不定期	—	文学研究院・文学院・文学部に関する総合情報・入試情報・研究情報を発信（日本語版、英語版、露語版）	Webサイト
	Facebook（@Hokudai.Humanities.HumanSciences）	不定期	—	主に文学研究院の研究情報を中心に情報発信	SNS
	X（旧Twitter）（@HU_Bungaku）	不定期	—	文学研究院・文学院・文学部に関する情報を主として学生向けに発信	SNS
	Instagram（@hu_bungaku）	不定期	—	文学研究院・文学院・文学部に関する情報や風景を紹介	SNS
	YouTube（文学院広報動画）	不定期	—	文学研究院・文学院の大学院進学説明会用動画、北大人文学カフェ配信・事後視聴（期間限定）	動画
	文学院紹介動画	不定期	H30年6月	2019年4月設置の文学院の特徴を紹介する動画	動画
	北海道大学大学院文学院「#ほんもの」紹介動画	不定期	R5年3月	文学院で行われている研究のひとコマを「#ほんもの」というキーワードで紹介	動画
	北大人文学カフェ紹介ダイジェスト動画	不定期	R3年7月	文学研究院の研究を紹介する双方向型イベント北大人文学カフェの第1回～第26回のダイジェスト動画	動画
	プラス1ピースの読書会・動画版	不定期	R4年10月	文学研究院・書香の森で行っていたプラス1ピースの読書会の動画版	動画
	北海道大学大学院文学院　若手研究者支援リーフレット	不定期	R6年3月	文学研究院が大学院生向けに実施している独自の支援事業の概要を紹介するリーフレット	冊子
	文学院大学院進学説明会配付資料	年1回	R6年6月	文学院の入試情報、カリキュラム、支援情報、進路情報、学位論文題目などを掲載（R2年度は進学説明会をオンライン開催のため、冊子体は制作せずPDF版を配付）	PDF版
	Faculty of Humanities and Human Sciences/ Graduate School of Humanities and Human Sciences/ School of Humanities and Human Sciences	不定期	R1年7月	文学研究院・文学院・文学部の海外向け英文パンフレット、文学研究院・文学院・文学部の概要をコンパクトにまとめて掲載	冊子、PDF版
	Lab.letters magazine vol.1	不定期	R4年3月	文学研究院・文学院教員8名の研究と教育を紹介するインタビュー記事の英語版	冊子、デジタルパンフレット
	Lab.letters magazine vol.2	不定期	R5年3月	文学研究院・文学院教員8名の研究と教育を紹介するインタビュー記事の英語版	冊子、デジタルパンフレット
	Lab.letters magazine vol.3	不定期	R6年3月	文学研究院・文学院教員8名の研究と教育を紹介するインタビュー記事の英語版	冊子、デジタルパンフレット
	留学ガイドブック	年1回	R6年3月	部局間協定校へ留学を希望する、文学研究科・文学部の学生向けガイドブック	PDF版
	教養深化プログラムパンフレット	不定期	R4年3月	教養深化プログラムの概要を掲載	冊子
	教養深化プログラム授業概要	年1回	R5年3月	教養深化プログラムの案内、授業概要を掲載	冊子
	北海道大学教養深化プログラムWebサイト	不定期	—	教養深化プログラムの基本情報、イベントのお知らせなどを紹介	Webサイト
	Facebook（@cuenp.hokudai）	不定期	—	教養深化プログラムのイベントのお知らせなどを紹介	SNS
	Twitter（@cuenp_hokudai）	不定期	—	教養深化プログラムのイベントのお知らせなどを紹介	SNS
	Instagram（cuenp_hokudai）	不定期	—	教養深化プログラムの取組や風景を紹介	SNS
	Youtube（【公式】北海道大学教養深化プログラム）	不定期	—	教養深化プログラムの取組を紹介、説明会等のアーカイブを公開	動画
情報科学院・情報科学研究院	北海道大学大学院情報科学院パンフレット	年1回	R6年4月	情報科学院の研究内容等に関する紹介	冊子、PDF版
	北海道大学大学院情報科学院（日本語・英語併記リーフレット）	年1回	R6年4月	情報科学院の紹介	冊子、PDF版
	IST NEWS	年4回	R6年10月	情報科学院・情報科学研究院のニュースを掲載	PDF版
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部	外部評価委員会評価報告書	不定期	R6年3月	公共政策学連携研究部・教育部の外部評価報告書	冊子、PDF版
	年報公共政策学	年1回	R6年3月	公共政策に関する研究論文	冊子、PDF版
	HOPS　BOOKLET 2020 HOPS文理融合ルネッサンス―先端的政策課題のゆくえ―	不定期	R2年9月	2019年度開催　HOPS文理融合セミナーシリーズ（全6回）の記録	冊子
	大学院案内（日本語版）	年1回	R6年6月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介	冊子、PDF版
北海道大学病院	北海道大学病院概要	年1回	R6年8月	診療実績等の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学病院 医師臨床研修パンフレット	年１回	R6年3月	医師臨床研修プログラムを掲載	冊子・PDF版
	北海道大学病院 医師臨床研修プログラム	年１回	R5年3月	医師臨床研修プログラムを掲載	PDF版

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
北海道大学病院	北海道大学病院 歯科医師臨床研修プログラム	年1回	R6年4月	歯科医師臨床研修プログラムを掲載	PDF版
	北海道大学　臨床研修センター Resident NEWS letter「AMBITION」	休刊中	休刊中	当院医師臨床研修に係る最新情報を掲載	PDF版
	北海道大学病院 内科専門研修プログラム	不定期	R6年8月	当院内科領域の専門研修に係る情報を掲載	PDF版
	北海道大学病院 外科専門研修プログラム	不定期	R6年8月	当院外科領域の専門研修に係る情報を掲載	リーフレット、PDF版
	北海道大学病院　地域医療連携福祉センター NEWS LETTER	年2回	R3年6月	各診療科外来診療等紹介や院内の最新情報等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学病院　腫瘍センターNEWS	不定期	H26年11月	腫瘍センターの活動やがん診療に関する情報を掲載	PDF版
	北海道大学病院　看護部キャリア支援室だより「つながり」	年3回	R6年9月	当院看護師の成長支援に繋がる情報を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学病院　薬剤部概要	不定期	R6年7月	当院薬剤部業務の概要を掲載	PDF版
	北海道大学病院　臨床研究開発センター News	年12回	R6年10月	医療・ヘルスサイエンス研究開発機構に係る情報を掲載	PDF版
	北海道大学病院看護職員募集案内	年1回	R5年11月	看護職員教育プログラム他	冊子、PDF版
	Facebook（@北海道大学病院臨床研修センター（医科））	不定期	—	北海道大学病院臨床研修センターウェブサイトに掲載したお知らせや研修医の日常などの情報を紹介	SNS
	Instagram（hokudai_clinical_training）	不定期	—	北海道大学病院臨床研修センターウェブサイトに掲載したお知らせや研修医の日常などの情報を紹介	SNS
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所概要	隔年	R6年7月	研究所の沿革、組織、職員数等の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学低温科学研究所年次自己点検評価報告書－年報－	年1回	R6年9月	研究所の活動状況、研究成果、自己点検評価の結果を掲載（年報）	冊子、PDF版
	北海道大学低温科学研究所外部点検評価報告書	不定期	R2年3月	研究所の組織及び運営、教員人事、研究活動、大学院教育及び社会教育等の外部評価を掲載	冊子、PDF版
	低温研ニュース	年2回	R6年6月	研究紹介、シンポジウム報告、共同研究、人事異動等を掲載	冊子、PDF版
	環オホーツク観測研究センターリーフレット（日本語版・英語版）	不定期	R4年12月	環オホーツク観測研究センターの研究内容を紹介	冊子
	北海道大学低温科学研究所［ダイジェストガイド］	不定期	R4年11月	研究所の歴史、最新の研究内容、組織を紹介	冊子、PDF版
電子科学研究所	北海道大学電子科学研究所（概要）	隔年	R5年12月	研究所の概要の紹介用パンフレット（日本語版）	冊子
	Research Institute for Electronic Science（Hokkaido University）	隔年	R5年12月	研究所の概要の紹介用パンフレット（英語版）	冊子
	研究活動－点検評価報告書－	毎年	R5年12月	研究所の研究教育活動の年次報告	冊子
	第6回　外部評価報告書	不定期	R3年3月	研究所の研究教育活動の外部評価報告	冊子
	ダイナミック・アライアンス（要覧）	不定期	R3年度版	ダイナミック・アライアンスの紹介用パンフレット（日本語版）	冊子
	Dynamic Alliances for Open Innovation Bridging Human,Environment and Materials（Prospectus）	不定期	R3年度版	ダイナミック・アライアンスの紹介用パンフレット（英語版）	冊子
	ダイナミック・アライアンス/物質デバイス領域共同研究拠点　若手研究者支援プログラム2	不定期	R2年12月	若手研究者支援プログラムの紹介用パンフレット	冊子
	ニコンイメージングセンター（概要）	不定期	R3年3月	ニコンイメージングセンターの紹介用パンフレット	冊子
	物質・デバイス領域共同研究拠点（概要）	不定期	R4年8月	物質・デバイス領域共同研究拠点の紹介用パンフレット	冊子
	物質デバイス領域共同研究拠点/ダイナミック・アライアンス　研究成果報告書	不定期	R5年2月	物質デバイス領域共同研究拠点及びダイナミック・アライアンスの研究成果・活動報告書	冊子
	社会創造数学研究センター　研究活動報告書	不定期	R3年3月	社会創造数学センターの活動報告	冊子
遺伝子病制御研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所概要	隔年	R5年2月	研究所の活動や研究・教育成果等をカラーで分かりやすく紹介	冊子、PDF版
	北海道大学遺伝子病制御研究所年報	年1回	R6年9月	年度別に研究所の活動や研究成果、構成員名簿等を掲載	PDF版
	北海道大学遺伝子病制御研究所外部評価報告書	不定期	R4年3月	理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点、附属施設、各分野における研究概要と成果等を掲載	PDF版
	IGM News Letter	年1回	R4年11月	トピックス、お知らせ、共同研究採択課題一覧、研究業績紹介、新任教員紹介等を掲載	冊子、PDF版
	遺伝子病制御研究所webサイト	不定期	—	日本語で遺伝子病制御研究所に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	遺伝子病制御研究所webサイト（英語版）	不定期	—	英語で遺伝子病制御研究所に関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	YouTube（北海道大学遺伝子病制御研究所）	不定期	—	遺伝子病制御研究所の取組をわかりやすく紹介	動画
触媒科学研究所	触媒科学研究所概要	年1回	R6年5月	研究所の沿革、組織、研究概要を掲載（英文併記）	冊子、PDF版

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
触媒科学研究所	触媒科学研究所年報	年1回	R6年9月	沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学触媒科学研究所ウェブサイト	不定期	—	日本語で触媒科学研究所の基本情報、お知らせ、研究成果、共同利用・共同研究の公募などの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学触媒科学研究所ウェブサイト（英語版）	不定期	—	英語で触媒科学研究所の基本情報、お知らせ、研究成果などの情報を紹介	Webサイト
	x（@ICAT_Hokudai）	不定期	—	日本語で共同利用・共同研究の公募などの情報を紹介	SNS
人獣共通感染症国際共同研究所	北海道大学　人獣共通感染症国際共同研究所（日本語・英語版）	隔年	R5年9月	人獣共通感染症国際共同研究所の概要を掲載	冊子
	人獣共通感染症国際共同研究所年報	年1回	R6年3月	研究所の概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載	冊子
	外部評価報告書	6年に1回	R4年1月	外部評価委員による、人獣共通感染症国際共同研究所の研究業績・施設・設備等の評価を公表	冊子
	自己点検評価報告書	6年に1回	R4年1月	人獣共通感染症国際共同研究所の点検・評価事項を公表	冊子（外部評価報告書に同梱）
附属図書館	北海道大学附属図書館年報	年1回	R6年8月	附属図書館の活動のトピックス紹介、活動日誌、統計、組織等を掲載	PDF版
	北海道大学附属図書館本館利用案内／HOKKAIDO UNIVERSITY LIBRARY GUIDE for CENTRAL LIBRARY（リーフレット）　日英併記版	不定期	R5年8月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	北海道大学附属図書館北図書館利用案内（リーフレット）　日本語版	不定期	R6年3月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	Hokkaido University North Library Guide（リーフレット）　英語版	不定期	R6年3月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	北海道大学附属図書館北方資料概要	不定期	H30年6月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載	冊子
	Hokkaido University Library Northern Studies Collection	不定期	H30年3月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載（英文）	冊子
	楡蔭（北海道大学附属図書館報）	年2回	R6年10月	学生向けに附属図書館のサービス紹介、ニュース等を掲載	PDF版
	X（旧Twitter）（@Hokudai_Library）	不定期	—	図書館からのお知らせを発信	SNS
	note（Hokkaido University Library ）	不定期	—	附属図書館の職員たちが、日々の業務のこと、図書館員としてふと考えたことなどを紹介	SNS
スラブ・ユーラシア研究センター	SLAVIC-EURASIAN RESEARCH CENTER HOKKAIDO UNIVERSITY（概要）	不定期	R6年4月	センターの沿革、組織、職員紹介、研究活動等を掲載	冊子
	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターニュース	年4回	R6年7月	センターの最新の研究・行事・人事等の活動状況を掲載	冊子、PDF版
	スラブ・ユーラシア研究センターを研究する（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター点検評価報告書）	不定期	R2年3月	センターの自己点検評価報告、外部評価報告、活動記録報告	冊子、PDF版
	ACTA SLAVICA IAPONICA（欧文学術雑誌）	年1回	R6年3月	投稿論文を欧文で掲載（レフェリー制）	冊子、PDF版
	スラヴ研究（和文学術雑誌）	年1回	R6年8月	投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）	冊子、PDF版
	スラブ・ユーラシア研究報告集	不定期	R4年3月	研究報告会等での報告抄録等を掲載	冊子、PDF版
	Slavic-Eurasian Research Center News	年1回	R6年3月	センターの研究・行事・人事等の活動状況を欧文で掲載	冊子、PDF版
	Slavic Eurasian Studies（欧文論集）	不定期	R4年8月	シンポジウムのペーパー等を欧文で掲載	冊子、PDF版
	Eurasia Border Review	不定期	R5年9月	「境界研究」に関する特集論文を掲載	冊子、PDF版
	境界研究	年1回	R6年3月	「境界研究」に関する投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）	冊子、PDF版
	スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）メールマガジン	月1回	R6年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載	メールマガジン
	X（旧:Twitter）（スラブ・ユーラシア研究センター（SRC））	不定期	R6年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載	SNS
	facebook（スラブ・ユーラシア研究センター（SRC））	不定期	R6年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載	SNS
情報基盤センター	情報基盤センター概要	年1回	R5年8月	センターの沿革、組織、研究概要を掲載	冊子、PDF版
	情報基盤センター概要（英語版）	隔年	R4年10月	センターの沿革、組織、研究概要を英文で掲載	冊子、PDF版
	情報基盤センター年報	年1回	R6年1月	センターの沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載	冊子、PDF版
	情報基盤センターウェブマガジン	年4回	R6年3月	センター全体の内容をカバーするインタビュー記事等を掲載	Webサイト
	Youtube（北海道大学情報基盤センター）	不定期	—	センターで開催された行事等の動画を掲載	動画
アイソトープ総合センター	センター概要	隔年	R5年2月	センターの施設案内、沿革等を掲載	冊子
	アイソトープ総合センター利用マニュアル	隔年	R6年3月	センターの利用に関する規程等、利用に関する情報をわかりやすく掲載	冊子
	北海道大学アイソトープ総合センター自己点検・評価報告書	年1回	R6年7月	センターの利用状況、共同研究一覧、活動報告等を掲載	冊子
	センターニュース（CIS NEWS）	年1回	R6年3月	センターの最新機器の紹介、講義、講習会のお知らせ等のニュースを掲載	冊子

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
アイソトープ総合センター		アイソトープ総合センターwebサイト	不定期	—	日本語でアイソトープ総合センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
		アイソトープ総合センターwebサイト（英語版）	不定期	—	英語でアイソトープ総合センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
量子集積エレクトロニクス研究センター		北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター（概要・和文）	不定期	R4年10月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載	HTML（PDF）版
		北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター（概要・英文）	不定期	R5年6月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載	HTML（PDF）版
		量子集積エレクトロニクス研究（研究報告）	年1回	R6年6月 第23巻	センターの研究目的、組織、研究内容、施設・設備と、研究活動及び研究成果の報告	冊子
		量子集積エレクトロニクス研究センター自己点検評価書	年1回	R6年6月	研究・教育活動成果に基づく自己点検評価書	冊子、HTML（PDF）版
北方生物圏フィールド科学センター	企画調整室	北方生物圏フィールド科学センター	不定期	R4年7月	沿革、組織、研究内容等の概要を掲載	冊子、PDF版
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター年報	年1回	R4年4月	各施設の教育・研究動向、職員の研究業績一覧、施設の利用状況等を掲載	PDF版
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センターNews Letter	年数回	R6年3月	センターの活動紹介、イベントなどのお知らせ、ショートエッセイ等を掲載	PDF版
		北方圏基幹サイト	不定期	—	日本語で北方圏に関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
		Facebook（FSCHokkaidoU）	不定期	—	日本語で北方圏に関するお知らせ、リリース、風景や研究教育活動などの情報を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@fsc_office）	不定期	—	日本語で北方圏に関するお知らせ、リリース、風景や研究教育活動などの情報を紹介	SNS
	森林圏ステーション	演習林研究報告	不定期	R4年5月	森林科学関連分野及び森林圏ステーション関連の研究論文（和文）を掲載。国内外の関係機関等にも送付	HUSCAP
		Eurasian Journal of Forest Research	不定期	R4年4月	「演習林研究報告」の英語論文分冊。国内外の関係機関等にも送付	HUSCAP
		森林圏ステーション年度報告	年1回	R5年3月	森林圏ステーション管理面の資料を掲載	PDF版
		北方森林保全技術	年1回	R4年12月	森林圏ステーション技術系職員が試験年報報告会で発表した論文等を掲載。国内の関係機関等にも送付	HUSCAP、PDF版
		森林圏ステーション概要	不定期	H30年3月	施設の紹介	印刷発行
		森林圏ステーション概要（英語版）	不定期	H31年1月	施設の紹介	印刷発行
		森林圏ステーションウェブサイト	不定期	—	森林圏ステーションに関するお知らせ、イベント情報の情報を紹介	Webサイト
		苫小牧研究林ウェブサイト	不定期	—	苫小牧研究林に関するお知らせ、イベント情報などの情報を紹介	Webサイト
		和歌山研究林ウェブサイト	不定期	—	和歌山研究林に関するお知らせ、イベント情報などの情報を紹介	Webサイト
		X（旧:Twitter）（@hokudai_forest）	不定期	—	森林圏ステーションの取組や風景を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@tmk_eX（旧:Twitter）forest）	不定期	—	苫小牧研究林の取組や風景を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@FSC_Wakayama）	不定期	—	和歌山研究林の取組や風景を紹介	SNS
		Facebook（北海道大学 中川研究林）	不定期	—	中川研究林に関するお知らせ、イベント情報などの情報を紹介	SNS
		Facebook（北海道大学天塩研究林）	不定期	—	天塩研究林に関するお知らせ、イベント情報などの情報を紹介	SNS
		Youtube（北海道大学和歌山研究林）	不定期	—	和歌山研究林の取組や風景を紹介	SNS
		ブログ（北大フィールド科学センター 森林実習ブログ）	不定期	—	森林圏ステーションで開催された実習等を紹介	SNS
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部天塩研究林（リーフレット）	年１回	R6年4月	日本語で天塩研究林に関する情報を紹介	冊子
		カラマツ林の炭素循環機能に関する観測研究（天塩研究林）（リーフレット）	不定期	—	日本語でカラマツ林の炭素循環機能に関する観測研究に関する情報を紹介	冊子
	生物生産研究農場	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場	不定期	—	日本語で農場に関する情報を紹介	Webサイト
		北海道大学生物生産研究農場 / Hokkaido University, Experiment Farm	不定期	—	日本語で農場に関する情報を紹介	SNS
	植物園	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園（概要パンフレット）英語併記	不定期	H29年8月	植物園の沿革、組織等の概要を掲載	冊子
		植物園だより（リーフレット）	年6回	R6年10月	園内展示植物の紹介	チラシ、PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）日本語版	年1回	R5年4月	植物園内の解説	リーフレット、PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）英語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）中国語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）韓国語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、PDF
		X（旧:Twitter）（北海道大学植物園【公式】）	不定期	—	植物の開花情報等に関するお知らせ	SNS

部局名		広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
北方生物圏フィールド科学センター	植物園	Facebook（北海道大学植物園【公式】）	不定期	—	植物の開花情報等に関するお知らせ	SNS
		Instagram（北海道大学植物園【公式】）	不定期	—	植物の開花情報等に関するお知らせ	SNS
		北大植物園技術報告・年次報告	年1回	R4年3月	植物園の活動内容	冊子、PDF
		北大植物園研究紀要	不定期	R1年5月	研究報告	冊子、HUSCAP
		北大植物園資料目録	不定期	H28年2月	資料目録	冊子、PDF
		北海道大学植物園	不定期	—	日本語・英語で植物園に関する情報を紹介	Webサイト
	静内研究牧場	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場	不定期	—	日本語・英語で牧場に関する情報を紹介	Webサイト
	厚岸臨海実験所	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所	不定期	—	日本語・英語で厚岸臨海実験所に関する情報を紹介	Webサイト
		Akkeshi Marine Station, Hokkaido University	不定期	—	日本語・英語で厚岸臨海実験所に関する情報を紹介	SNS
	拠点	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター寒流域生物・生態系の国際的共同利用拠点	不定期	—	日本語・英語で拠点に関する情報を紹介	Webサイト
	室蘭臨海実験所	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所	不定期	—	日本語・英語で室蘭臨海実験所に関する情報を紹介	Webサイト
		Facebook北海道大学室蘭臨海実験所 Muroran Marine Station, Hokkaido University	不定期	—	日本語・英語で室蘭臨海実験所に関する情報を紹介	SNS
		X（旧:Twitter）（@FscMuroran）	不定期	—	日本語・英語で室蘭臨海実験所に関する情報を紹介	SNS
	洞爺臨湖実験所	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション洞爺臨湖実験所	不定期	—	日本語・英語で洞爺臨湖実験所に関する情報を紹介	Webサイト
	臼尻水産実験所	臼尻水産実験所	不定期	—	日本語・英語で臼尻水産実験所に関する情報を紹介	Webサイト
	七飯淡水実験所	北海道大学七飯淡水実験所	不定期	—	日本語・英語で七飯淡水実験所に関する情報を紹介	Webサイト
	拠点	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター食糧基地拠点	不定期	—	日本語・英語で拠点に関する情報を紹介	Webサイト
	忍路臨海実験	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション忍路臨海実験	不定期	—	日本語・英語で忍路臨海実験所に関する情報を紹介	Webサイト
観光学高等研究センター		CATS パンフレット	年１回	R6年5月	観光学高等研究センターの紹介	PDF版
		Youtube（北海道大学観光学高等研究センター（CATS）【公式】）	不定期	—	日本語・英語でオンライン観光創造フォーラム（TOFS）をアーカイブ配信	動画
		北海道大学観光学高等研究センター ウェブサイト	不定期	—	センターに関するお知らせ、イベント開催などの情報をニュースで紹介	Webサイト
アイヌ・先住民研究センター		アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット日本語版）	不定期	R5年5月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを日本語で紹介	冊子
		アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット英語版）	不定期	R5年11月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを英語で紹介	冊子
		アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット中国語版）	不定期	R5年5月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを中国語で紹介	冊子
		日本国憲法と先住民族であるアイヌの人びと（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット1号）	不定期	H25年2月	アイヌ・先住民研究センターが2011年10月に主催した講演会の講演内容を紹介	冊子
		トンコリの世界（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット2号）	不定期	H26年3月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介	冊子
		The Ainu : Indigenous People of Japan（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット3号）	不定期	H29年3月	ワシントンD.C.での国際シンポジウムにおける報告をまとめ、現代のアイヌ民族の活動等を海外に向けて英文で紹介	冊子
		花とイナウ―世界の中のアイヌ文化―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット4号）	不定期	H31年3月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介	冊子
		台湾の原住民族政策―民族認定と博物館―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット5号）	不定期	H27年4月	アイヌ・先住民研究センターが2012年と2014年に主催した台湾の原住民族政策に関するシンポジウムの講演内容を紹介	冊子
		古川アシノカルの生涯―新冠地方の故事と伝承―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット6号）	不定期	H28年3月	北海道日高郡新ひだか町在住の狩野義美氏が書き記した文章の中から大叔父の古川アシノカル氏らに係るものを集成	冊子
		The World of Tonkori（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット7号）	不定期	H29年3月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介したブックレット2号の英語版	冊子
		An Introduction to Ainu Studies（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット8号）	不定期	H30年3月	アイヌ・先住民研究センターの研究内容を海外に向けて英文で紹介	冊子
		Flowers and Inaw-Ainu Culture in the World-（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット9号）	不定期	H30年3月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介したブックレット4号の英語版	冊子
		アイヌ・先住民研究センターの10年-2007～2017-（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット10号）	不定期	H30年9月	アイヌ・先住民研究センターの10年間の研究の成果と今後の展開について主要なプロジェクトごとにとりまとめた報告書	冊子
		民族のあり方と先住民族政策-台湾平埔族の原住民族認定をめぐって-（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット11号）	不定期	H31年4月	ブックレット第5号に続く、台湾平埔族をめぐる原住民族政策の新しい展開についての報告書	冊子

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
アイヌ・先住民研究センター	つないでほどく　アイヌ/和人（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット12号）	不定期	R4年3月	アイヌ民族や和人とアイデンティティ、先住民族概念や日常的に起こる差別・抑圧などを解説	冊子・PDF版
	Connecting and Disentangling Ainu and Wajin（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット13号）	不定期	R5年3月	アイヌ民族や和人とアイデンティティ、先住民族概念や日常的に起こる差別・抑圧などを解説したブックレット12号の英語版	冊子
	アイヌ・先住民研究2023	年1回	R5年3月	アイヌ民族・先住民族研究を対象とした査読付き学術雑誌	冊子・PDF版
	アイヌ・先住民研究2024	年1回	R6年3月	アイヌ民族・先住民族研究を対象とした査読付き学術雑誌	冊子・PDF版
	アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究（12）	不定期	R5年3月	アイヌ・先住民研究センターが2022年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究（13）	不定期	R6年3月	アイヌ・先住民研究センターが2023年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
社会科学実験研究センター	北海道大学社会科学実験研究センター年次活動報告書	年1回	R6年4月	社会科学実験研究センターの概要、教育研究活動の実績、組織構成を掲載（HPよりダウンロード可能）	冊子、PDF
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）英語版	不定期	H27年8月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介	冊子
環境健康科学研究教育センター	北海道大学環境健康科学研究教育センター年報	隔年	R4年10月	環境健康科学研究教育センターの概要、部門報告、業績一覧、委員会名簿等を掲載	冊子
	環境健康科学研究教育センターリーフレット（英語版、日本語版）	不定期	R4年2月	環境健康科学研究教育センターの組織、概要、活動内容を分かりやすく掲載	リーフレット
	環境健康科学研究教育センターwebサイト	不定期	—	日本語で環境健康科学研究教育センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	環境健康科学研究教育センターwebサイト（英語版）	不定期	—	英語で環境健康科学研究教育センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
北極域研究センター	北極域研究センターパンフレット（日本語版）	不定期	R5年8月	北極域研究センターの概要	冊子、PDF版
	北極域研究センターパンフレット（英語版）	不定期	R5年8月	北極域研究センターの概要	冊子、PDF版
	北極域研究センターウェブサイト（日本語版）	不定期	—	日本語で北極域研究センターに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北極域研究センターウェブサイト（英語版）	不定期	—	英語で北極域研究センターに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	Facebook（ARCHokkaidoU）	不定期	—	日本語及び英語で北極域研究センターに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	X（旧:Twitter）（@ARC_HokkaidoU）	不定期	—	日本語及び英語で北極域研究センターに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	SNS
	Youtubeチャンネル 北海道大学北極域研究センター	不定期	—	オンラインイベントのアーカイブ掲載	動画
	北海道大学フューチャー・アースコンソーシアム（HUFEC）日本語版	不定期	—	日本語で北海道大学フューチャー・アースコンソーシアムに関する概要、体制、ニュース、イベントなどを紹介	Webサイト
	北海道大学フューチャー・アースコンソーシアム（HUFEC）英語版	不定期	—	英語で北海道大学フューチャー・アースコンソーシアムに関する概要、体制、ニュース、イベントなどを紹介	Webサイト
広域複合災害研究センター	CNHR Newsletter	年4回	R6年10月	広域複合災害研究センター（CNHR）の活動や所属メンバーの研究成果、関係するイベント情報、道内の自然災害の発生情報、センターメンバーの紹介	PDF版
	広域複合災害研究センターWebサイト	不定期	—	日本語で広域複合災害研究センターに関するお知らせ、リリースなどの情報を紹介	Webサイト
	北海道大学広域複合災害研究センター	不定期	R6年4月	広域複合災害研究センターの紹介	フライヤー
	広域複合災害研究センター活動報告書	年1回	R5年3月	広域複合災害研究センターの年次活動報告（研究、教育、アウトリーチ等）	冊子、PDF版
脳科学研究教育センター	北海道大学脳科学研究教育センター概要	隔年	R6年6月	センターの組織、脳科学（発達脳科学）専攻（バーチャル専攻）の概要等を掲載	冊子
	脳科学研究教育センターwebサイト	不定期	—	日本語で脳科学研究教育センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
	脳科学研究教育センターwebサイト（英語版）	不定期	—	英語で脳科学研究教育センターに関するお知らせなどの情報を紹介	Webサイト
外国語教育センター	HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR LANGUAGE LEARNING	不定期	H21年4月	外国語教育センターの紹介	冊子
	自己点検・評価報告書　外部評価報告書	不定期	R3年3月	自己点検・評価報告、外部評価報告	冊子
数理・データサイエンス教育研究センター	数理・データサイエンス教育研究センターパンフレット	不定期	R3年3月	数理・データサイエンス教育研究センターの概要	冊子
	数理・データサイエンス教育研究センターフライヤー	不定期	R3年8月	数理・データサイエンス教育研究センターの取り組み（教育プログラム、創造的人材育成基盤「北大モデル」、教育プラットフォームなど）を紹介	フライヤー
人間知・脳・AI研究教育センター	北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター・ウェブサイト	不定期	—	人間知・脳・AI研究教育センターに関する研究・教育・イベント情報を発信（日本語版、英語版）	Webサイト
	Facebook（@CHAIN.HU1）	不定期	—	人間知・脳・AI研究教育センターに関するニュースを情報発信	SNS

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	形態
人間知・脳・AI研究教育センター	X（旧Twitter）（@ChainHokudai）	不定期	—	人間知･脳･AI研究教育センターに関するニュースを情報発信	SNS
	YouTube（北海道大学 人間知･脳･AI研究教育センター（CHAIN））	不定期	—	CHAINセミナー･教育プログラム説明会動画など	SNS
	北海道大学人間知･脳･AI研究教育センター･パンフレット	不定期	R4年10月（R6年12月頃更新予定）	人間知･脳･AI研究教育センターの紹介	冊子、PDF版
	北海道大学人間知･脳･AI研究教育センター点検評価報告書	年1回	R5年12月	研究所の活動状況、研究成果、自己点検評価の結果を掲載（年報）	PDF版
総合博物館	総合博物館展示リーフレット（見学者配付用資料）	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介･利用案内を見学者に紹介	冊子、PDF版
	An Introduction to The Hokkaido University Museum	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介･利用案内を見学者に紹介（リーフレット）	冊子、PDF版
	北海道大学総合博物館外部点検評価報告書（平成28年度～令和2年度）	不定期	R4年5月	外部点検評価委員会による総合博物館の評価	PDF版
	北海道大学総合博物館点検評価報告書（平成28年度～令和2年度）	不定期	R3年6月	北海道大学総合博物館点検評価委員会委員による総合博物館の評価	PDF版
	北海道大学総合博物館研究報告	不定期	R6年3月	研究報告 No.1（2003.3）-No.9（2024.3）	冊子
	北海道大学総合博物館年報	年1回	R6年6月	博物館及び博物館教員の活動記録 H16年度 H18･19年度 H20･21年度 H22･23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度 R4年度 R5年度	PDF版
	北海道大学総合博物館ニュース	年1～2回	R6年6月	博物館の活動状況･出来事･ニュース･特別寄稿等を掲載　No.1（1999.7）-No.48（2024.6）	冊子、PDF版
	Guidebook:Museum Meister Course、The Hokkaido University Museum	年1回	R6年度版	総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの案内	冊子、PDF版
大学文書館	北海道大学大学文書館年報	年1回	R6年3月	研究論文、資料紹介･目録、業務記録等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学文書館概要	年1回	R5年6月	大学文書館の概要、案内図、館内写真等を掲載	リーフレット
	北海道大学大学文書館施設見学配布資料	年1回	R6年9月	大学文書館の概要、案内図、所蔵資料の紹介等を掲載	冊子
	北海道大学大学文書館リーフレット	不定期	H31年1月	大学文書館の概要、所蔵資料の紹介、利用に関する案内等を掲載	リーフレット
	北海道大学大学文書館利用案内（簡易版）	不定期	H31年1月	大学文書館の利用方法に関する案内を掲載	リーフレット、PDF版
	北海道大学大学文書館利用案内（冊子版）	不定期	H31年4月	大学文書館の利用方法に関する案内を掲載	冊子
	北海道大学150年史編集室リーフレット	不定期	R5年4月	150年史編集室の概要、活動案内等を掲載	リーフレット、PDF版
	北海道大学150年史編集ニュース	年1回	R6年7月	150年史編集室の活動内容、北大史小話を掲載	冊子、PDF版
埋蔵文化財調査センター	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター	年3回	R6年3月	構内の遺跡、埋蔵文化財調査センターの活動内容を紹介	冊子、PDF版
	北大構内の遺跡	年1回	R6年3月	北大構内（札幌キャンパス）における埋蔵文化財の調査報告	冊子、PDF版
国際連携研究教育局	GI-CoRE概要（英語･日本語表記）	不定期	H29年6月	国際連携研究教育局の概要、各グローバルステーション（量子、人獣、食水土、ソフトマター、ビッグデータ、北極域）の紹介	パンフレット
	量子医理工学グローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R2年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	人獣共通感染症グローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R2年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	食水土資源グローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R2年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	ソフトマターグローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R3年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	ビッグデータ･サイバーセキュリティグローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R3年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	北極域研究グローバルステーション 外部評価報告書（主に英語･一部日本語表記）	GS設置最終年度1回	R3年7月	評価に係る詳細･評価委員による評価調書･自己点検成果報告書	冊子
	GSI 先住民･文化的多様性研究グローバルステーション GSI Global Station for Indigenous Studies and Cultural Diversity	不定期	R4年3月	先住民･文化的多様性研究グローバルステーションの紹介	パンフレット
	GSI 先住民･文化的多様性研究グローバルステーション GSI Global Station for Indigenous Studies and Cultural Diversity	不定期	R6年4月	先住民･文化的多様性研究グローバルステーションの紹介	冊子、PDF版

（社会共創部広報課）

編集メモ

●10月26日（土）及び27日（日）、第13回北大金葉祭が開催されました。
屋台での焼き芋、焼きそばの提供や、子供向けの工作企画、音楽系サークルなどの学生パフォーマンス、そしてイチョウ並木のライトアップが行われました。
当日は多くの方々が来場され、黄葉の美しさと様々な企画を楽しまれた様子でした。

●12月1日（日）より本学公式クラウドファンディングのプロジェクト第8弾がはじまります。
詳細は、QRコードからご覧ください！

北海道大学クラウドファンディング
https://readyfor.jp/pp/hokudai

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景はイチョウ並木です。金葉祭で実施されたライトアップの様子をお届けします。
風に揺れる黄色の波が、肌寒さとともに秋の終わりを感じさせます。札幌キャンパスにもうすぐ、長い冬がやってきます。

キャンパス風景 56 イチョウ並木（北13条西5～7丁目）

北大時報 ⑪　No.848　　令和6年11月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html